

民生委員・児童委員に対するひきこもり実態調査
報告書

令和3年12月

三重県

目次

I. 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査期間	1
3 調査対象及び回収率	1
4 調査方法	1
5 調査項目	2
6 集計結果の数字の見方	2
II. 調査結果	3
1 ひきこもり実態把握数表	3
2 民生委員・児童委員に対する質問項目	4
(1) 担当地区におけるひきこもり状態にある方はいますか？	4
(2) 担当する地区にひきこもり状態にある方がいることをどのような方法で知りましたか。	6
(3) ひきこもりに係る相談・支援において、連携している関係機関を教えてください。	10
(4) 民生委員・児童委員の皆様がひきこもり支援で困っていることについて教えてください。	15
(5) 民生委員・児童委員の皆様がひきこもり支援のために必要と考える施策を教えてください。	21
(6) ひきこもりの状態から社会復帰した人を知っていますか。	27
(7) 民生委員・児童委員の皆様が地域共生社会の実現に向けて地域に求めることを教えてください。	30
3 ひきこもり状態の方に関する質問項目	32
(1) 性別	32
(2) 年齢	34
(3) 家族構成	38
(4) 外出状況	44
(5) ひきこもりの状態になってからの期間	49
(6) ひきこもりの状態になった経緯・きっかけ	53
(7) 現在の支援状況	61
(8) 支援の希望の有無	64
(9) 必要な支援策	68
(10) 普段、自宅でよくしていること	74
(11) 普段、通信手段で利用しているもの	82
(12) 普段、悩み事を相談する相手	88
III. 考察・まとめ	94
IV. 使用した調査票	96

I. 調査概要

1 調査目的

県内で活動している民生委員・児童委員を対象に、日頃から把握されているひきこもり状態にある方の数や状況等についてアンケート形式で調査し、県内におけるひきこもりの実態を把握することで、ひきこもり支援に特化した計画の策定や必要な支援に関する施策を検討するための基礎資料とする。

2 調査期間

令和3年7～8月

3 調査対象及び回収率

(1) 調査対象：概ね15歳（中学校卒業後）以上で、ひきこもり状態にある者

〈ひきこもりの定義〉

・社会的参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）ができない状態が6か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態。

・時々買い物などで外出することはあるが、それ以外の社会的参加ができない状態。

※ただし、重度の障がい（身体・知的・精神）、疾病、高齢等で外出できない者を除く

(2) 回答数：3,777人（令和3年5月末現在の実数：4,088人）

(3) 回収率：92.4%

4 調査方法

県内で活動している民生委員・児童委員（主任児童委員を含む）に対して、担当する地区におけるひきこもり状態にある方の数や状況等について、アンケート形式で調査を行う。

実施方法は、次のとおりとした。

- ① ひきこもり状態にある方の数の把握
- ② ひきこもりの属性やひきこもり支援についての意見等の把握

5 調査項目

概ね次の内容を基本としてアンケートを実施する。

(基本項目) ※全ての民生委員・児童委員が対象

- ① 担当地区におけるひきもり状態にある方の数
- ② 担当地区にひきこもり状態にある方がいることをどのような方法で知ったか
- ③ ひきこもりに係る相談・支援において、連携している関係機関
- ④ 民生委員・児童委員がひきこもり支援で困っていること
- ⑤ 民生委員・児童委員がひきこもり支援のために必要と考える施策
- ⑥ ひきこもり状態から社会復帰した人を知っているか (知っている/知らない)
→知っている場合：社会復帰のきっかけや役に立ったことについて、知っていることがあれば記載する
- ⑦ 民生委員・児童委員が地域共生社会の実現に向けて地域に求めること

6 集計結果の数字の見方

図の[N]は回答総数 (または該当者のみ対象とした質問における対象者数)

また、下記の設問に関しては回答項目を元に追加の集計属性を定義している。

■家族構成について

・父母のみとの同居：「父母」を選択した回答のうち、他の質問項目を重複して選択していない回答

・配偶者または子どものみとの同居：「配偶者」または「子ども」を選択した回答のうち、他の質問項目を重複して選択していない回答

■ひきこもりの状態になった経緯・きっかけ

・不登校 (全体)：「不登校 (小)」「不登校 (中)」「不登校 (高)」「不登校 (大)」「不登校 (不明)」の何れかに該当するひきこもり状態にある方

・就労関係：「就職活動がうまくいかなかった」「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」「退職」の何れかに該当するひきこもり状態にある方

尚、特筆しない限りは「不明」、「特になし」を除いて多い順に評価した。

II. 調査結果

1 ひきこもり実態把握数表

市町及び圏域別のひきこもり状態にある方の数は以下のとおりとなりました。

	ひきこもり状態にある方の数		「いる」と回答した民生委員数	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
津市	124	9.8%	88	10.6%
四日市市	131	10.3%	86	10.3%
伊勢市	96	7.6%	56	6.7%
松阪市	116	9.1%	75	9.0%
桑名市	68	5.4%	45	5.4%
鈴鹿市	58	4.6%	41	4.9%
名張市	66	5.2%	46	5.5%
尾鷲市	8	0.6%	5	0.6%
亀山市	47	3.7%	29	3.5%
鳥羽市	33	2.6%	19	2.3%
熊野市	49	3.9%	31	3.7%
いなべ市	32	2.5%	25	3.0%
志摩市	66	5.2%	37	4.5%
伊賀市	93	7.3%	66	7.9%
木曾岬町	1	0.1%	1	0.1%
東員町	13	1.0%	11	1.3%
菰野町	48	3.8%	35	4.2%
朝日町	10	0.8%	6	0.7%
川越町	14	1.1%	7	0.8%
多気町	38	3.0%	20	2.4%
明和町	14	1.1%	9	1.1%
大台町	14	1.1%	11	1.3%
玉城町	3	0.2%	3	0.4%
度会町	18	1.4%	8	1.0%
大紀町	17	1.3%	11	1.3%
南伊勢町	24	1.9%	11	1.3%
紀北町	48	3.8%	34	4.1%
御浜町	13	1.0%	7	0.8%
紀宝町	8	0.6%	8	1.0%

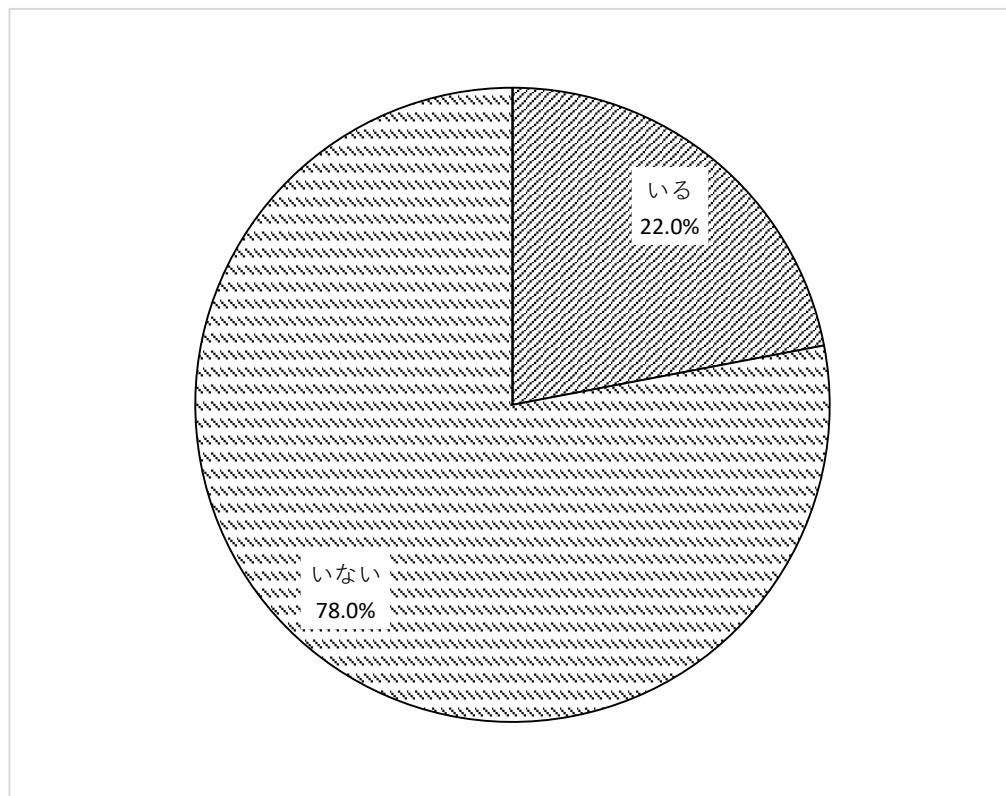
	ひきこもり状態にある方の数		「いる」と回答した民生委員数	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
北勢	422	33.2%	286	34.4%
中勢	306	24.1%	203	24.4%
南勢 志摩	257	20.2%	145	17.4%
伊賀	159	12.5%	112	13.5%
東紀州	126	9.9%	85	10.2%
合計	1270		831	

2 民生委員・児童委員に対する質問項目

(1) 担当地区におけるひきこもり状態にある方はいますか？

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
いる	回答	831	286	203	145	112	85
	比率	22.0%	19.0%	19.9%	26.0%	24.4%	35.6%
いない	回答	2,946	1,217	816	412	347	154
	比率	78.0%	81.0%	80.1%	74.0%	75.6%	64.4%

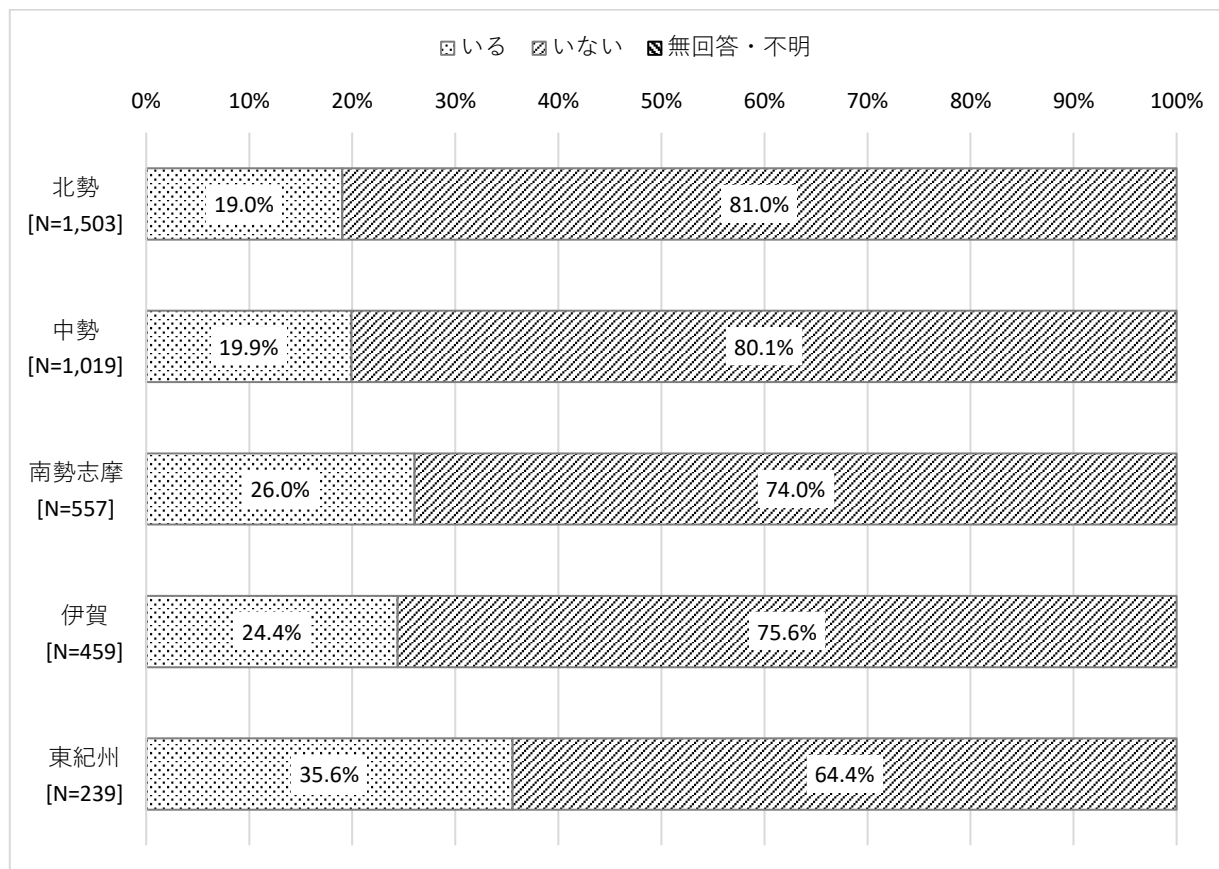
■ 県全体 単集計 (回答率)



県全体について、「いない」と回答した委員の割合が 78.0% (2,946名) で、「いる」と回答した委員の割合が22.0% (831名) でした。

※「不明」の場合、「いない」と回答する旨、調査時点で整理しました。

■ 圏域別 クロス集計 (回答率)

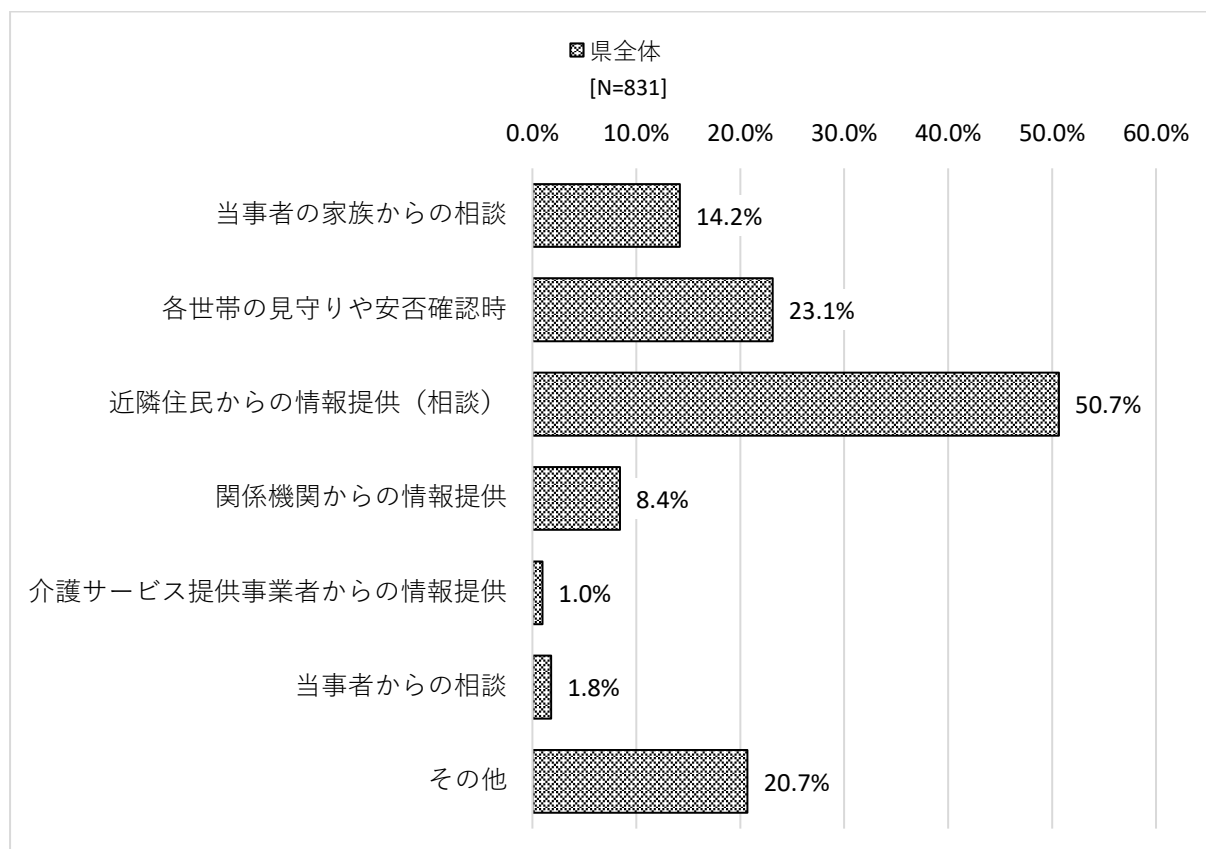


圏域別構成比で見ると、「いる」と回答した委員の割合が最も高い地域は「東紀州地域」で35.6%(85名)でした。

(2) (1) で「いる」と回答した方は、担当する地区にひきこもり状態にある方がいることをどのような方法で知りましたか。(複数回答)

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
当事者の家族からの相談	回答	118	46	28	19	19	6
	比率	14.2%	16.1%	13.8%	13.1%	17.0%	7.1%
各世帯の見守りや安否確認時	回答	192	54	44	44	29	21
	比率	23.1%	18.9%	21.7%	30.3%	25.9%	24.7%
近隣住民からの情報提供(相談)	回答	421	148	105	70	55	43
	比率	50.7%	51.7%	51.7%	48.3%	49.1%	50.6%
関係機関からの情報提供	回答	70	26	18	11	10	5
	比率	8.4%	9.1%	8.9%	7.6%	8.9%	5.9%
介護サービス提供事業者からの情報提供	回答	8	4	1	2	1	0
	比率	1.0%	1.4%	0.5%	1.4%	0.9%	0.0%
当事者からの相談	回答	15	8	3	3	1	0
	比率	1.8%	2.8%	1.5%	2.1%	0.9%	0.0%
その他	回答	172	58	39	34	29	12
	比率	20.7%	20.3%	19.2%	23.4%	25.9%	14.1%

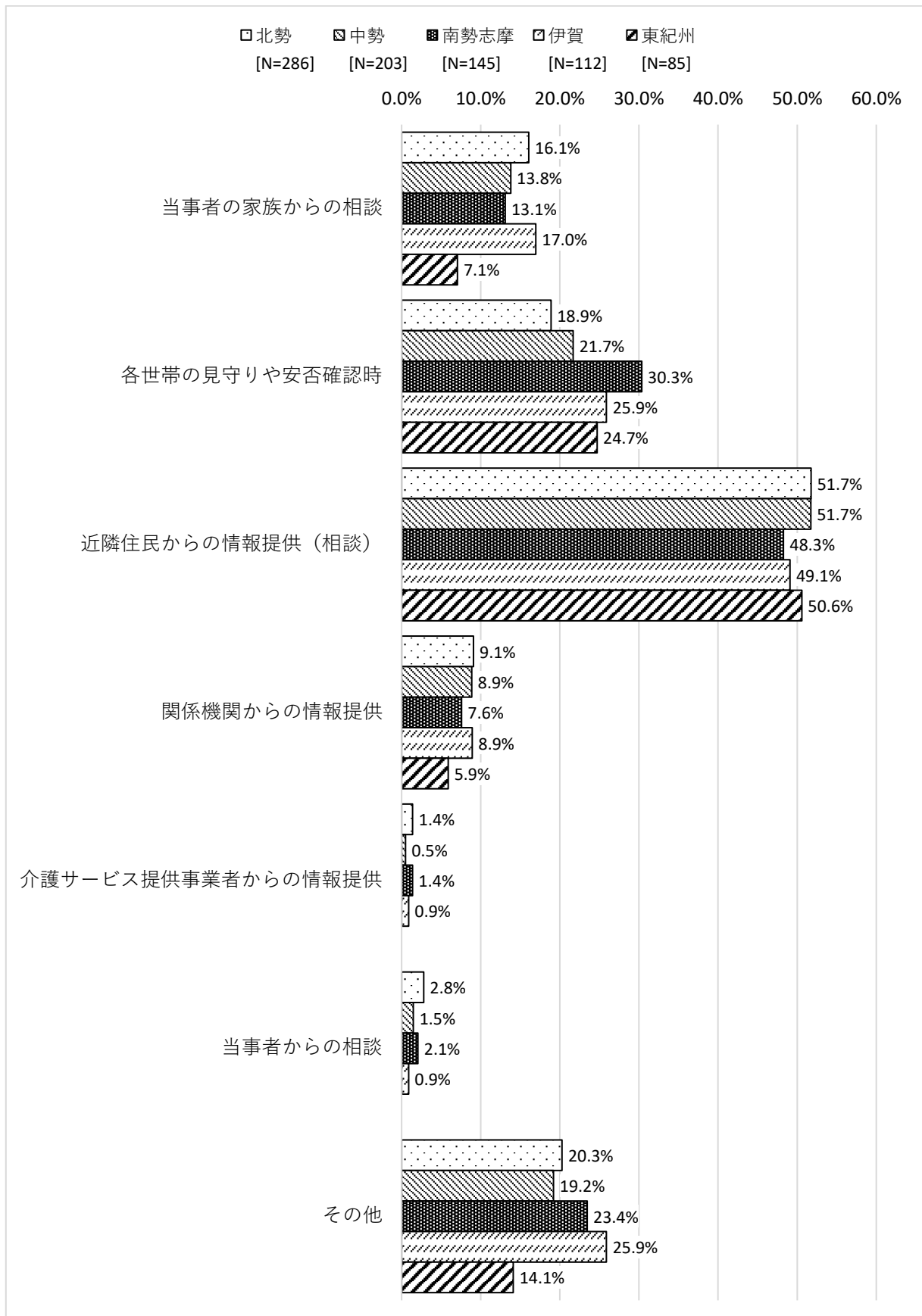
■ 県全体 単集計 (回答率)



県全体でみると、「近隣住民からの情報提供（相談）」と回答した委員の割合が 50.7%(421 名)で最も高く、次いで「各世帯の見守りや安否確認時」が 23.1%(192 名)、「当事者の家族からの相談」が 14.2%(118 名)という結果になりました。一方で「当事者からの相談」と回答した委員の割合は 1.8%(15 名)でした。

また、「その他」の項目に関しては、「親族から」「本人の同級生から」「前任者の引き継ぎ」「散歩しているのを見かけなくなった」などの記述がありました。特に多かった記述は「近隣住民からのうわさ」で 2.6%(22 名)でした。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）



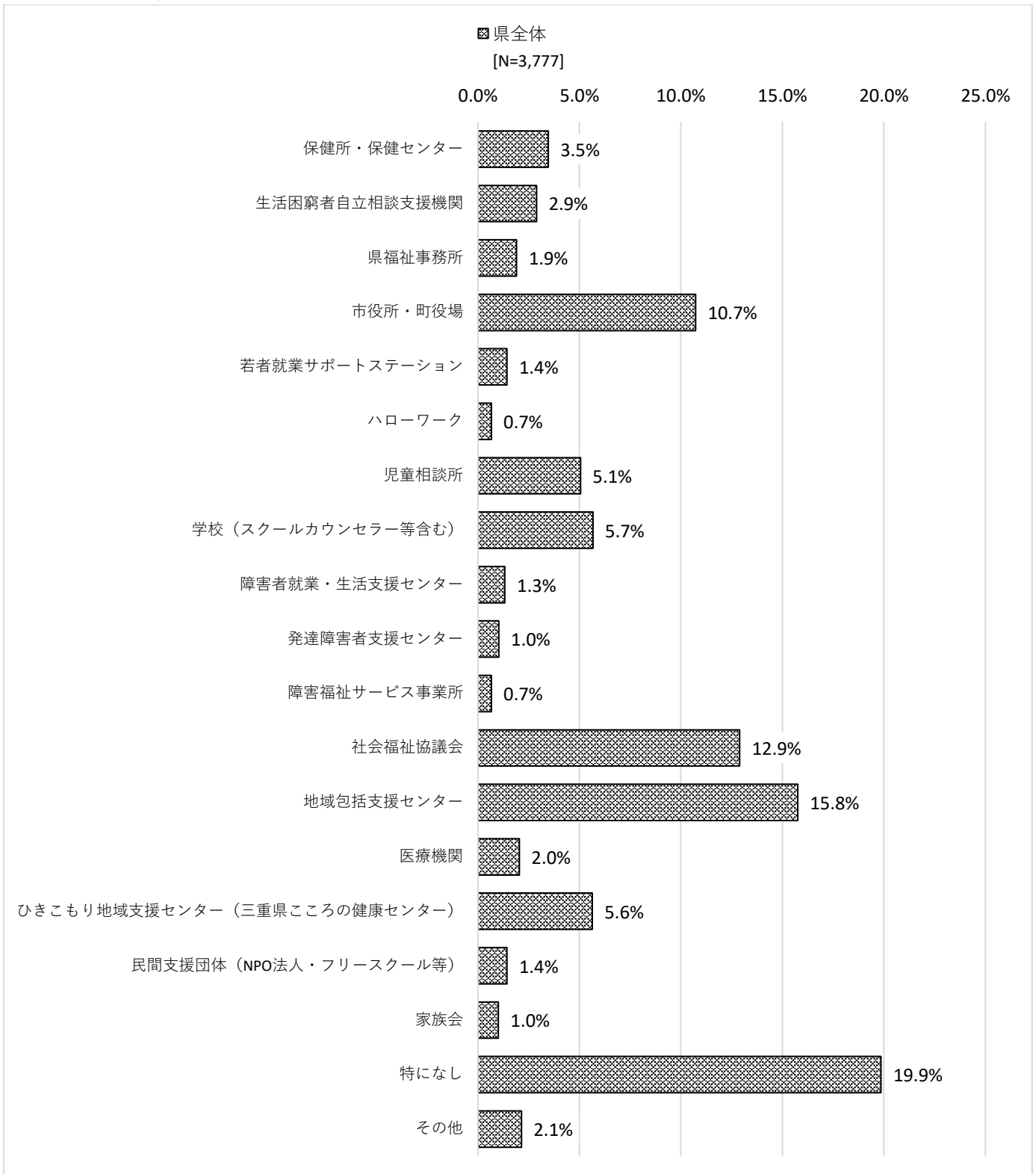
圏域別でみると、「南勢志摩地域」では他の圏域とやや傾向が異なり、「各世帯の見守りや安否確認時」で他の圏域より相対的に高く、「近隣住民からの情報提供（相談）」では相対的に低い傾向がありました。

(3) ひきこもりに係る相談・支援において、連携している関係機関を教えてください。

(複数回答)

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
保健所・保健センター	回答	131	54	33	8	28	8
	比率	3.5%	3.6%	3.2%	1.4%	6.1%	3.3%
生活困窮者自立相談支援機関	回答	109	50	23	16	11	9
	比率	2.9%	3.3%	2.3%	2.9%	2.4%	3.8%
県福祉事務所	回答	72	23	24	6	9	10
	比率	1.9%	1.5%	2.4%	1.1%	2.0%	4.2%
市役所・町役場	回答	405	124	83	97	73	28
	比率	10.7%	8.3%	8.1%	17.4%	15.9%	11.7%
若者就業サポートステーション	回答	54	31	4	7	10	2
	比率	1.4%	2.1%	0.4%	1.3%	2.2%	0.8%
ハローワーク	回答	25	13	3	3	4	2
	比率	0.7%	0.9%	0.3%	0.5%	0.9%	0.8%
児童相談所	回答	191	83	54	18	28	8
	比率	5.1%	5.5%	5.3%	3.2%	6.1%	3.3%
学校（スクールカウンセラー等含む）	回答	214	97	57	29	24	7
	比率	5.7%	6.5%	5.6%	5.2%	5.2%	2.9%
障害者就業・生活支援センター	回答	50	23	4	10	11	2
	比率	1.3%	1.5%	0.4%	1.8%	2.4%	0.8%
発達障害者支援センター	回答	39	13	10	7	7	2
	比率	1.0%	0.9%	1.0%	1.3%	1.5%	0.8%
障害福祉サービス事業所	回答	25	9	10	3	1	2
	比率	0.7%	0.6%	1.0%	0.5%	0.2%	0.8%
社会福祉協議会	回答	487	186	86	112	62	41
	比率	12.9%	12.4%	8.4%	20.1%	13.5%	17.2%
地域包括支援センター	回答	595	224	140	114	88	29
	比率	15.8%	14.9%	13.7%	20.5%	19.2%	12.1%
医療機関	回答	77	35	22	5	9	6
	比率	2.0%	2.3%	2.2%	0.9%	2.0%	2.5%
ひきこもり地域支援センター（三重県こころの健康センター）	回答	213	92	61	21	30	9
	比率	5.6%	6.1%	6.0%	3.8%	6.5%	3.8%
民間支援団体（NPO法人・フリースクール等）	回答	54	34	9	5	5	1
	比率	1.4%	2.3%	0.9%	0.9%	1.1%	0.4%
家族会	回答	38	20	5	4	8	1
	比率	1.0%	1.3%	0.5%	0.7%	1.7%	0.4%
特になし	回答	750	316	226	77	71	60
	比率	19.9%	21.0%	22.2%	13.8%	15.5%	25.1%
その他	回答	81	35	15	12	14	5
	比率	2.1%	2.3%	1.5%	2.2%	3.1%	2.1%

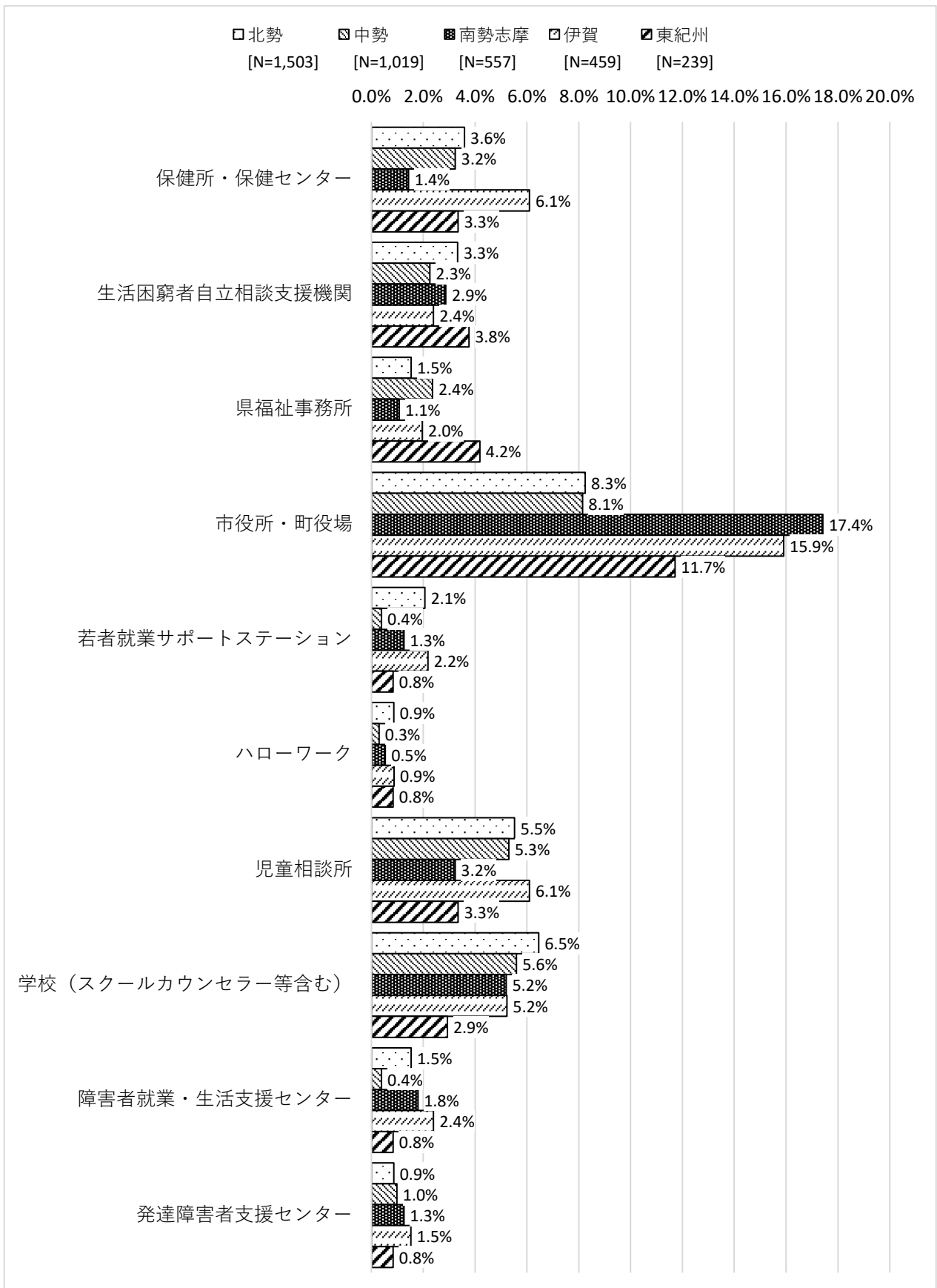
■ 県全体 単集計 (回答率)



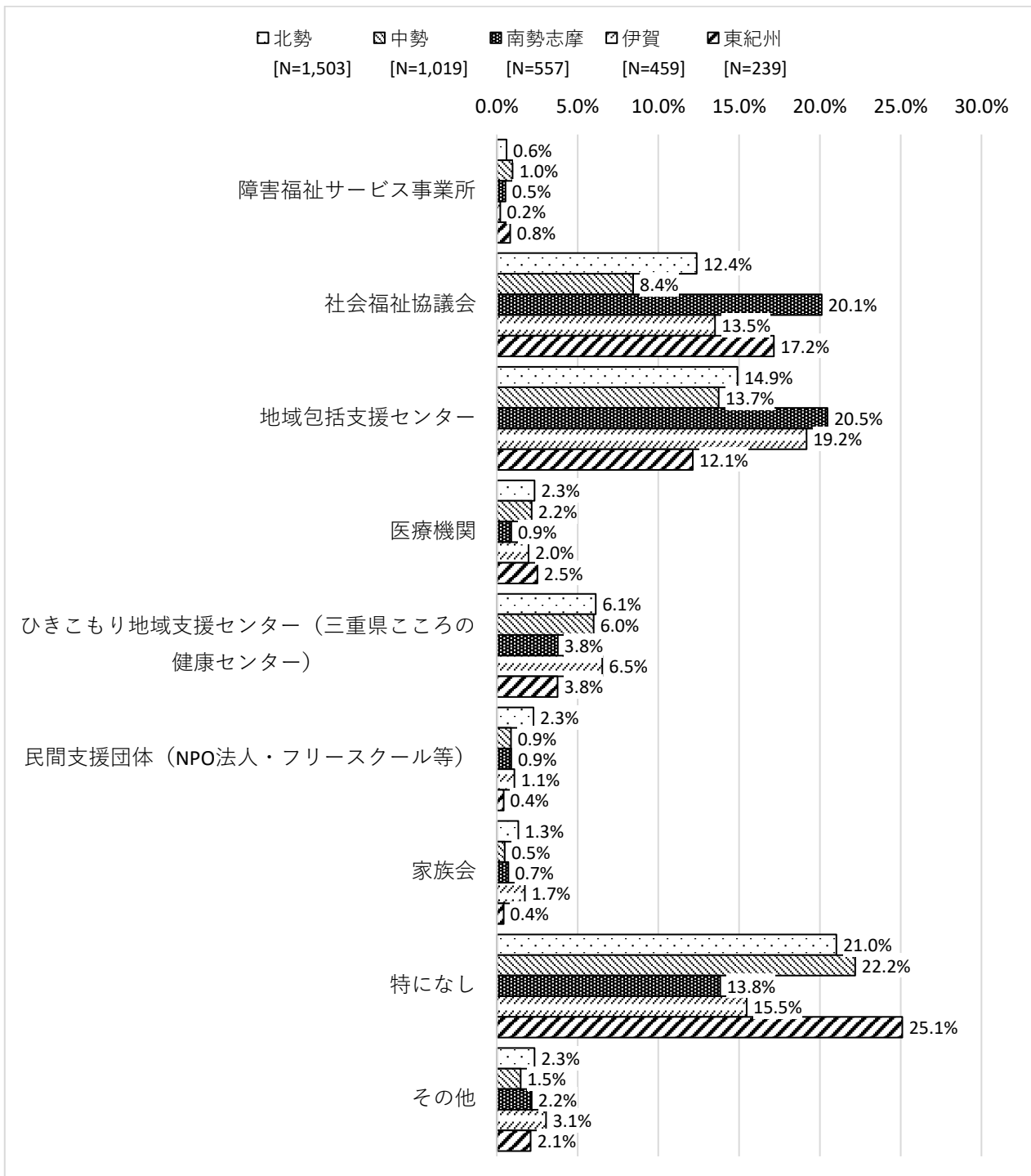
県全体でみると、「特になし」と回答した委員の割合が 19.9%(750 名)と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が 15.8%(595 名)、「社会福祉協議会」が 12.9%(487 名)、「市役所・町役場」が 10.7%(405 名)という結果になりました。

また、「その他」の項目に関しては「警察署」「介護施設」「自治会」「経験がないので相談先がわからない」などの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）①



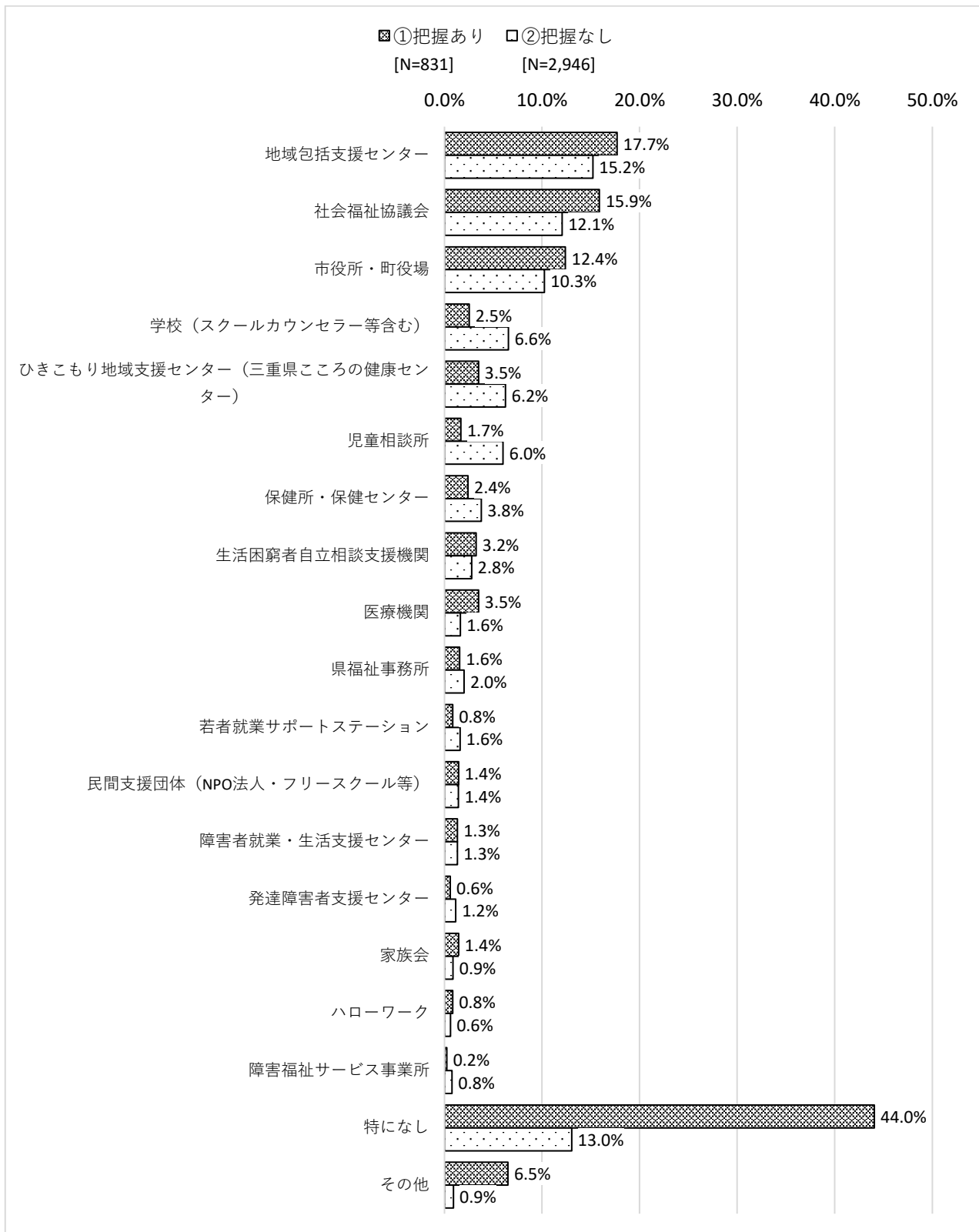
■ 圏域別 クロス集計（回答率）②



圏域別でみると、「地域包括支援センター」「社会福祉協議会」「市役所・町役場」において、回答傾向の違いがあり、「南勢志摩地域」及び「伊賀地域」では他の圏域より相対的に高く、「北勢地域」及び「中勢地域」では相対的に低い傾向にありました。

「特になし」については、「南勢志摩地域」及び「伊賀地域」では他の圏域よりも低い傾向にありました。

■ 県全体 把握の有無別 クロス集計 (回答率)

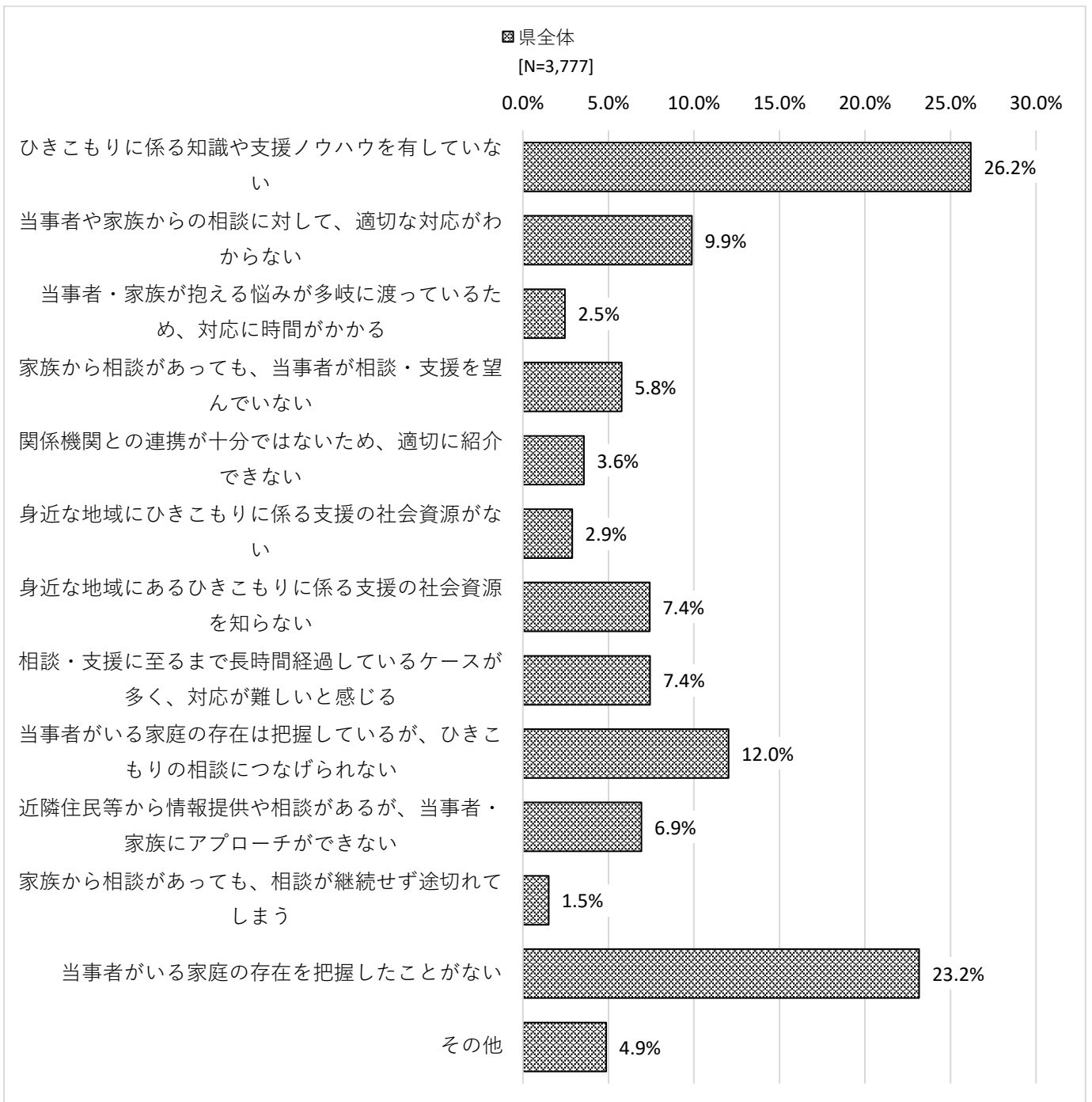


把握の有無別で見ると、双方ともに、「特になし」を除くと、「地域包括支援センター」「社会福祉協議会」「市役所・町役場」の順に回答した委員の割合が高い結果になりました。ひきこもり状態にある方を把握している委員では、「特になし」と回答した委員の割合が際立って高く、連携がない、と考えている方が多い傾向がありました。

(4) 民生委員・児童委員の皆様がひきこもり支援で困っていることについて教えてください。(複数回答)

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない	回答	989	411	222	163	128	65
	比率	26.2%	27.3%	21.8%	29.3%	27.9%	27.2%
当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない	回答	373	173	79	54	43	24
	比率	9.9%	11.5%	7.8%	9.7%	9.4%	10.0%
当事者・家族が抱える悩みが多岐に渡っているため、対応に時間がかかる	回答	93	36	17	21	15	4
	比率	2.5%	2.4%	1.7%	3.8%	3.3%	1.7%
家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない	回答	218	81	53	38	32	14
	比率	5.8%	5.4%	5.2%	6.8%	7.0%	5.9%
関係機関との連携が十分ではないため、適切に紹介できない	回答	135	57	32	13	26	7
	比率	3.6%	3.8%	3.1%	2.3%	5.7%	2.9%
身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源がない	回答	109	45	22	19	13	10
	比率	2.9%	3.0%	2.2%	3.4%	2.8%	4.2%
身近な地域にあるひきこもりに係る支援の社会資源を知らない	回答	280	119	71	31	36	23
	比率	7.4%	7.9%	7.0%	5.6%	7.8%	9.6%
相談・支援に至るまで長時間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる	回答	281	115	64	50	31	21
	比率	7.4%	7.7%	6.3%	9.0%	6.8%	8.8%
当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談につなげられない	回答	454	167	110	79	57	41
	比率	12.0%	11.1%	10.8%	14.2%	12.4%	17.2%
近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない	回答	262	104	61	39	36	22
	比率	6.9%	6.9%	6.0%	7.0%	7.8%	9.2%
家族から相談があっても、相談が継続せず途切れてしまう	回答	57	17	16	13	8	3
	比率	1.5%	1.1%	1.6%	2.3%	1.7%	1.3%
当事者がいる家庭の存在を把握したことがない	回答	875	375	243	107	107	43
	比率	23.2%	25.0%	23.8%	19.2%	23.3%	18.0%
その他	回答	184	69	41	43	20	11
	比率	4.9%	4.6%	4.0%	7.7%	4.4%	4.6%

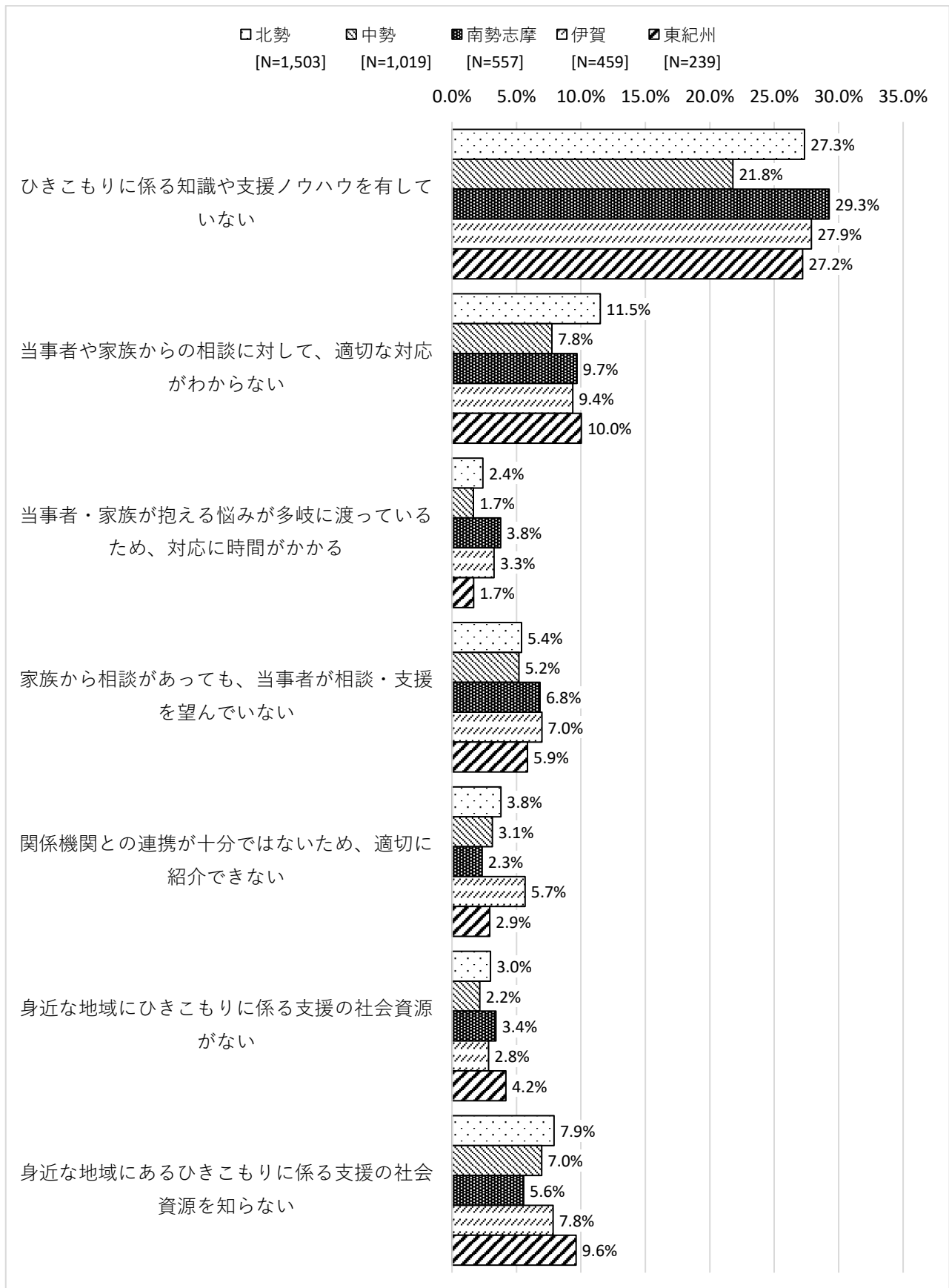
■ 県全体 単集計 (回答率)



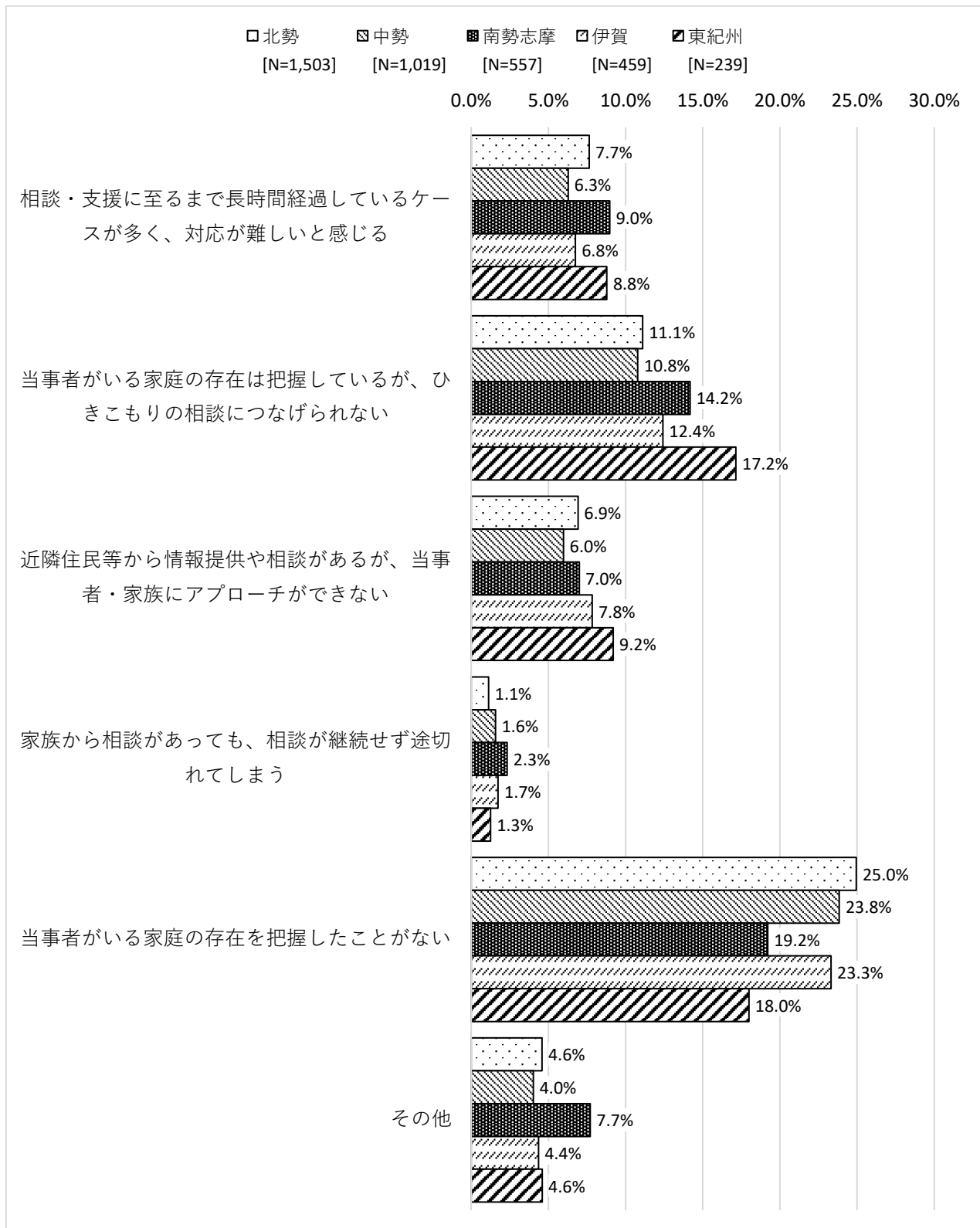
県全体でみると、「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」と回答した委員の割合が26.2%(989名)と最も高く、次いで「当事者がいる家庭の存在を把握したことがない」が23.2%(875名)で、「当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談につなげられない」が12.0%(454名)という結果になりました。

また、「その他」の項目に関しては、「守秘義務他、コロナ、プライベートの事なので深くかかわることができない」や「はっきりした情報がないので、アプローチの仕方も難しい」など、訪問に関する距離感などで難しさを抱く記述やプライバシーの課題に関する記述、また「まわりの人に隠す傾向がある」や「家族からの相談が無い」など、家族が介入に忌避感を抱くケースなどの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）①

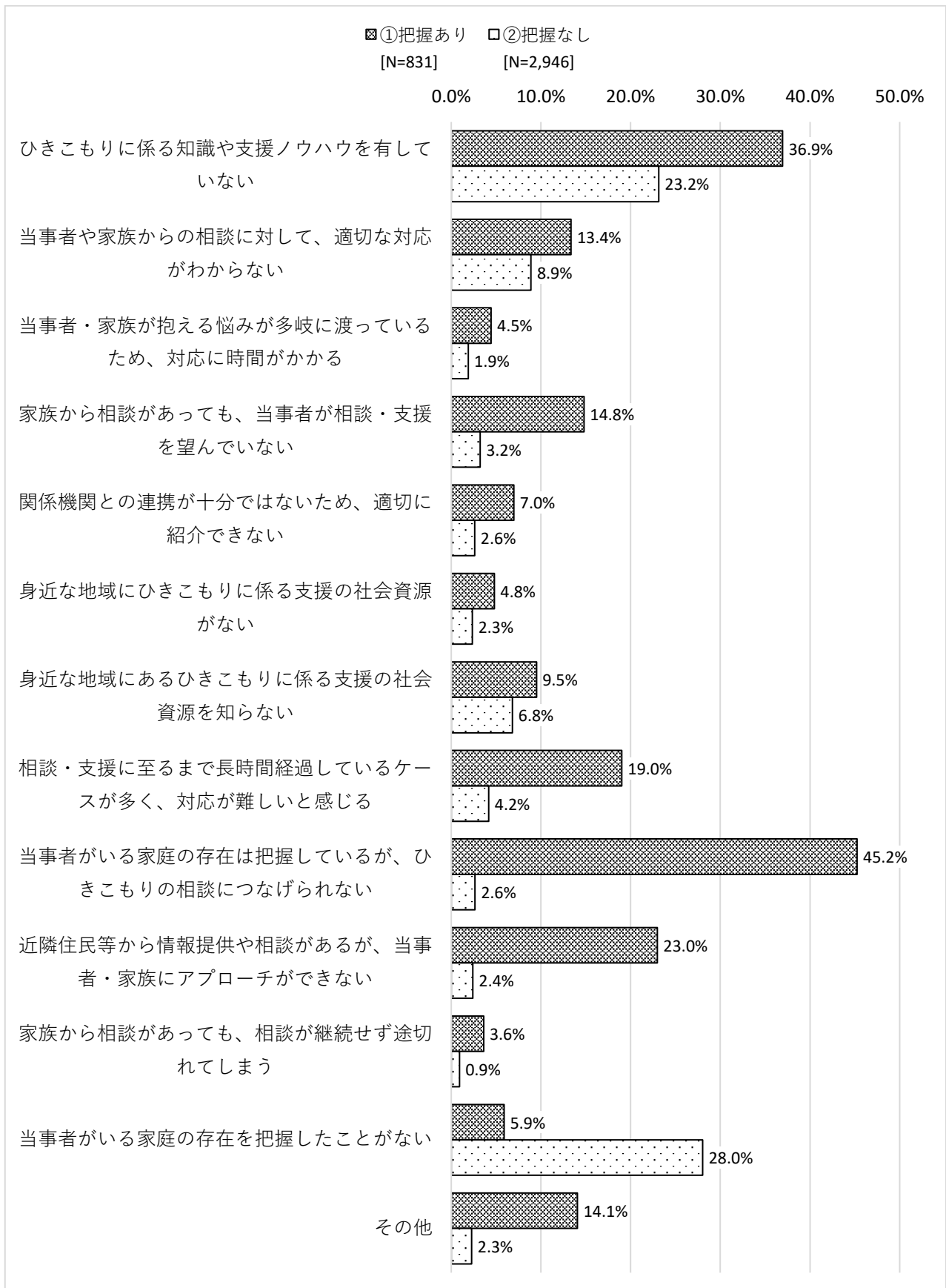


■ 圏域別 クロス集計（回答率）②



圏域別でみると、比較的同じ傾向にありますが、「東紀州地域」では、「当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談につなげられない」と回答した委員の割合が17.2%（41名）と他の圏域よりも高くなりました。

■ 県全体 把握の有無別 クロス集計（回答率）



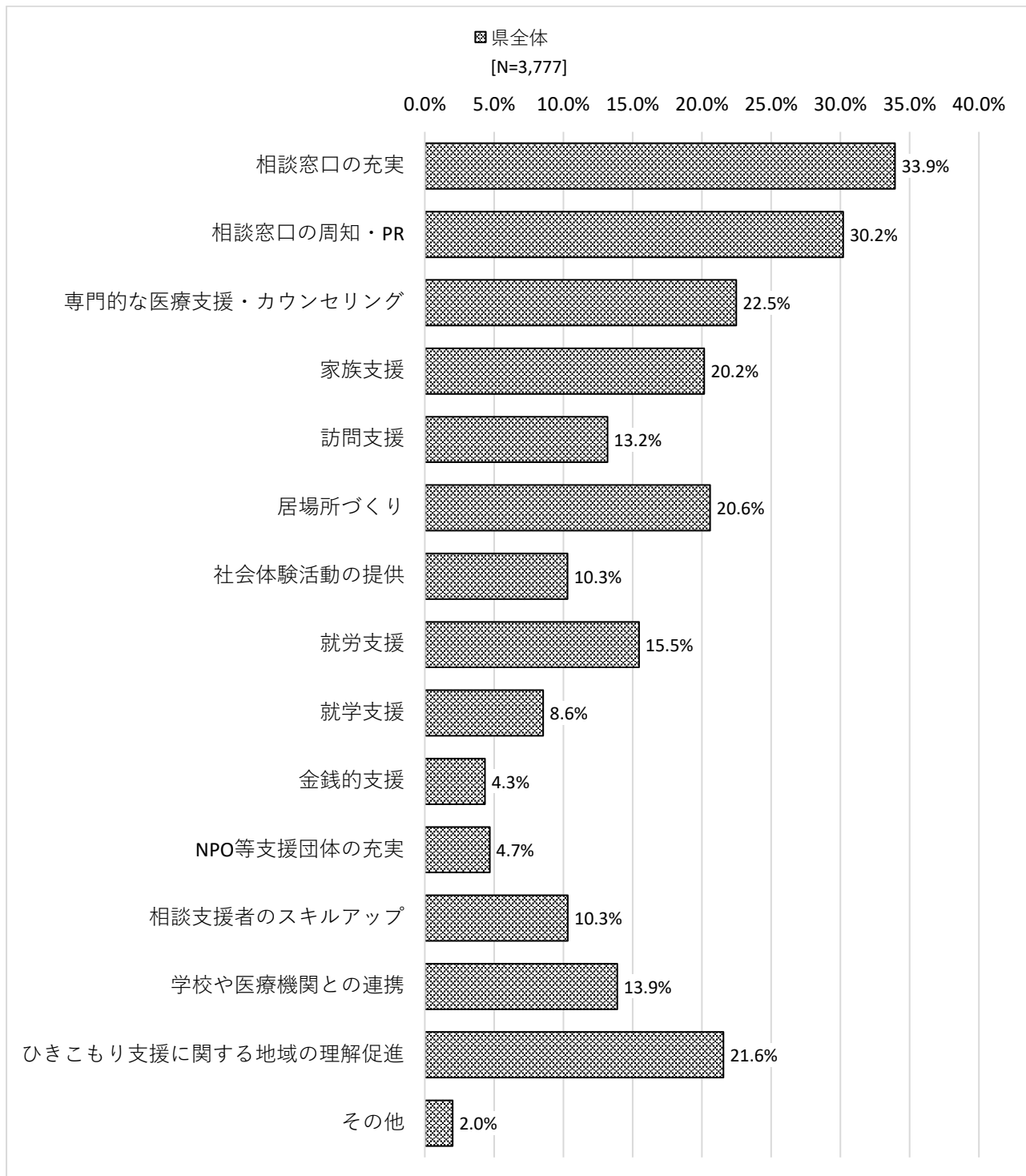
把握の有無別でみると、ひきこもり状態にある方を把握している委員では、「当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談につなげられない」と回答した委員の割合が45.2%(376名)と最も高く、次いで「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」が36.9%(307名)、「近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない」が23%(191名)という結果になりました。

一方、ひきこもり状態にある方を把握していない委員では、「当事者がいる家庭の存在を把握したことがない」と回答した委員の割合が28.0%(825名)と最も高く、次いで「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」が23.2%(683名)、「当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない」が8.9%(262名)となり、ひきこもり状態にある方を把握している委員では、より具体的に介入に関する距離感に課題を感じていることが明らかになりました。

(5) 民生委員・児童委員の皆様がひきこもり支援のために必要と考える施策を教えてください。(複数回答)

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
相談窓口の充実	回答	1,282	501	319	178	182	102
	比率	33.9%	33.3%	31.3%	32.0%	39.7%	42.7%
相談窓口の周知・PR	回答	1,141	486	266	170	143	76
	比率	30.2%	32.3%	26.1%	30.5%	31.2%	31.8%
専門的な医療支援・カウンセリング	回答	849	339	199	112	129	70
	比率	22.5%	22.6%	19.5%	20.1%	28.1%	29.3%
家族支援	回答	762	301	170	121	116	54
	比率	20.2%	20.0%	16.7%	21.7%	25.3%	22.6%
訪問支援	回答	498	182	116	80	71	49
	比率	13.2%	12.1%	11.4%	14.4%	15.5%	20.5%
居場所づくり	回答	778	318	173	102	129	56
	比率	20.6%	21.2%	17.0%	18.3%	28.1%	23.4%
社会体験活動の提供	回答	389	163	89	38	59	40
	比率	10.3%	10.8%	8.7%	6.8%	12.9%	16.7%
就労支援	回答	584	247	124	81	80	52
	比率	15.5%	16.4%	12.2%	14.5%	17.4%	21.8%
就学支援	回答	323	145	85	32	42	19
	比率	8.6%	9.6%	8.3%	5.7%	9.2%	7.9%
金銭的支援	回答	164	66	34	20	22	22
	比率	4.3%	4.4%	3.3%	3.6%	4.8%	9.2%
NPO等支援団体の充実	回答	177	75	45	15	26	16
	比率	4.7%	5.0%	4.4%	2.7%	5.7%	6.7%
相談支援者のスキルアップ	回答	390	149	85	58	63	35
	比率	10.3%	9.9%	8.3%	10.4%	13.7%	14.6%
学校や医療機関との連携	回答	525	205	150	68	68	34
	比率	13.9%	13.6%	14.7%	12.2%	14.8%	14.2%
ひきこもり支援に関する地域の理解促進	回答	814	332	175	127	124	56
	比率	21.6%	22.1%	17.2%	22.8%	27.0%	23.4%
その他	回答	76	31	17	14	7	7
	比率	2.0%	2.1%	1.7%	2.5%	1.5%	2.9%

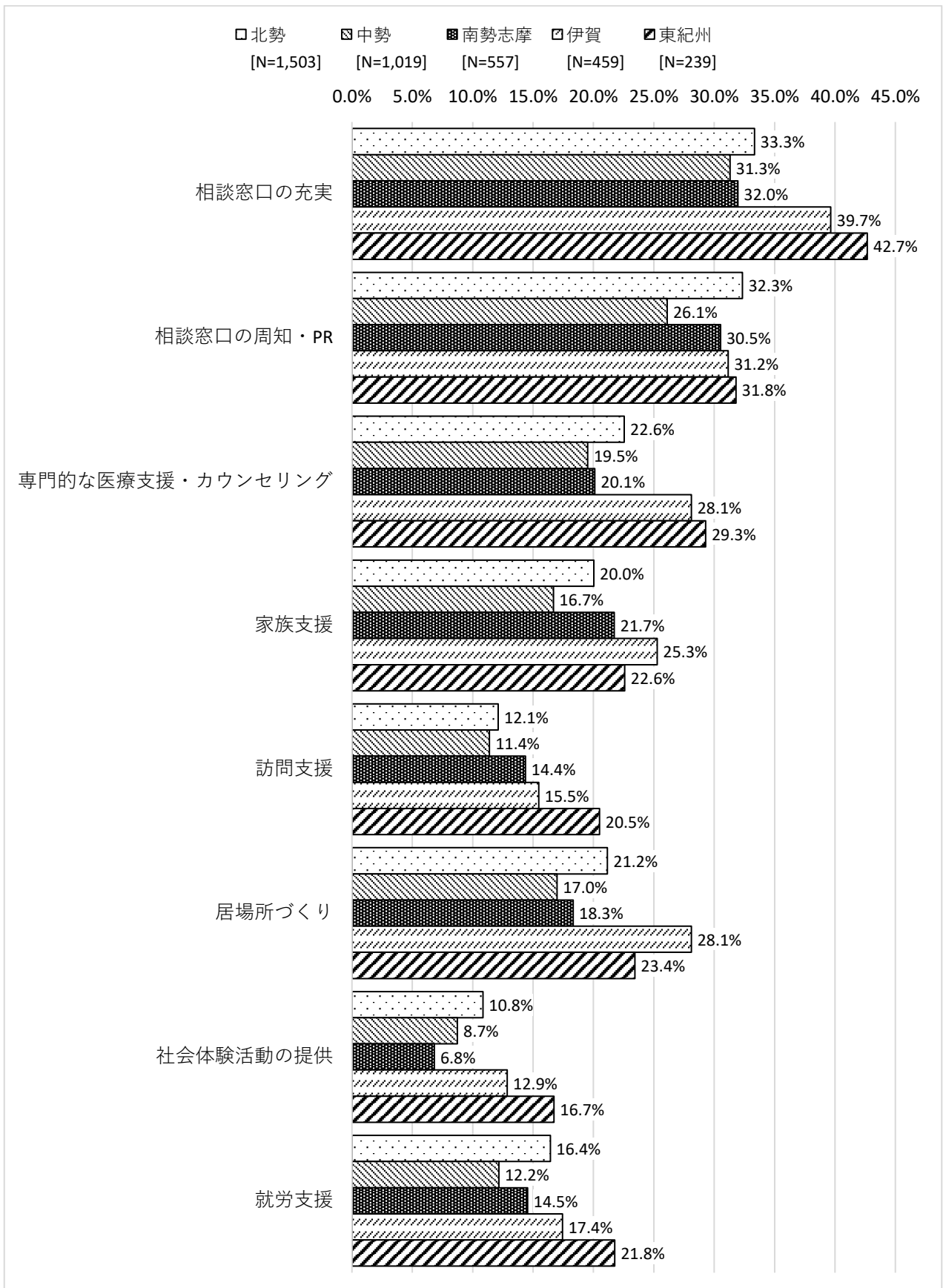
■ 県全体 単集計 (回答率)



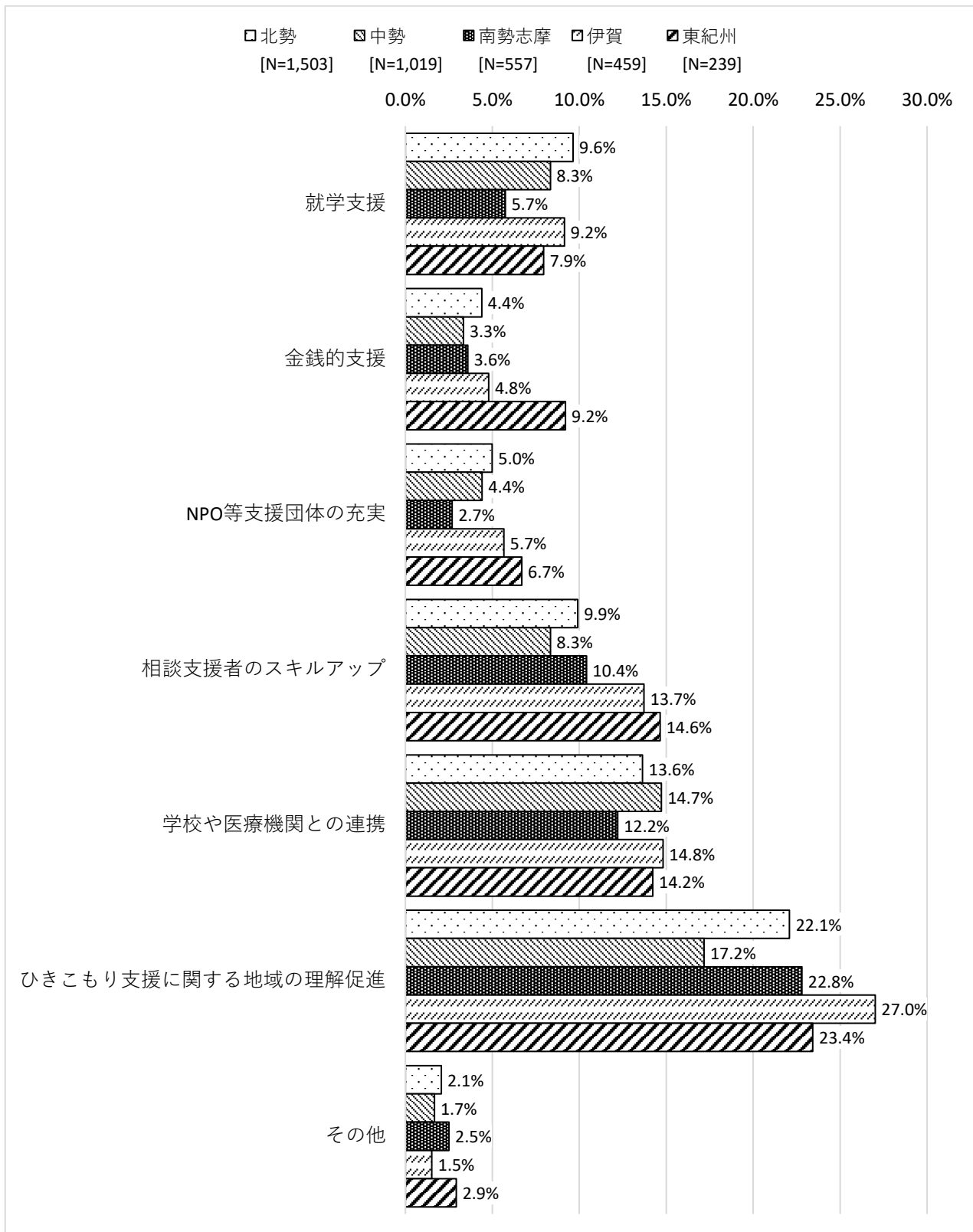
県全体でみると、「相談窓口の充実」と回答した委員の割合が 33.9%(1,282名)と最も高く、次いで「相談窓口の周知・PR」が 30.2%(1,141名)、「専門的な医療支援・カウンセリング」が 22.5%(849名)という結果になりました。

また、「その他」の項目に関しては、「専門職の充実」や「ノウハウ蓄積のための勉強会・フォーラム」「調査オンライン化」「どんな時、どこへ相談できるか日頃からわかるように広報する」「信頼関係」「家族や近隣の方の理解が必要である」「家族や本人が相談しようとするきっかけづくり」などの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）①

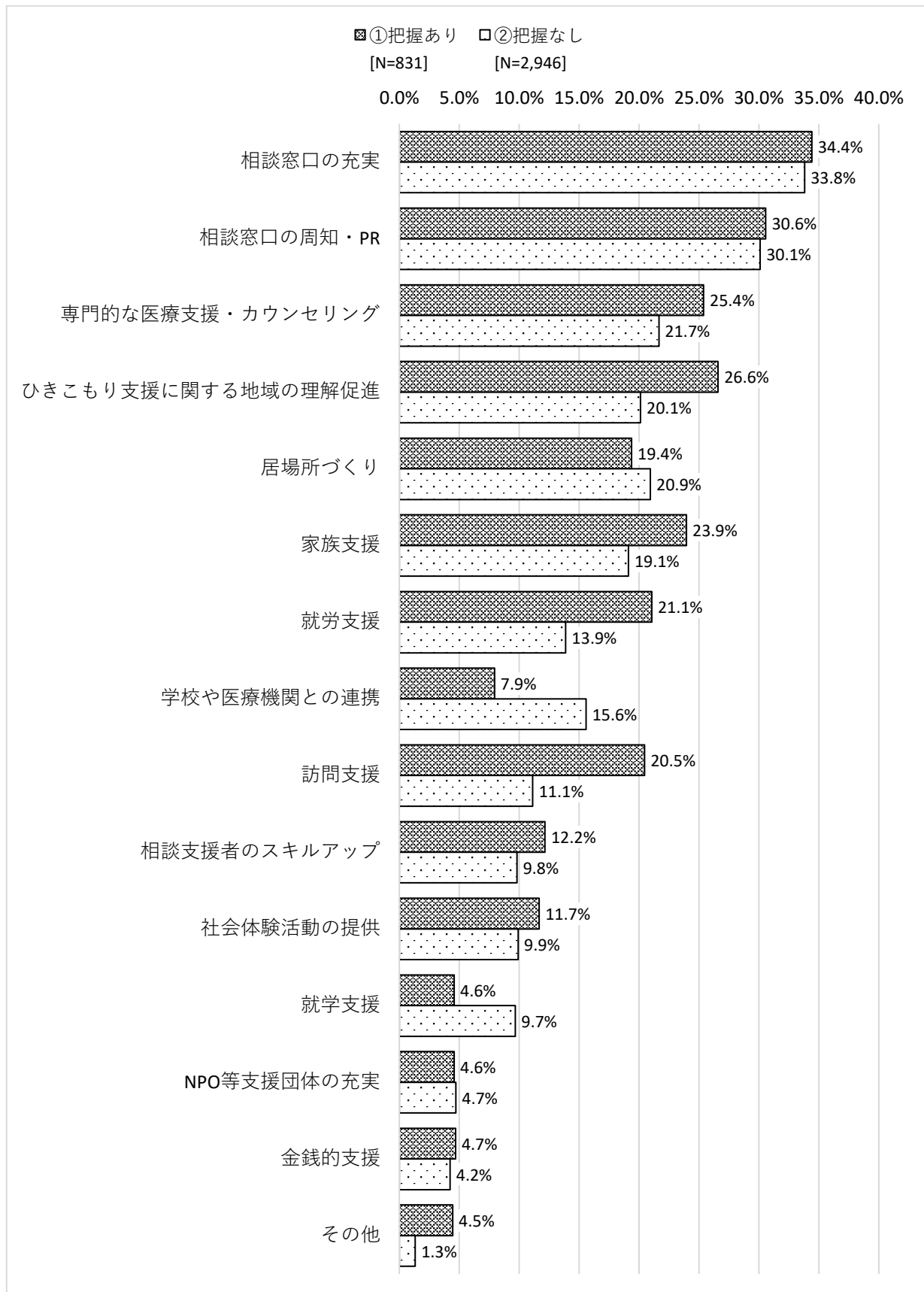


■ 圏域別 クロス集計（回答率）②



圏域別でみると、「相談窓口の充実」「相談窓口の周知・PR」と回答した委員の割合がどの圏域でも高く、「伊賀地域」では「ひきこもり支援に関する地域の理解促進」と回答した委員の割合が27.0%（124名）と他の圏域よりも高いことが明らかになりました。

■ 県全体 把握の有無別 クロス集計（回答率）

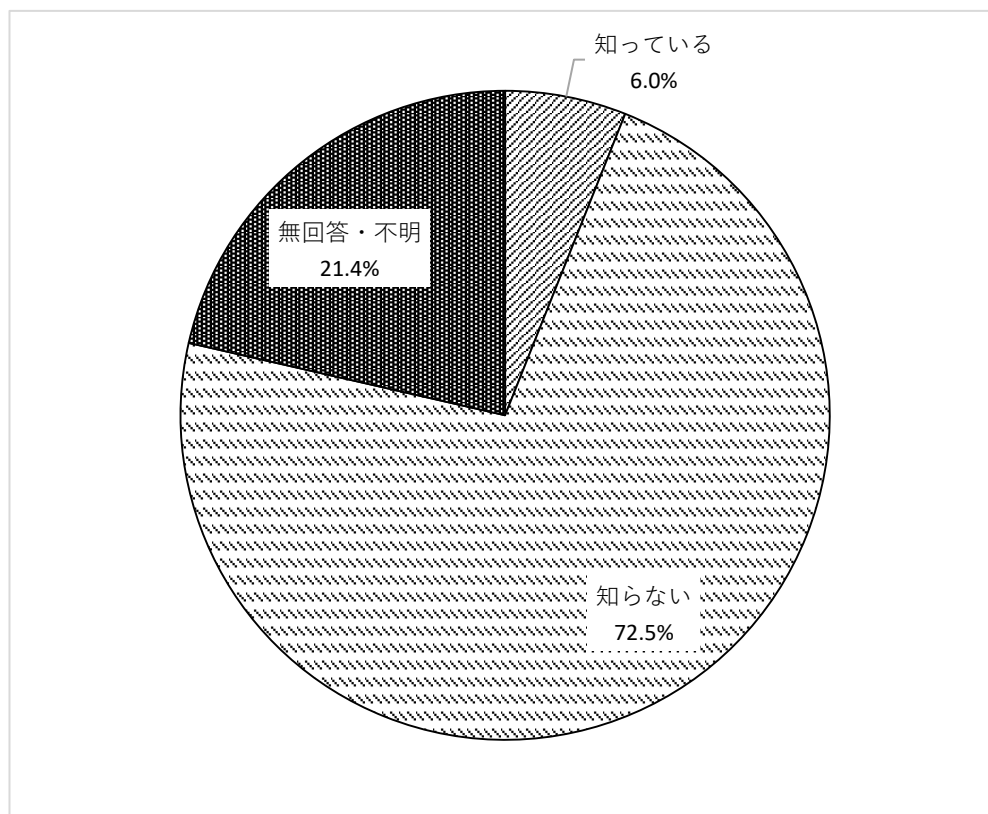


把握の有無別でみると、ひきこもり状態にある方を把握している委員では、「相談窓口の充実」と回答した委員の割合が34.4%(286名)と最も高く、次いで「相談窓口の周知・PR」が30.6%(254名)、「ひきこもり支援に関する地域の理解促進」が26.6%(221名)、「専門的な医療支援・カウンセリング」が25.4%(211名)、「家族支援」が23.9%(199名)という結果になりました。「訪問調査」と回答した委員の割合について、ひきこもり状態にある方を把握している委員の方が把握していない委員よりも高くなり、訪問支援に対する認識の差があることが明らかになりました。

(6) ひきこもりの状態から社会復帰した人を知っていますか。

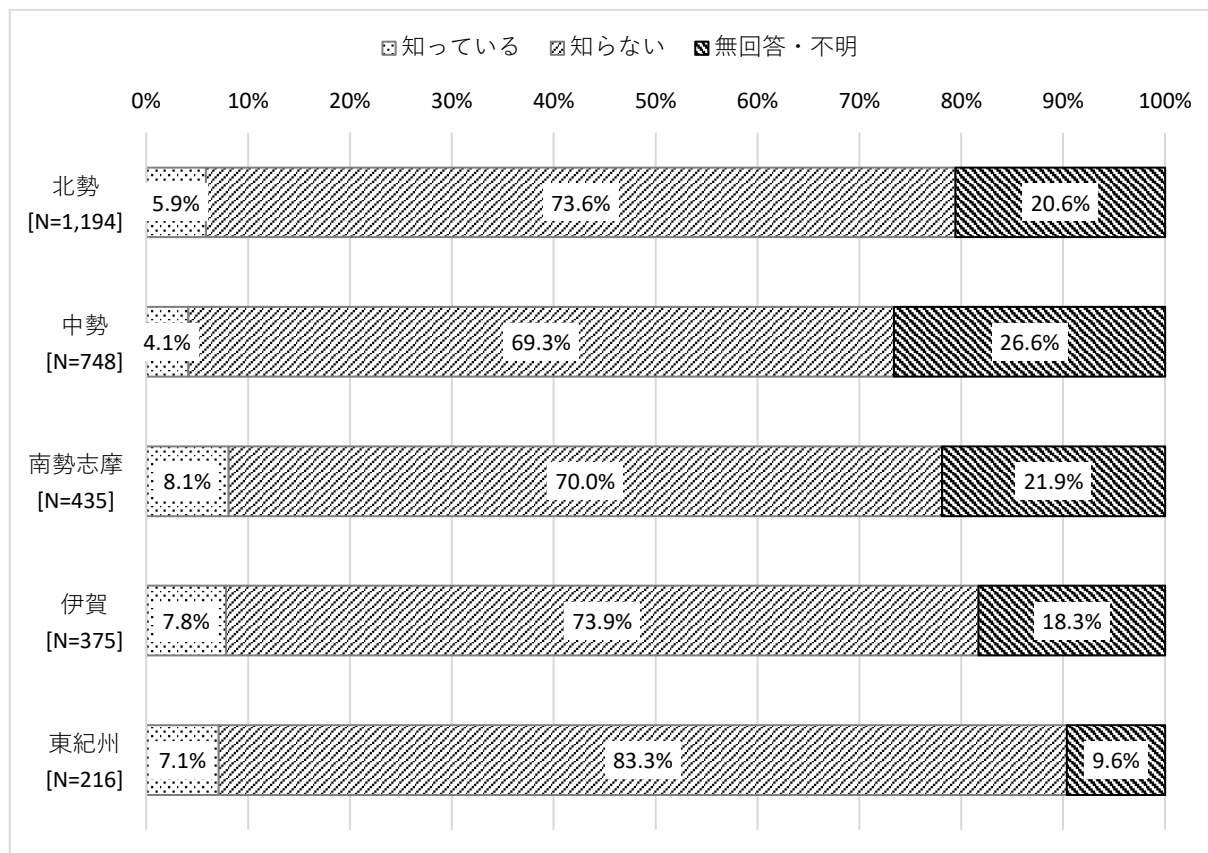
		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
知っている	回答	228	88	42	45	36	17
	比率	6.0%	5.9%	4.1%	8.1%	7.8%	7.1%
知らない	回答	2,740	1,106	706	390	339	199
	比率	72.5%	73.6%	69.3%	70.0%	73.9%	83.3%
無回答・不明	回答	809	309	271	122	84	23
	比率	21.4%	20.6%	26.6%	21.9%	18.3%	9.6%

■ 県全体 単集計 (回答率)



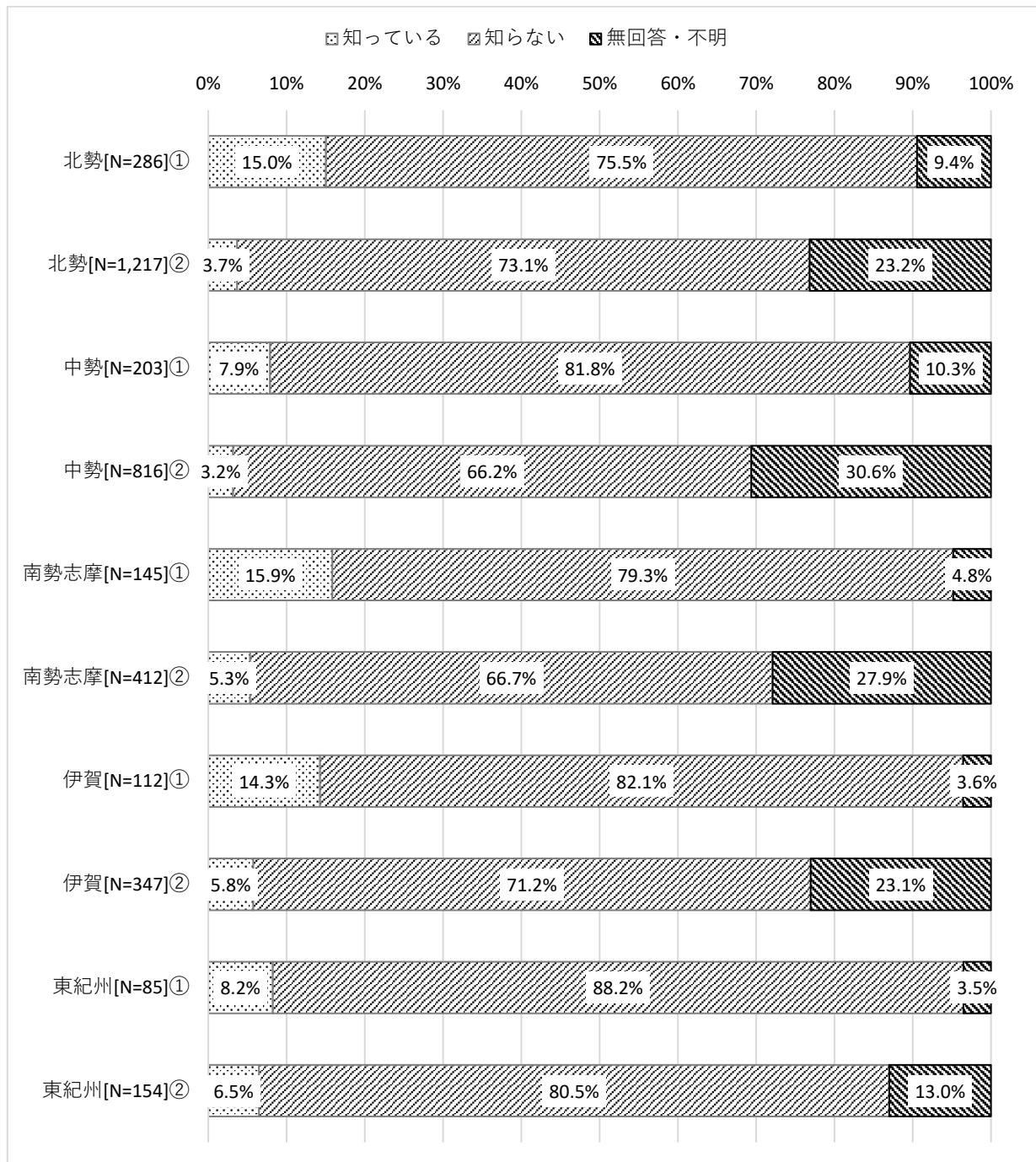
県全体で見ると、「知らない」と回答した委員の割合が72.5%(2,740名)で、「知っている」と回答した委員の割合が6.0%(228名)でした。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）



圏域別構成比で見ると、「知っている」と回答した委員の割合が最も高い地域は「南勢志摩地域」で、8.1%(45名)でした。

■ 圏域及び把握の有無別 クロス集計（回答数） ①把握あり ②把握なし



圏域別と把握の有無別のクロス集計でみると、ひきこもり状態にある方を把握している委員では、「南勢志摩地域」と回答した委員の割合が15.9%(23名)と最も高く、次いで「北勢地域」が15.0%(43名)、「伊賀地域」が14.3%(16名)という結果になりました。

(7) 民生委員・児童委員の皆様が地域共生社会の実現に向けて地域に求めることを教えてください。

記述には主に以下の内容がありました。

①情報共有

- ・自治会の協力、情報の提供が一番だと思います。民生委員だけの力では、家庭の把握まではなかなかたどりつけない。
- ・民生・児童委員と地域の役員の方々と協議の場が無く、情報共有が出来ていないので、連携がとれないので今後、そのような機会を設けていただくようにしていただきたい。
- ・市役所からの詳しい連絡連携と情報交換を密にする。民生委員独自には動けない事が多い。
- ・地域における関係機関とのネットワークの構築と、ひきこもり支援にかかわる情報の提供などのチームを作りあげること。
- ・ひきこもりや障害者の有無が全くわからないので支援ができません。個人情報等の問題もあると思いますが情報があれば教えてほしいと思います。
- ・自治会、区、各班長が、地域の実態を把握できていると思うので、いかにしてその情報を吸い上げるか工夫が必要。

②相談できる環境づくり

- ・非接触での相談窓口の存在を、当事者がわかるようにした方が良い。(当事者が、社会に戻れるような、糸口を提供できるような場所があれば良いと思います)
- ・弱者に対する社会の理解と自立への強力な支援が必要。例えば、ひきこもり家庭が相談できる窓口は、機能していないと思われる。気軽に相談できる方法、道筋を具体的に作ってほしい。ひきこもりは、実際は多数存在していると思います。
- ・民生児童委員の活動をもっとPRする事で相談窓口を知ってもらえると思う。また地域の理解につながるかも。
- ・いろいろな課題を持つ人(家)について、地域の集団が共通理解できるような材料を提供すること
- ・共生社会とは、地域の人々がお互いを思いやり暮らして行く事だと思います。その原点はとなりの人と仲よくお互いを尊重していく事が、地域共生につながっていくと思います。我達民生委員はその環境づくりを荷負う立場です。みんな家族と考えるべきです。

③社会の理解促進

- ・偏見、差別のない地域社会作りに向けた取組み
- ・自分のものさしで周りの人をみず、いろいろな方が生活してみえるということ(自分も含め)社会全体で認め、かかわりあいを持っていきたい。
- ・住民の意識改革：差別偏見いじめはダメ 助け合う、支え合う地域を目指す。支援を必要とする人が声を出して云える。→支援の手をさしのべる。→支援に対して感謝の気持→より良い支援体制に その人らしく生きるために、共に考え、共に歩めるように。
- ・役場等の相談窓口に行った場合、ひきこもり→病気という形で解決していかないようにしてほしい。受け皿の充実(明るい解決をしていける)をひきこもりの本人や家族は望んでいると思う。ひきこもりは社会の問題であることを社会にわかってもらう
- ・偏見、差別のない地域社会。個人の生き方を認めながら見守り支え合う地域社会づくり

④関係づくり

- ・地域で互いが声をかけ合う関係づくり・助け合う関係づくり
- ・隣近所の住民の把握。(核家族化で個々(各家庭)での生活が増えているから)
- ・挨拶(すれ違っても挨拶すらない人が多い) 井戸端会議も大事だと思う。

- ・民生委員、児童委員として地域に貢献し役立つ事ができるよう、知識や支援のノウハウを身につけて、地域に協力をお願いしたいです。
- ・住民個々のつながり。住民相互が支え合う組織強化
- ・気になる方がみえたら、気軽に相談してもらい、私達はその相談に対し、すみやかに関係各所に相談して、その後、地域の方と共に、見守る体勢を作りたい。
- ・見守り、声かけが大事だと思う。問題を理解する人を何人かいることも大事だと思います。民生と行政のつながり。

⑤居場所づくり

- ・当事者や家族が一步、歩み出せるような、支援が、誰にでもわかりやすく、利用しやすい環境作り。
- ・居場所づくりは大変有効である。しかし、サロン等があっても参加しない人も一定数いる。こういう人を引っ張り出す（参加させる）には、皆の温かさが必要で、特にリーダーの力量が大きく影興すると思われる。
- ・地域で居場所づくりが大切

⑥プライバシーへの配慮

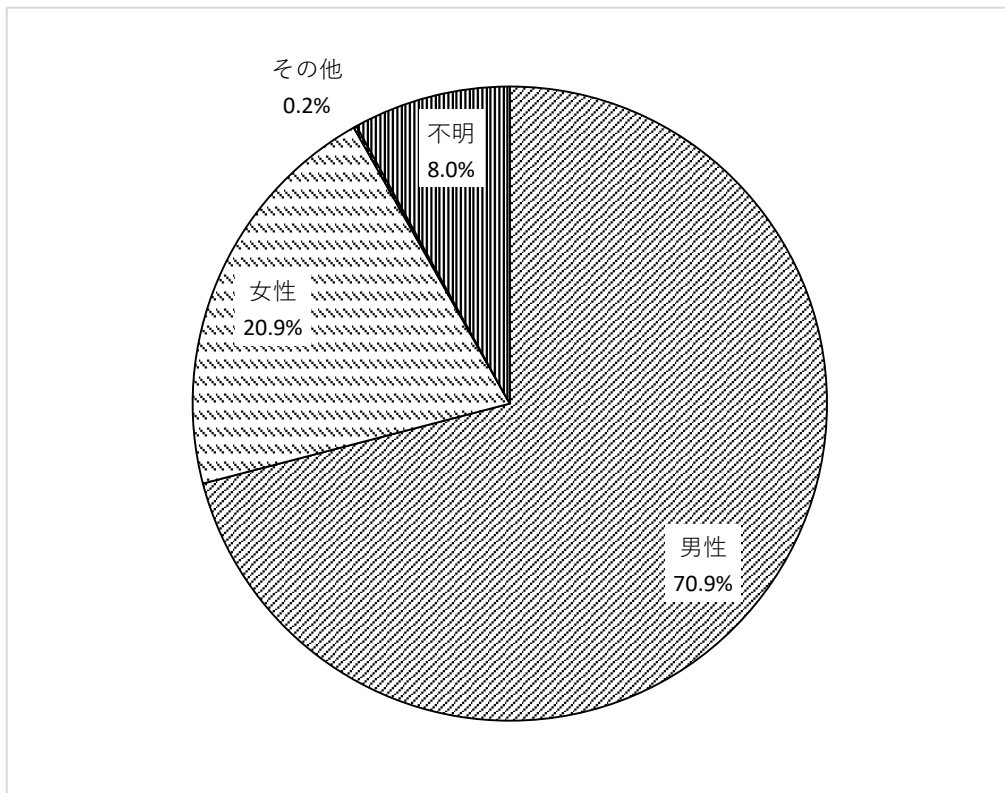
- ・プライバシーの問題があり、求めることはむづかしい。
- ・本人が希望しない場合は、関わる事が出来ないのが、非常に難しいと思う。今、親が健在なので、顕在化しないが先には心配である。
- ・仕事についていないことを近所の住人や親類の人たちはこのままではいけないと心配はしているが家族間のことなので「私たちは何も言えない」と民生委員に伝えてきます。定例会でサポステのお知らせをもらっていたので、見学に行き、そこに紹介したのですが、相談窓口に本人・家族が直接行くのは大変なハードルがあると思います。
- ・デリケートな事ですので御本人の自覚が一番なのではないかと思います。声かけ等が必要ならしますが、御本人や御家族の方がお望みでないなら、迷惑になるのではないかと思います。むづかしい問題です。
- ・なかなか各家庭の中には入りにくいです。声がかかった時に対応するのが精一杯です。

3 ひきこもり状態の方に関する質問項目

(1) 性別

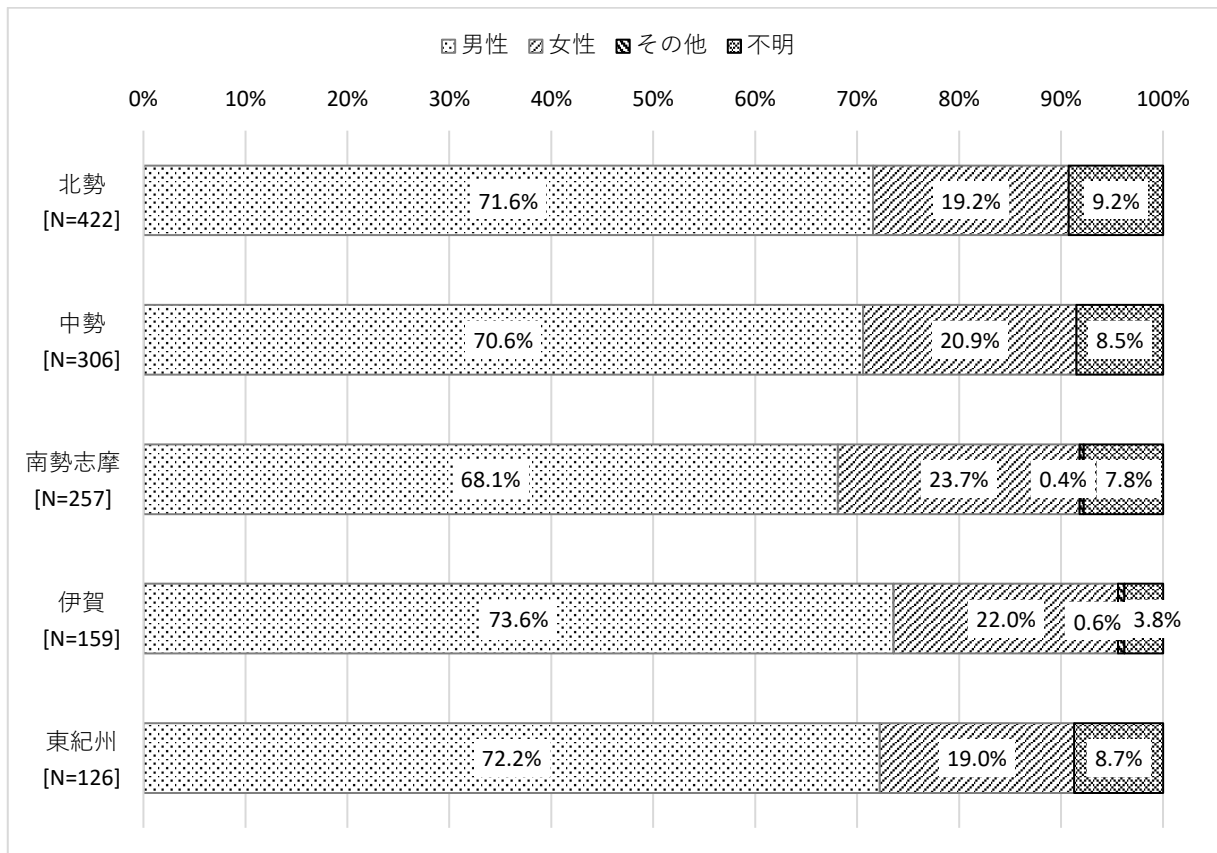
		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
男性	回答	901	302	216	175	117	91
	比率	70.9%	71.6%	70.6%	68.1%	73.6%	72.2%
女性	回答	265	81	64	61	35	24
	比率	20.9%	19.2%	20.9%	23.7%	22.0%	19.0%
その他	回答	2	0	0	1	1	0
	比率	0.2%	0.0%	0.0%	0.4%	0.6%	0.0%
不明	回答	102	39	26	20	6	11
	比率	8.0%	9.2%	8.5%	7.8%	3.8%	8.7%

■ 県全体 単集計 (回答率)



ひきこもり状態にある方の性別について、県全体でみると、「男性」と回答した委員の割合が70.9%(901名)で、「女性」と回答した委員の割合が20.9%(265名)でした。

■ 圏域別 クロス集計 (回答率)

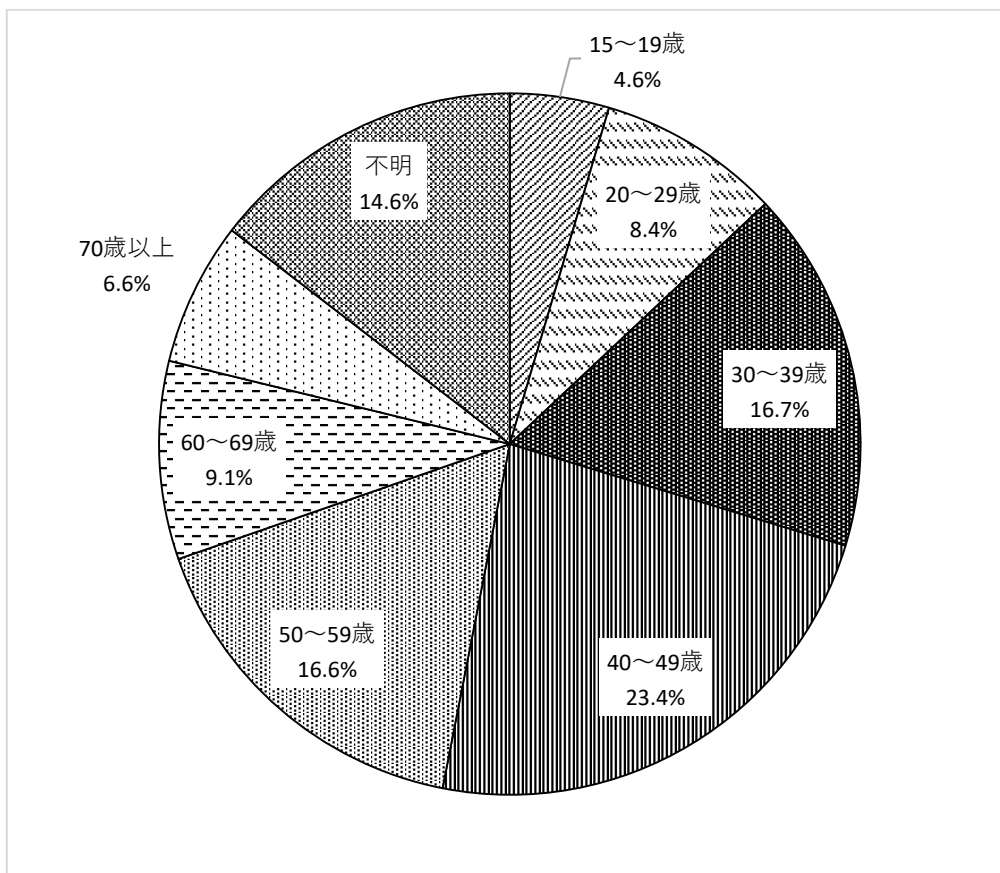


圏域別構成比で見ると、比較的同じ傾向にありますが、「男性」と回答した委員の割合が「伊賀地域」では、他の圏域よりも高く、「南勢志摩地域」では低い傾向が明らかになりました。

(2) 年齢

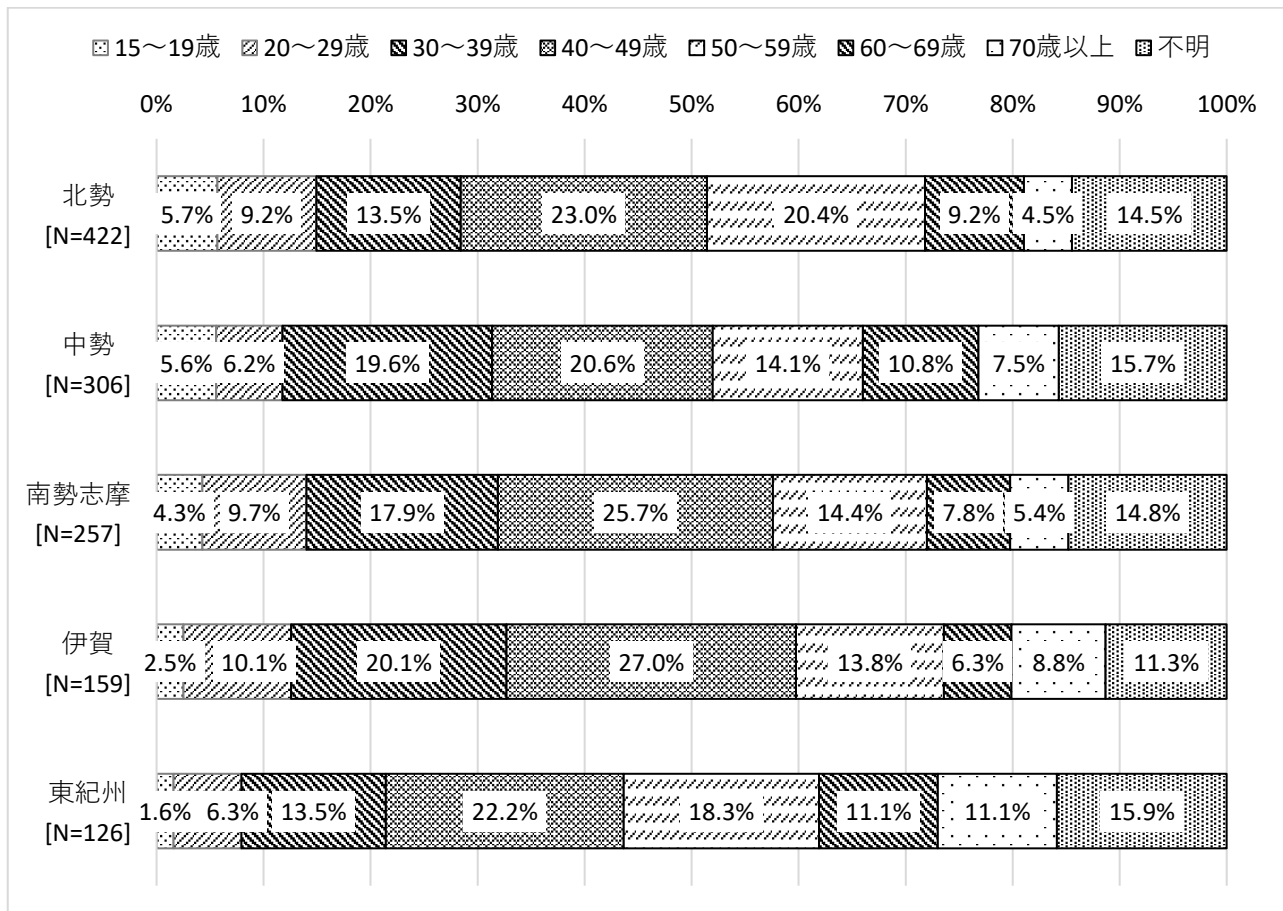
		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
15～19歳	回答	58	24	17	11	4	2
	比率	4.6%	5.7%	5.6%	4.3%	2.5%	1.6%
20～29歳	回答	107	39	19	25	16	8
	比率	8.4%	9.2%	6.2%	9.7%	10.1%	6.3%
30～39歳	回答	212	57	60	46	32	17
	比率	16.7%	13.5%	19.6%	17.9%	20.1%	13.5%
40～49歳	回答	297	97	63	66	43	28
	比率	23.4%	23.0%	20.6%	25.7%	27.0%	22.2%
50～59歳	回答	211	86	43	37	22	23
	比率	16.6%	20.4%	14.1%	14.4%	13.8%	18.3%
60～69歳	回答	116	39	33	20	10	14
	比率	9.1%	9.2%	10.8%	7.8%	6.3%	11.1%
70歳以上	回答	84	19	23	14	14	14
	比率	6.6%	4.5%	7.5%	5.4%	8.8%	11.1%
不明	回答	185	61	48	38	18	20
	比率	14.6%	14.5%	15.7%	14.8%	11.3%	15.9%

■ 県全体 単集計 (回答率)



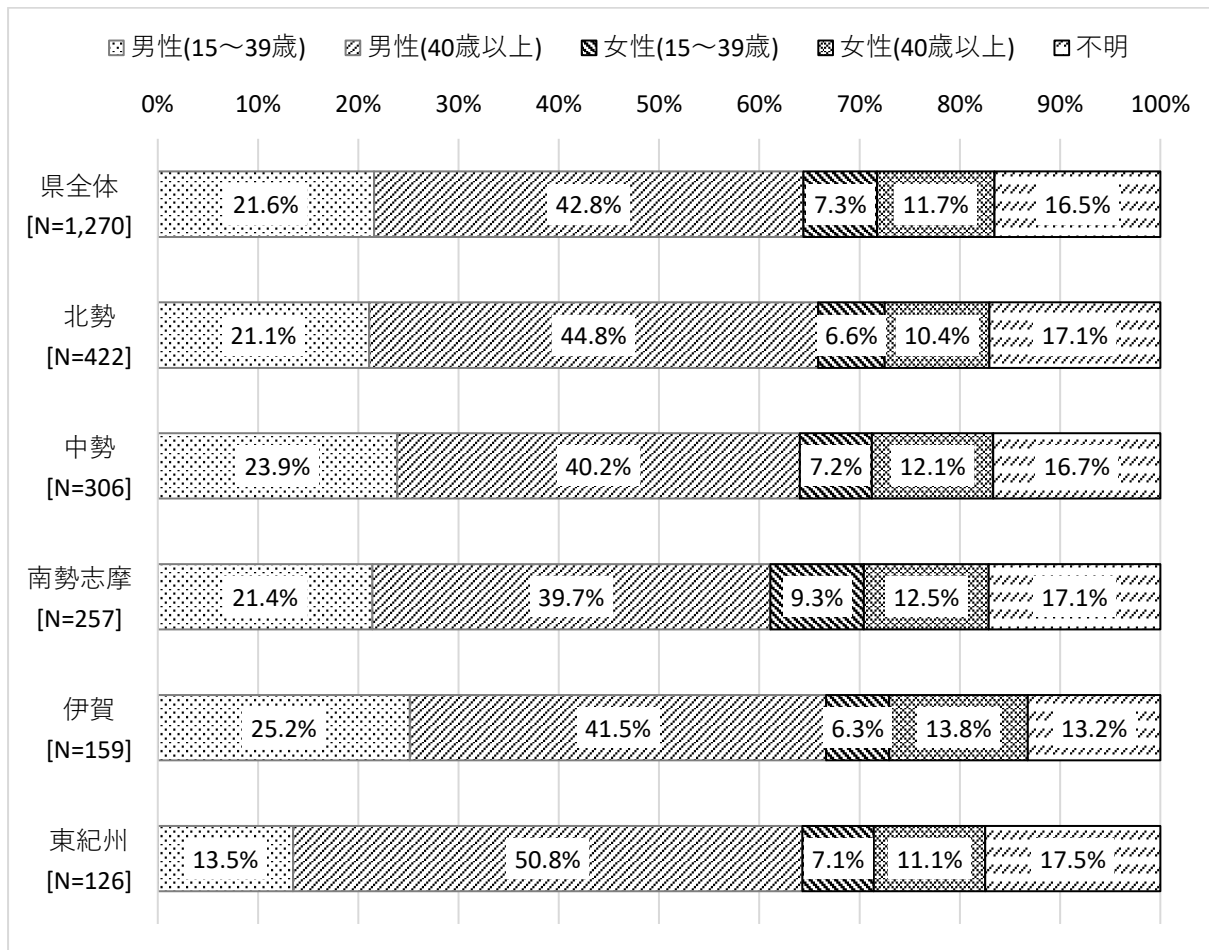
ひきこもりの状態にある方の年齢について、県全体でみると、「40～49歳」と回答した委員の割合が23.4%(297名)と最も高く、次いで「30～39歳」が16.7%(212名)、「50～59歳」が16.6%(211名)という結果になりました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）



圏域別構成比で見ると、「東紀州地域」では、他の圏域とやや傾向が異なり、「15～39歳」の年齢層と回答した委員の割合が21.4%（27名）と他の圏域よりも低く、「40歳以上」の年齢層と回答した委員の割合が62.7%（79名）と他の圏域よりも高い傾向が明らかになりました。

■ 圏域別及び性年齢別 クロス集計（回答数）



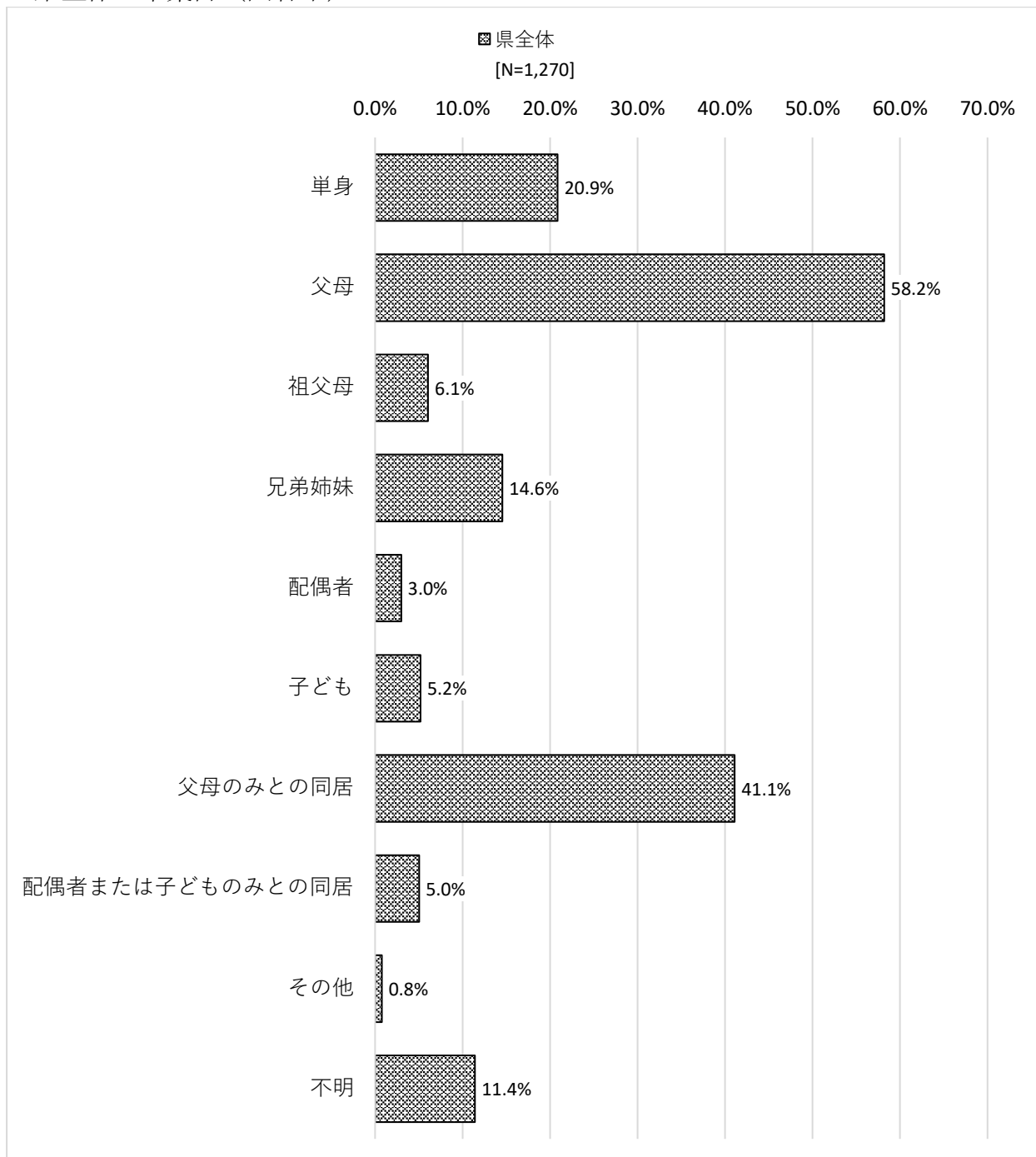
性年齢別で見ると、「男性(40歳以上)」と回答した委員の割合が42.8%(544名)と最も高く、次いで「男性(15~39歳)」が21.6%(274名)、「女性(40歳以上)」が11.7%(149名)、「女性(15~39歳)」が7.3%(93名)という結果になりました。

圏域別と性年齢別のクロス集計で見ると、「東紀州地域」では、「男性(15~39歳)」と回答した委員の割合が13.5%と他の圏域よりも低く、「男性(40歳以上)」が50.8%と他の圏域よりも高い傾向が明らかになりました。

(3) 家族構成

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
単身	回答	265	92	74	33	23	43
	比率	20.9%	21.8%	24.2%	12.8%	14.5%	34.1%
父母	回答	739	252	152	170	103	62
	比率	58.2%	59.7%	49.7%	66.1%	64.8%	49.2%
祖父母	回答	77	19	25	20	11	2
	比率	6.1%	4.5%	8.2%	7.8%	6.9%	1.6%
兄弟姉妹	回答	185	62	42	46	24	11
	比率	14.6%	14.7%	13.7%	17.9%	15.1%	8.7%
配偶者	回答	38	9	9	7	9	4
	比率	3.0%	2.1%	2.9%	2.7%	5.7%	3.2%
子ども	回答	66	20	22	15	8	1
	比率	5.2%	4.7%	7.2%	5.8%	5.0%	0.8%
父母のみとの同居(※)	回答	522	179	97	117	74	55
	比率	41.1%	42.4%	31.7%	45.5%	46.5%	43.7%
配偶者または子どものみとの同居(※)	回答	64	16	17	15	11	5
	比率	5.0%	3.8%	5.6%	5.8%	6.9%	4.0%
その他	回答	10	3	3	3	1	0
	比率	0.8%	0.7%	1.0%	1.2%	0.6%	0.0%
不明	回答	145	47	46	25	16	11
	比率	11.4%	11.1%	15.0%	9.7%	10.1%	8.7%

■ 県全体 単集計 (回答率)

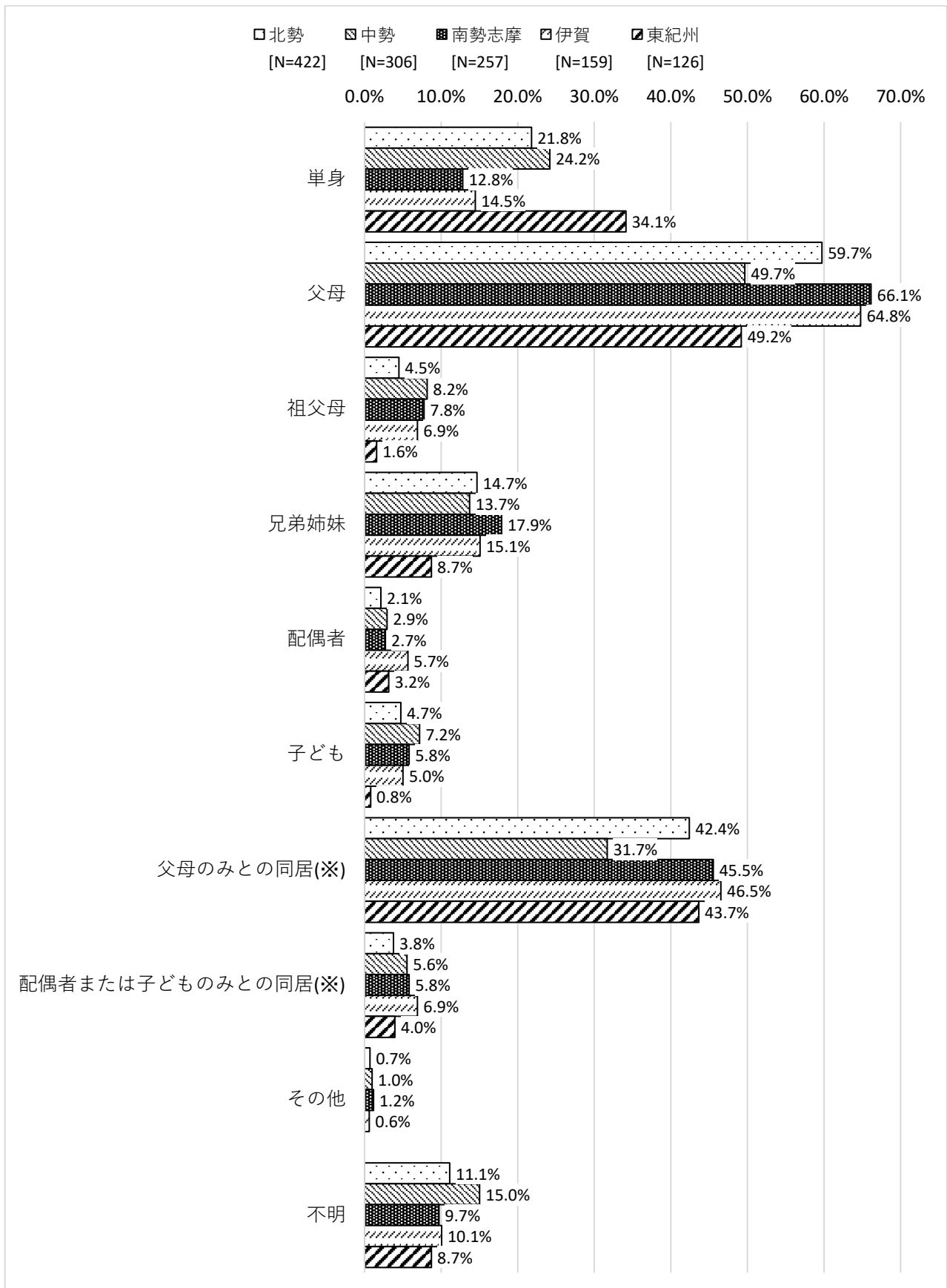


ひきこもりの状態にある方の家族構成について、県全体でみると、「父母」と回答した委員の割合が58.2%(739名)と最も高く、次いで、「父母のみとの同居 (※)」が41.1%(522名)、「単身」が20.9%(265名)という結果でした。

※家族構成について

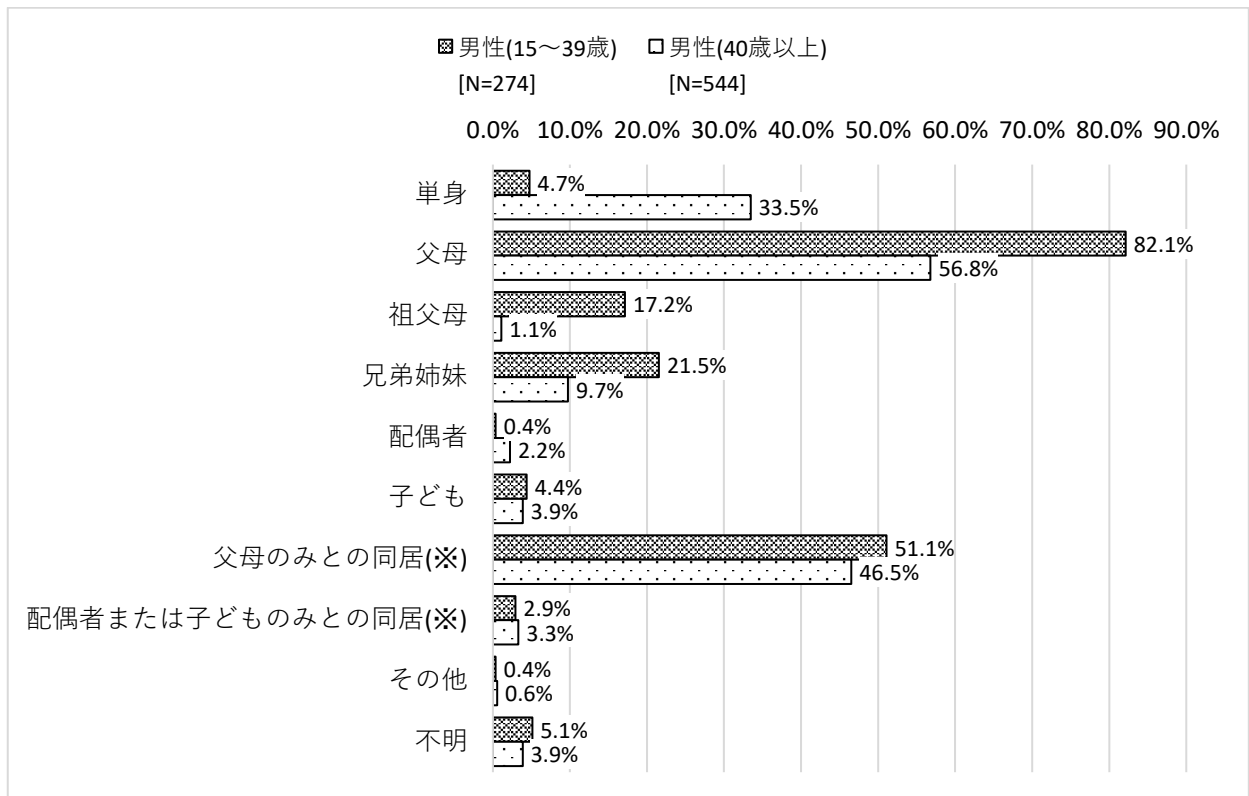
- ・ 父母のみとの同居：「父母」を選択した回答のうち、他の質問項目を重複して選択していない回答
- ・ 配偶者または子どものみとの同居：「配偶者」または「子ども」を選択した回答のうち、他の質問項目を重複して選択していない回答

■ 圏域別 クロス集計 (回答率)

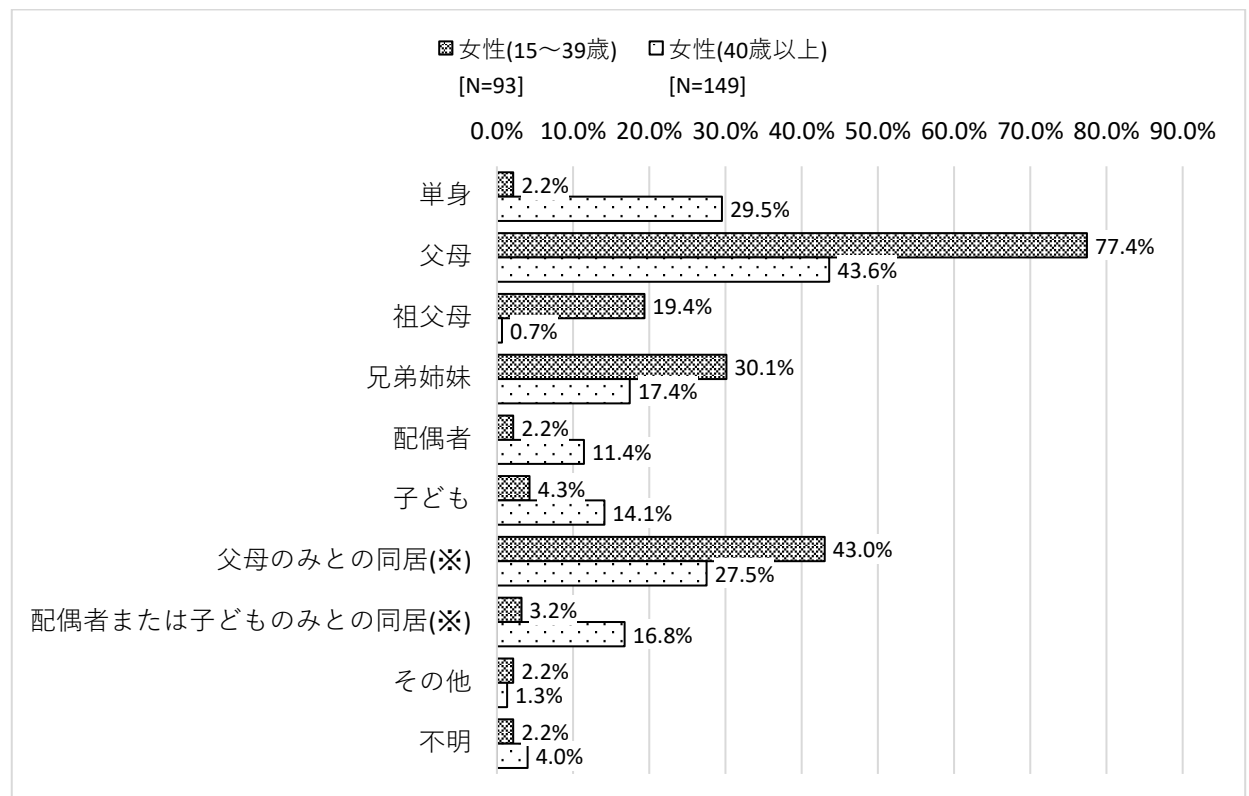


圏域別でみると、比較的同じ傾向にありますが、「東紀州地域」では、「単身」と回答した委員の割合が34.1%（43名）と他の圏域よりも高く、「中勢地域」では、「父母のみとの同居」と回答した委員の割合が31.7%（97名）と他の圏域よりも低いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計 (回答率) ①男性



■ 県全体 性年齢別 クロス集計 (回答率) ②女性



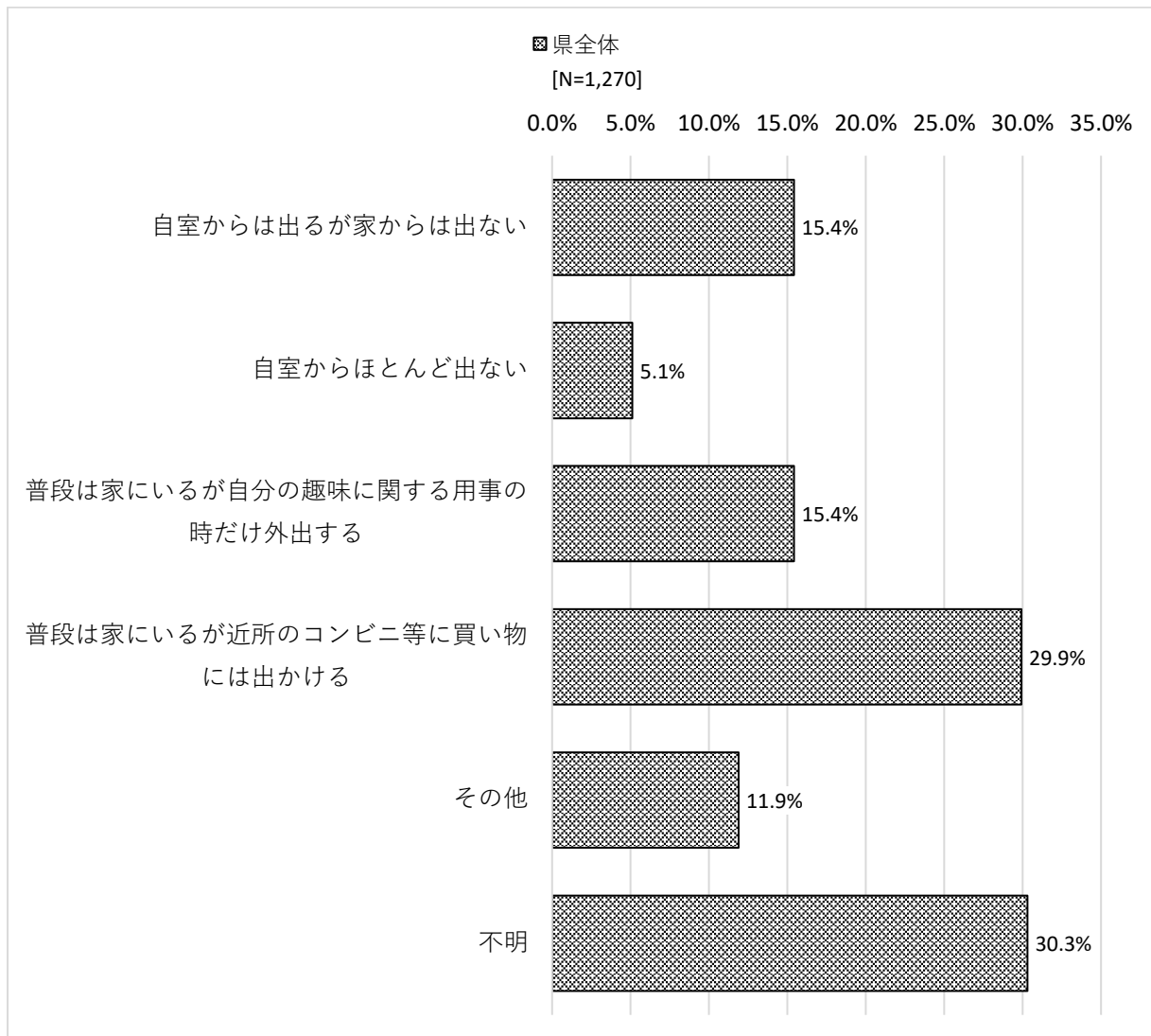
性年齢別でみると、「単身」と回答した委員の割合は、「女性(15～39歳)」が相対的に低いことが明らかになりました。また、「男性(40歳以上)」では、「父母」や「父母のみとの同居」と回答した委員の割合が相対的に高く、「女性(40歳以上)」では「父母」や「単身」と回答した委員の割合が相対的に高いという結果になりました。

「女性(40歳以上)」では、「配偶者」「子ども」「配偶者または子どものみとの同居」と回答した委員の割合が「女性(15～39歳)」よりも高い傾向にありました。

(4) 外出状況

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
自室からは出るが家からは出ない	回答	196	61	51	47	19	18
	比率	15.4%	14.5%	16.7%	18.3%	11.9%	14.3%
自室からほとんど出ない	回答	65	20	13	14	12	6
	比率	5.1%	4.7%	4.2%	5.4%	7.5%	4.8%
普段は家にいるが自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	回答	196	68	45	39	29	15
	比率	15.4%	16.1%	14.7%	15.2%	18.2%	11.9%
普段は家にいるが近所のコンビニ等買い物には出かける	回答	380	132	87	65	52	44
	比率	29.9%	31.3%	28.4%	25.3%	32.7%	34.9%
その他	回答	151	50	38	34	20	9
	比率	11.9%	11.8%	12.4%	13.2%	12.6%	7.1%
不明	回答	385	125	103	76	43	38
	比率	30.3%	29.6%	33.7%	29.6%	27.0%	30.2%

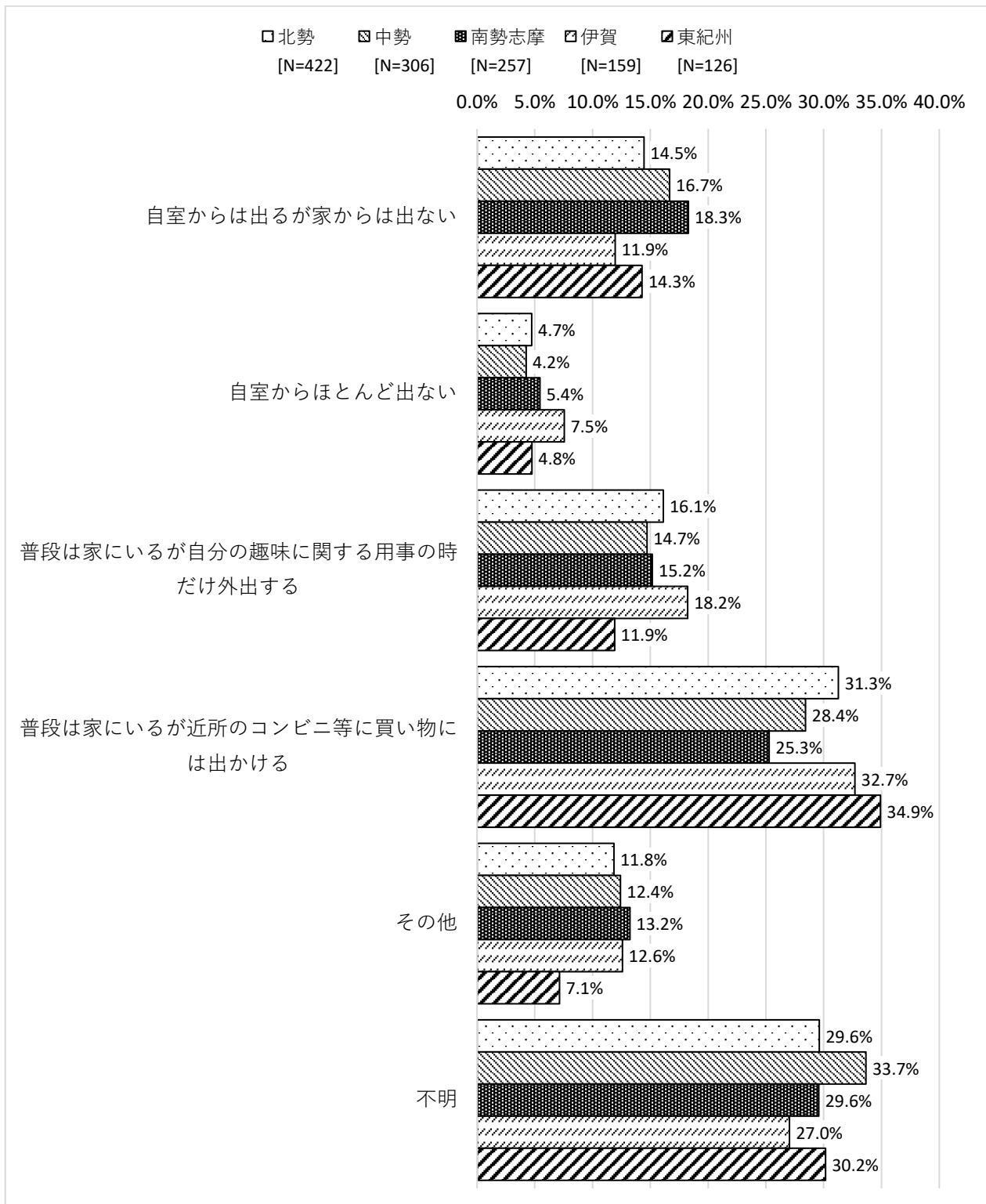
■ 県全体 単集計（回答率）



ひきこもり状態にある方の外出状況について、県全体でみると、「普段は家にいるが近所のコンビニ等に買い物には出かける」と回答した委員の割合が29.9%(380名)と高くなる一方、「自室からほとんど出ない」が5.1%(65名)と低い結果になりました。

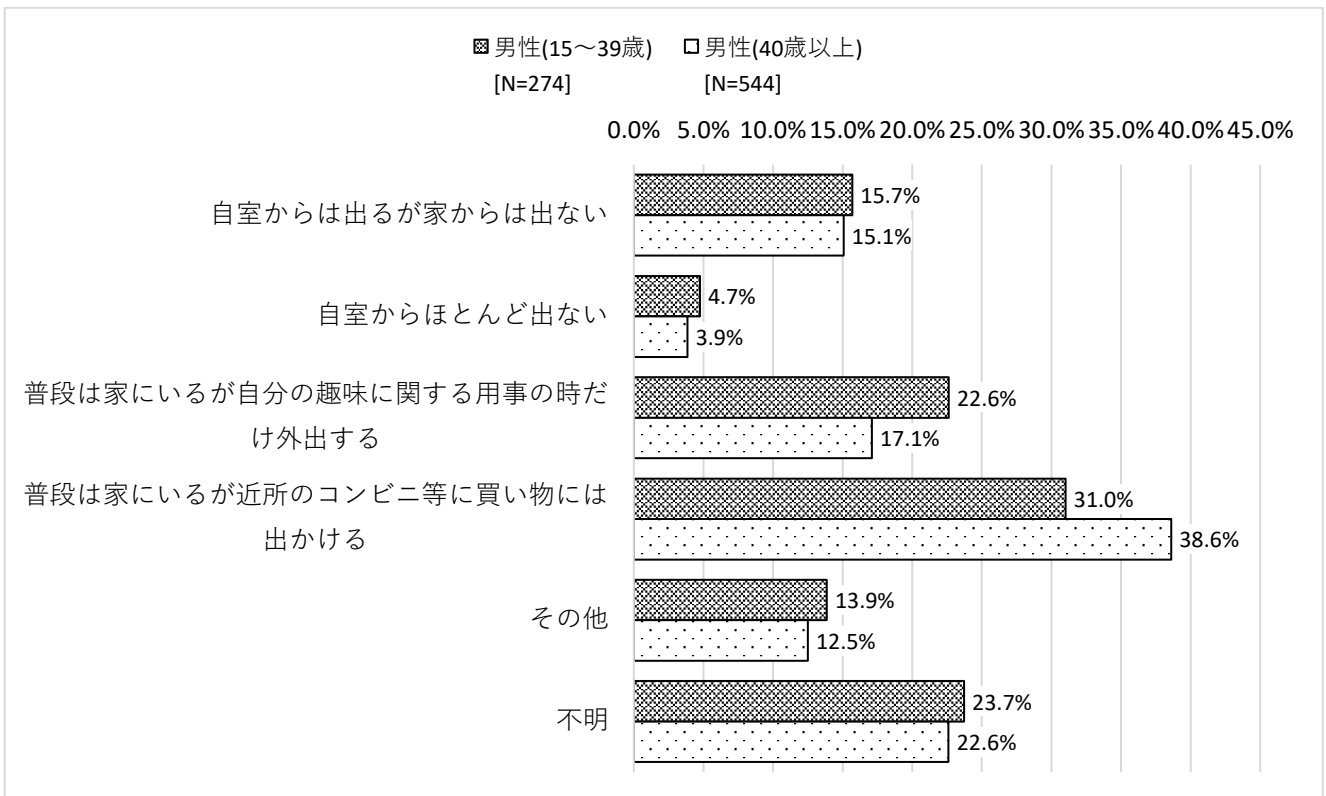
「その他」の項目に関しては、「スーパーへの買い物」「父母との買い物への同行」「通院、ハローワーク」「子供の送迎」「犬の散歩」「ゴミ捨て」などの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）

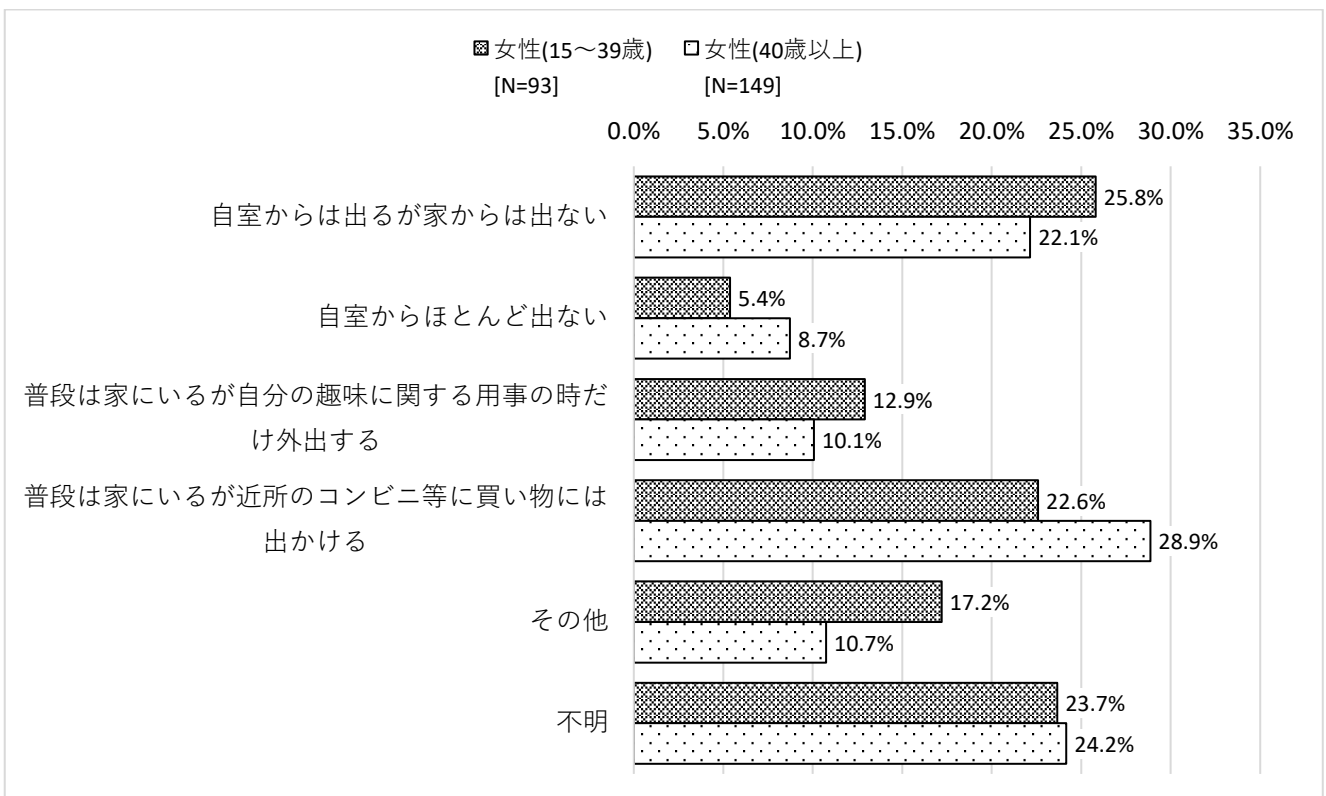


圏域別でみると、「東紀州地域」では、「普段は家にいるが近所のコンビニ等買い物には出かける」と回答した委員の割合が34.9%（44名）と他の圏域よりも高く、「伊賀地域」では、「自室からは出るが家からは出ない」と回答した委員の割合が11.9%（19名）と他の圏域よりも低いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率）①男性



■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率）②女性



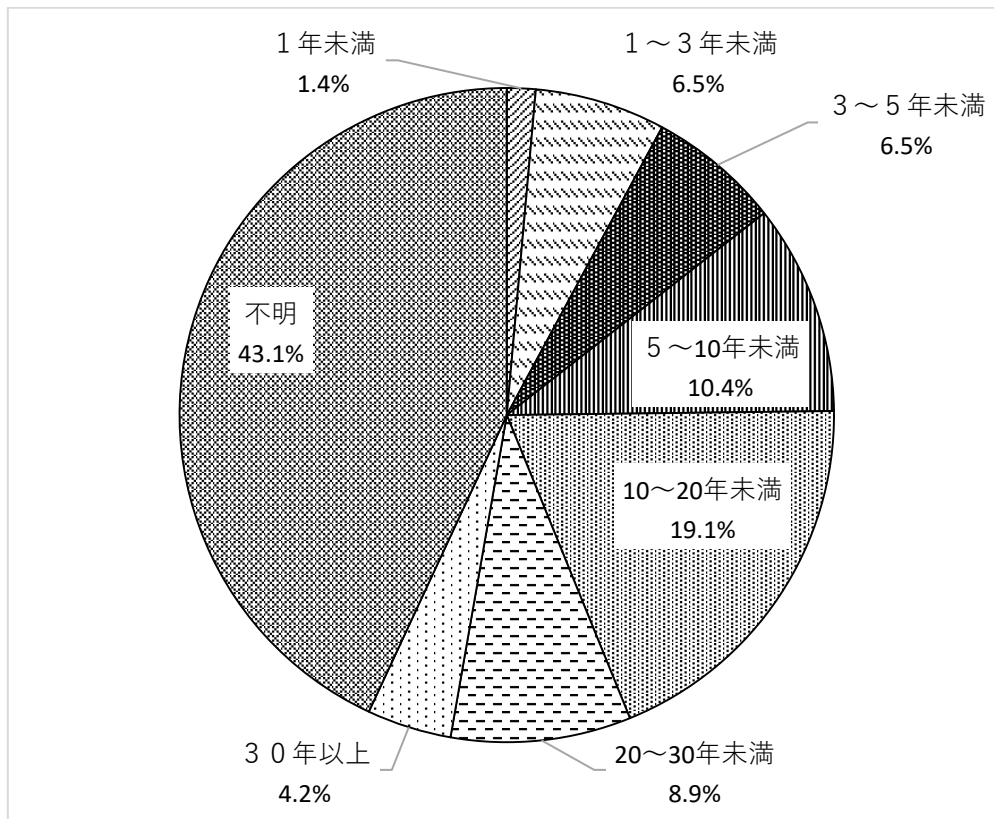
性年齢別でみると、「普段は家にいるが近所のコンビニ等に買い物には出かける」と回答した委員の割合は、「男性(40歳以上)」が38.6%と相対的に高いことが明らかになりました。

また、「自室からほとんど出ない」と回答した委員の割合は、男性では、「40歳以上」より「15～39歳」が高く、女性では、「15～39歳」より「40歳以上」が高いという結果となり、「男性(40歳以上)」では3.9%と相対的に低いことが明らかになりました。

(5) ひきこもりの状態になってからの期間

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
1年未満	回答	18	4	5	4	2	3
	比率	1.4%	0.9%	1.6%	1.6%	1.3%	2.4%
1～3年未満	回答	82	27	23	16	5	11
	比率	6.5%	6.4%	7.5%	6.2%	3.1%	8.7%
3～5年未満	回答	83	30	19	19	10	5
	比率	6.5%	7.1%	6.2%	7.4%	6.3%	4.0%
5～10年未満	回答	132	49	35	22	11	15
	比率	10.4%	11.6%	11.4%	8.6%	6.9%	11.9%
10～20年未満	回答	242	82	58	49	33	20
	比率	19.1%	19.4%	19.0%	19.1%	20.8%	15.9%
20～30年未満	回答	113	37	23	25	19	9
	比率	8.9%	8.8%	7.5%	9.7%	11.9%	7.1%
30年以上	回答	53	17	12	9	9	6
	比率	4.2%	4.0%	3.9%	3.5%	5.7%	4.8%
不明	回答	547	176	131	113	70	57
	比率	43.1%	41.7%	42.8%	44.0%	44.0%	45.2%

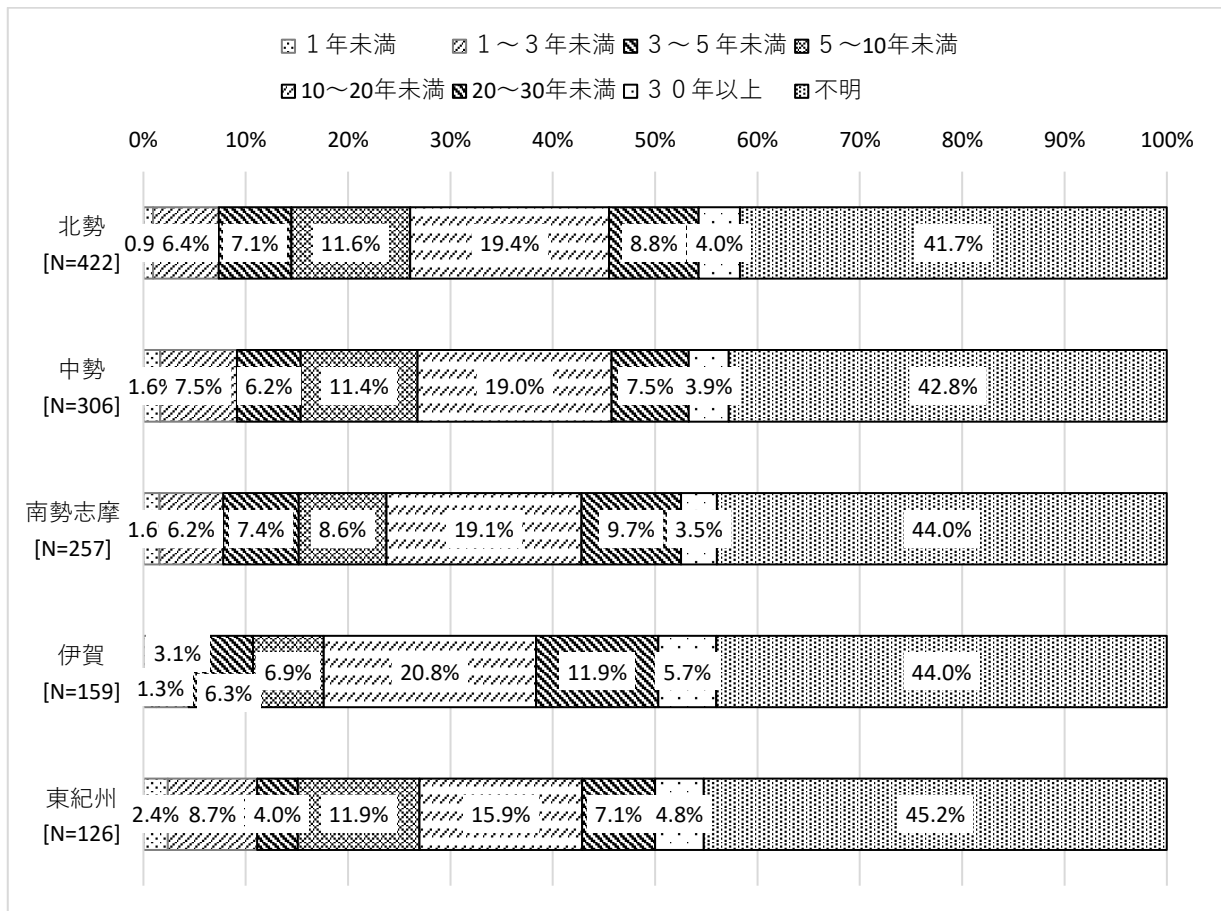
■ 県全体 単集計 (回答率)



ひきこもりの状態になってからの期間について、県全体でみると、「10～20年未満」と回答した委員の割合が19.1%(242名)と最も高く、次いで「5～10年未満」が10.4%(132名)、「20～30年未満」が8.9%(113名)という結果になりました。

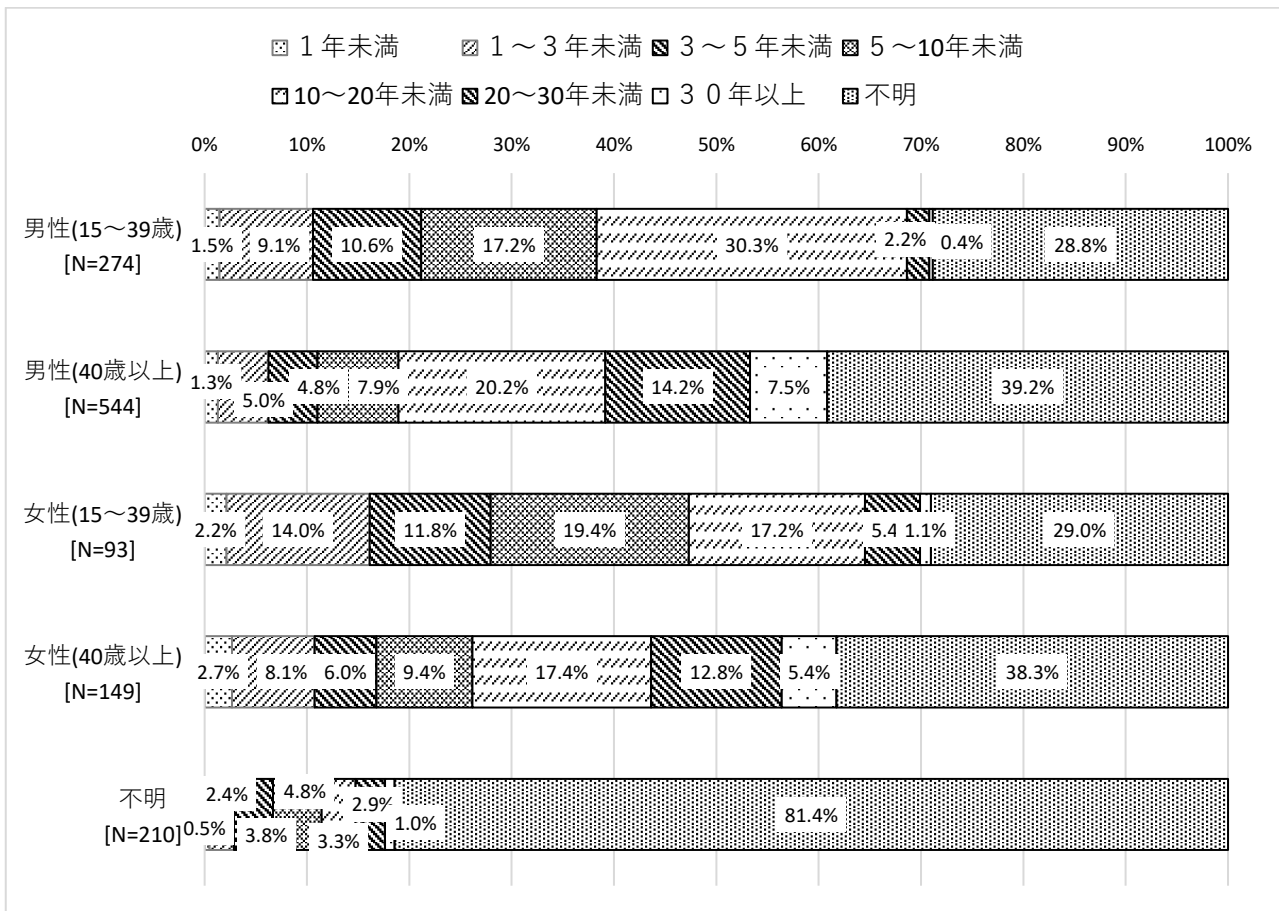
また「5年未満」と回答した委員の割合は14.4%(183名)で、「5年以上」と回答した委員の割合は42.5%(540名)となりました。

■ 圏域別 クロス集計 (回答率)



圏域別構成比で見ると、「伊賀地域」では「5年以上」と回答した委員の割合が45.3%（72名）と他の圏域よりも高いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計 (回答率)

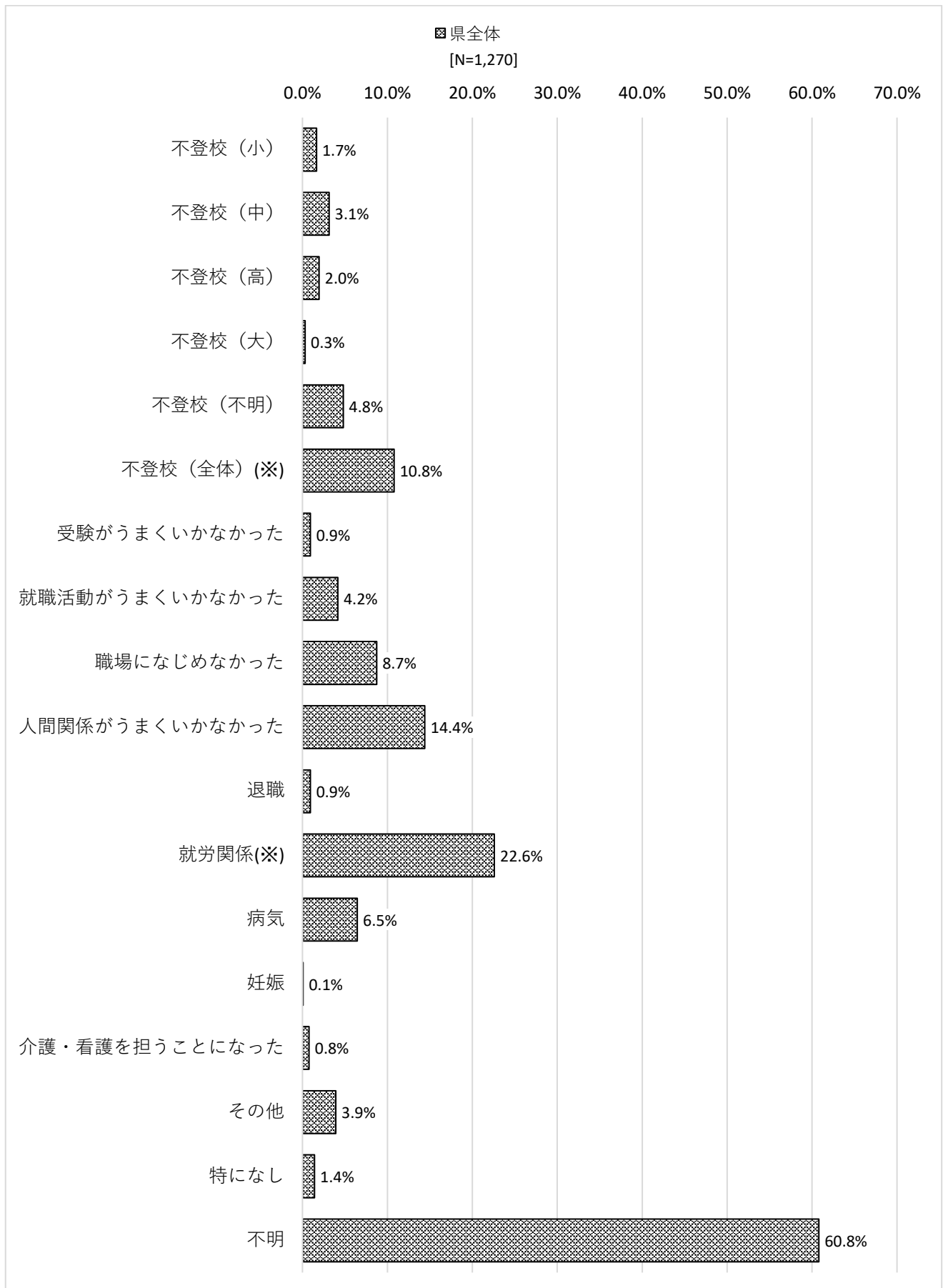


性年齢別で見ると、どの性年齢区分でも「5年以上」と回答した委員の割合が40%以上を占めていますが、「男性(15~39歳)」、「女性(15~39歳)」ともに経過年数が相対的に短い傾向にあることが明らかになりました。

(6) ひきこもりの状態になった経緯・きっかけ

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
不登校（小）	回答	21	8	4	4	4	1
	比率	1.7%	1.9%	1.3%	1.6%	2.5%	0.8%
不登校（中）	回答	40	19	13	3	4	1
	比率	3.1%	4.5%	4.2%	1.2%	2.5%	0.8%
不登校（高）	回答	25	11	6	3	4	1
	比率	2.0%	2.6%	2.0%	1.2%	2.5%	0.8%
不登校（大）	回答	4	0	2	2	0	0
	比率	0.3%	0.0%	0.7%	0.8%	0.0%	0.0%
不登校（不明）	回答	61	28	11	12	9	1
	比率	4.8%	6.6%	3.6%	4.7%	5.7%	0.8%
不登校（全体）（※）	回答	137	59	30	24	20	4
	比率	10.8%	14.0%	9.8%	9.3%	12.6%	3.2%
受験がうまくいかなかった	回答	12	5	2	4	1	0
	比率	0.9%	1.2%	0.7%	1.6%	0.6%	0.0%
就職活動がうまくいかなかった	回答	53	11	14	15	9	4
	比率	4.2%	2.6%	4.6%	5.8%	5.7%	3.2%
職場になじめなかった	回答	111	39	24	24	13	11
	比率	8.7%	9.2%	7.8%	9.3%	8.2%	8.7%
人間関係がうまくいかなかった	回答	183	68	31	41	29	14
	比率	14.4%	16.1%	10.1%	16.0%	18.2%	11.1%
退職	回答	12	1	2	4	2	3
	比率	0.9%	0.2%	0.7%	1.6%	1.3%	2.4%
就労関係（※）	回答	287	95	59	66	43	24
	比率	22.6%	22.5%	19.3%	25.7%	27.0%	19.0%
病気	回答	82	26	26	18	7	5
	比率	6.5%	6.2%	8.5%	7.0%	4.4%	4.0%
妊娠	回答	1	0	0	0	1	0
	比率	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%
介護・看護を担うことになった	回答	10	5	2	2	1	0
	比率	0.8%	1.2%	0.7%	0.8%	0.6%	0.0%
その他	回答	50	10	9	13	12	6
	比率	3.9%	2.4%	2.9%	5.1%	7.5%	4.8%
特になし	回答	18	6	5	3	1	3
	比率	1.4%	1.4%	1.6%	1.2%	0.6%	2.4%
不明	回答	772	243	194	153	92	90
	比率	60.8%	57.6%	63.4%	59.5%	57.9%	71.4%

■ 県全体 単集計 (回答率)



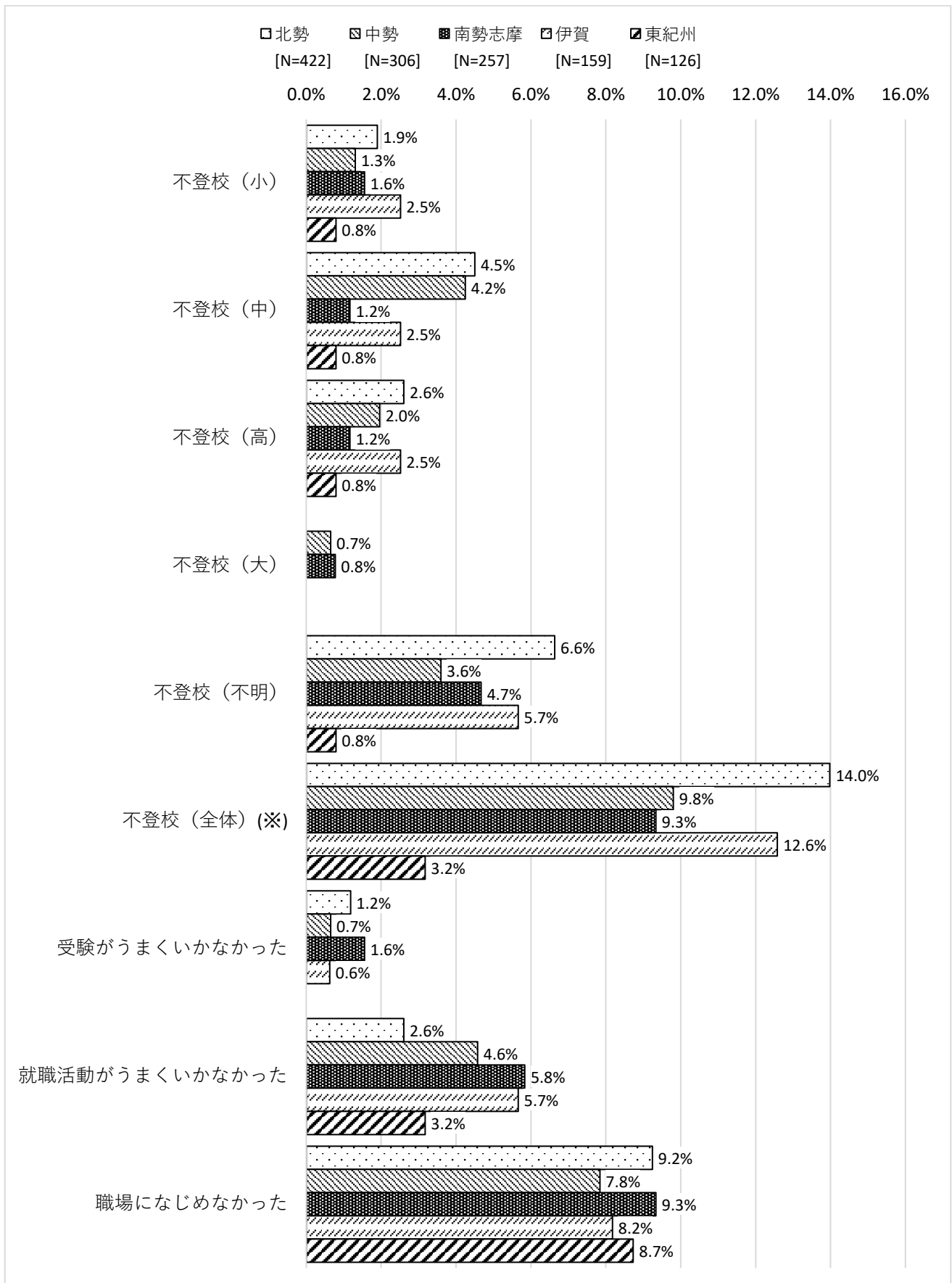
ひきこもりの状態になった経緯・きっかけについて、県全体でみると、「就職活動がうまくいかなかった」「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」「退職」の何れかを選択した「就労関係」に関する回答をした委員の割合が22.6%(287名)と高く、「不登校(小)」「不登校(中)」「不登校(高)」「不登校(大)」「不登校(不明)」の何れかを選択した「不登校」に関する回答をした委員の割合が10.8%(137名)という結果になりました。

「その他」の項目に関しては、「離婚」「お金がない」「交通事故」「引越し」「親の教育、しかり、注意」「親族の死亡を期に」「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大」を背景とした記述がありました。

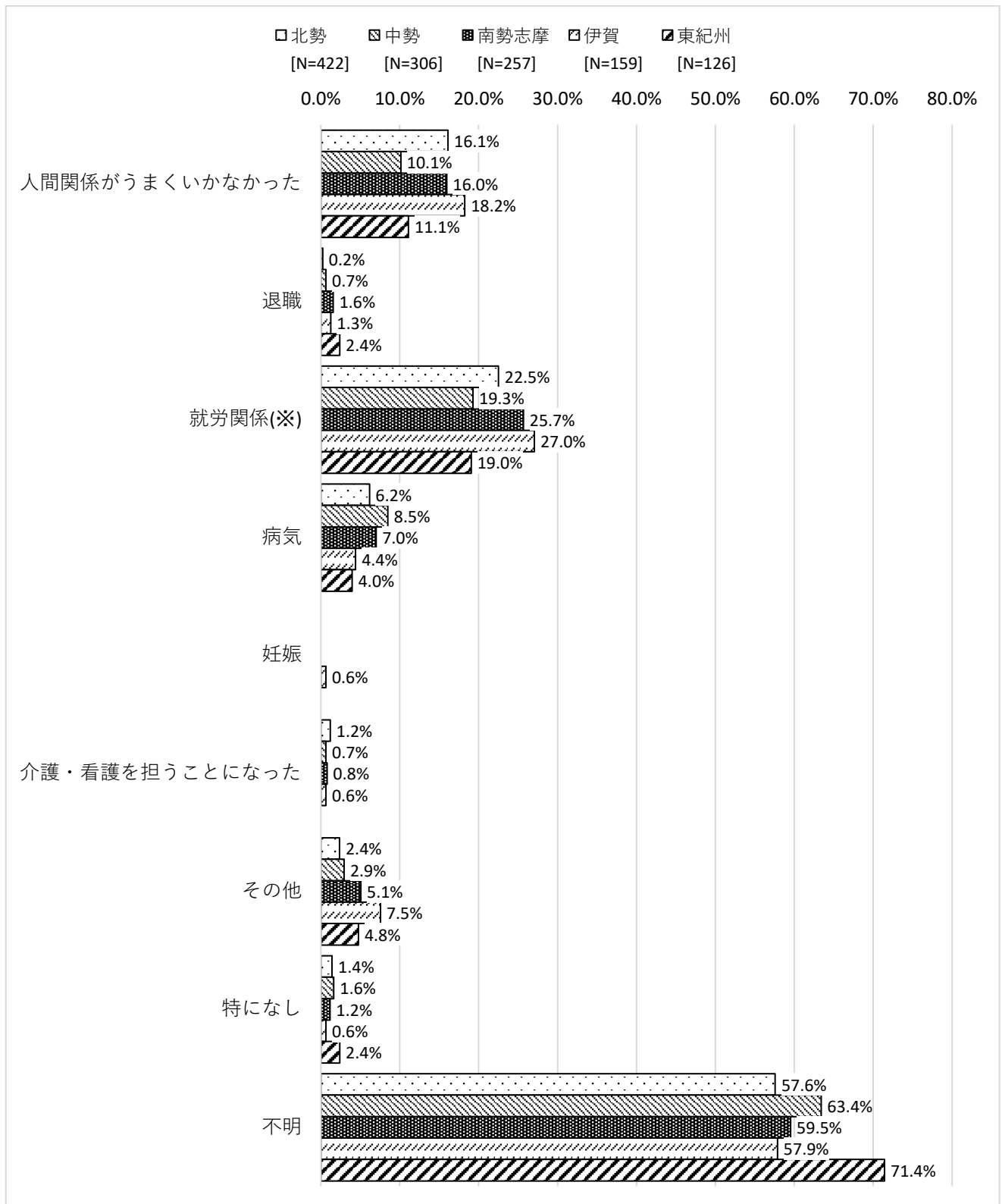
※ひきこもりの状態になった経緯・きっかけ

- ・不登校(全体)：「不登校(小)」「不登校(中)」「不登校(高)」「不登校(大)」「不登校(不明)」の何れかに該当するひきこもりの状態にある方
- ・就労関係：「就職活動がうまくいかなかった」「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」「退職」の何れかに該当するひきこもりの状態にある方

■ 圏域別 クロス集計（回答率）①

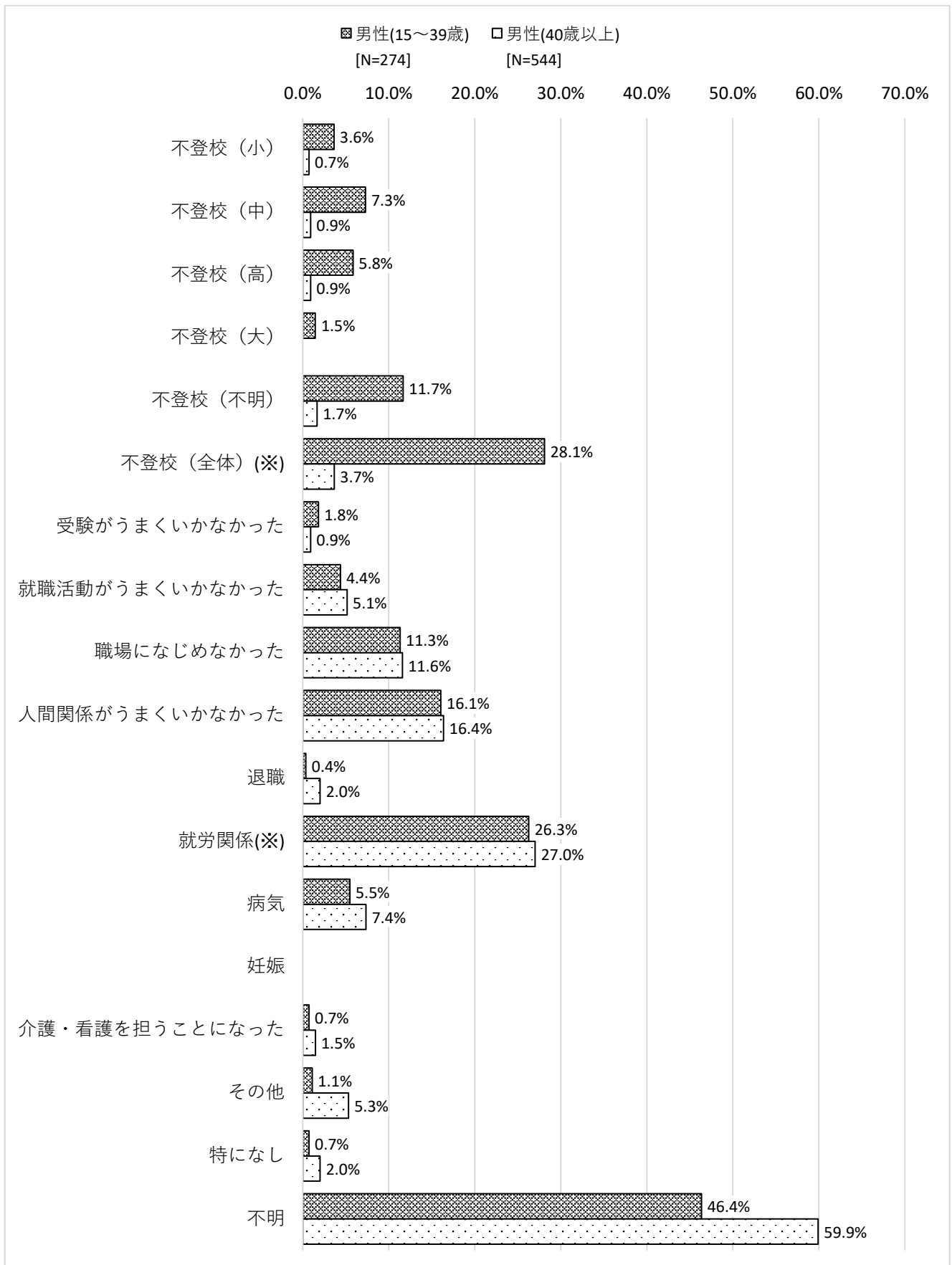


■ 圏域別 クロス集計（回答率）②

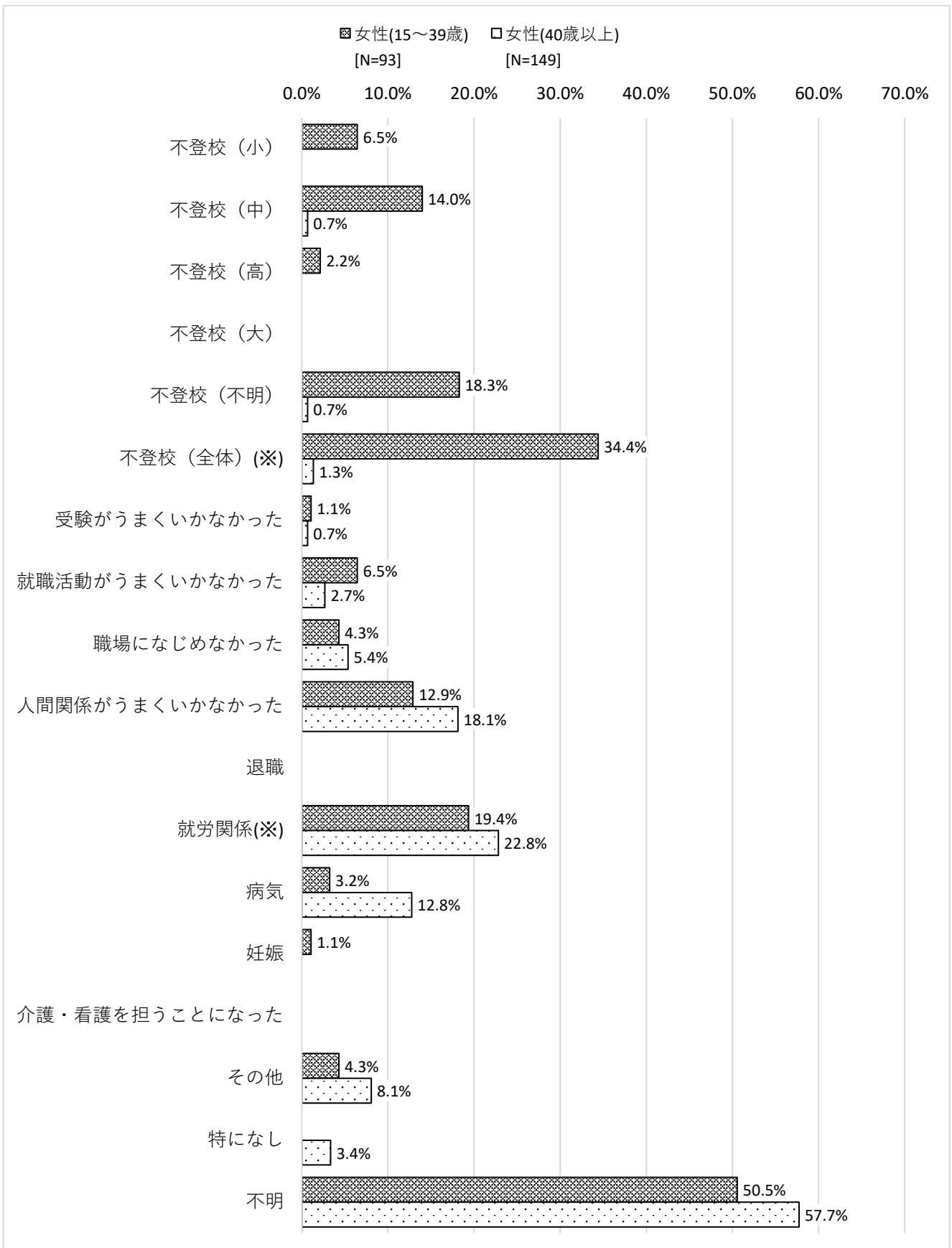


圏域別でみると、「北勢地域」では「不登校」に関する回答をした委員の割合が14.0%（59名）と他の圏域よりも高く、「伊賀地域」では「就労関係」に関する回答をした委員の割合が27.0%（43名）と他の圏域よりも高いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率） ①男性



■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率）②女性



性年齢別でみると、「男性(15～39歳)」では、「不登校」に関する回答をした委員の割合が高く、「就労関係」に関する回答が26.3%、「病気」が5.5%となり、「男性(40歳以上)」では、「就労関係」に関する回答をした委員の割合が27.0%と高く、「病気」が7.4%、「不登校」に関する回答が3.7%という結果になりました。

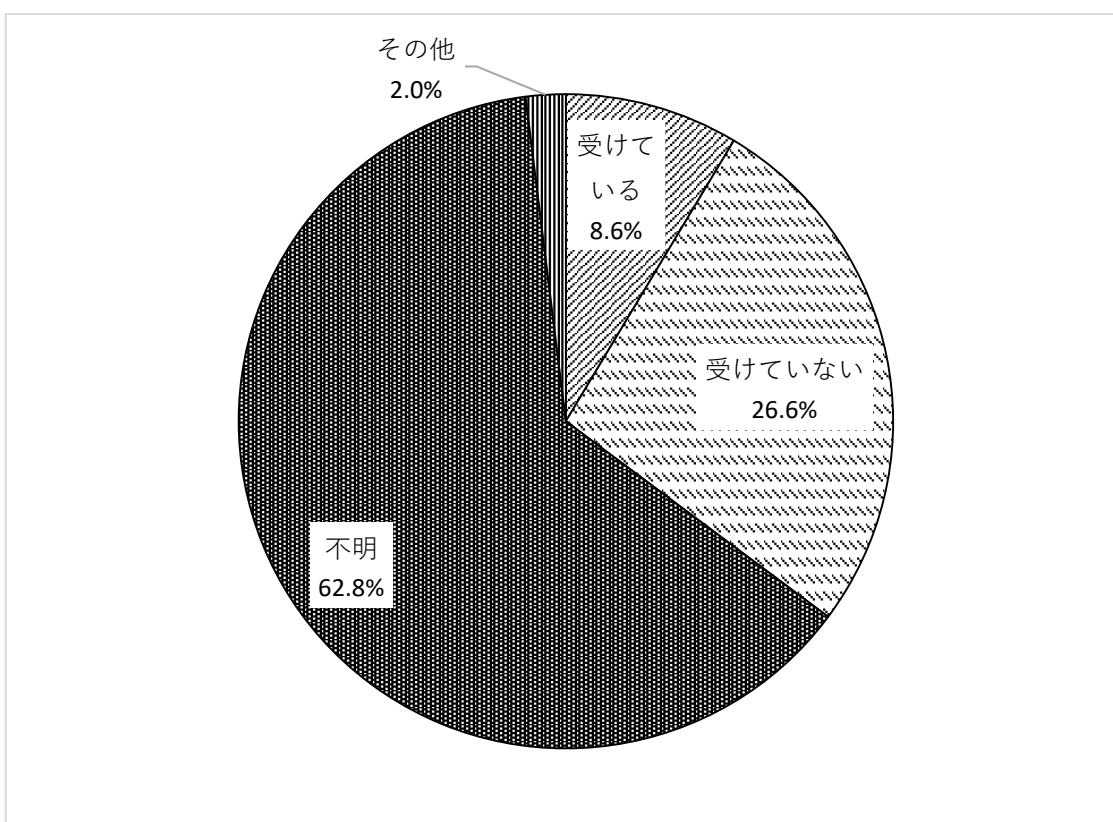
「女性(15～39歳)」では、「不登校」に関する回答をした委員の割合が34.4%と高く、「就労関係」に関する回答が19.4%、「その他」が4.3%となり、「女性(40歳以上)」では、「就労関係」に関する回答をした委員の割合が22.8%と高く、「病気」が12.8%、「その他」が8.1%という結果になりました。

性年齢別でみると、男女とも「15～39歳」では、「不登校」に関する回答をした委員の割合が高く、「40歳以上」では「就労関係」に関する回答をした委員の割合が高いことが明らかになりました。

(7) 現在の支援状況

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
受けている	回答	109	37	29	22	10	11
	比率	8.6%	8.8%	9.5%	8.6%	6.3%	8.7%
受けていない	回答	338	95	90	72	49	32
	比率	26.6%	22.5%	29.4%	28.0%	30.8%	25.4%
不明	回答	798	283	182	155	96	82
	比率	62.8%	67.1%	59.5%	60.3%	60.4%	65.1%
その他	回答	25	7	5	8	4	1
	比率	2.0%	1.7%	1.6%	3.1%	2.5%	0.8%

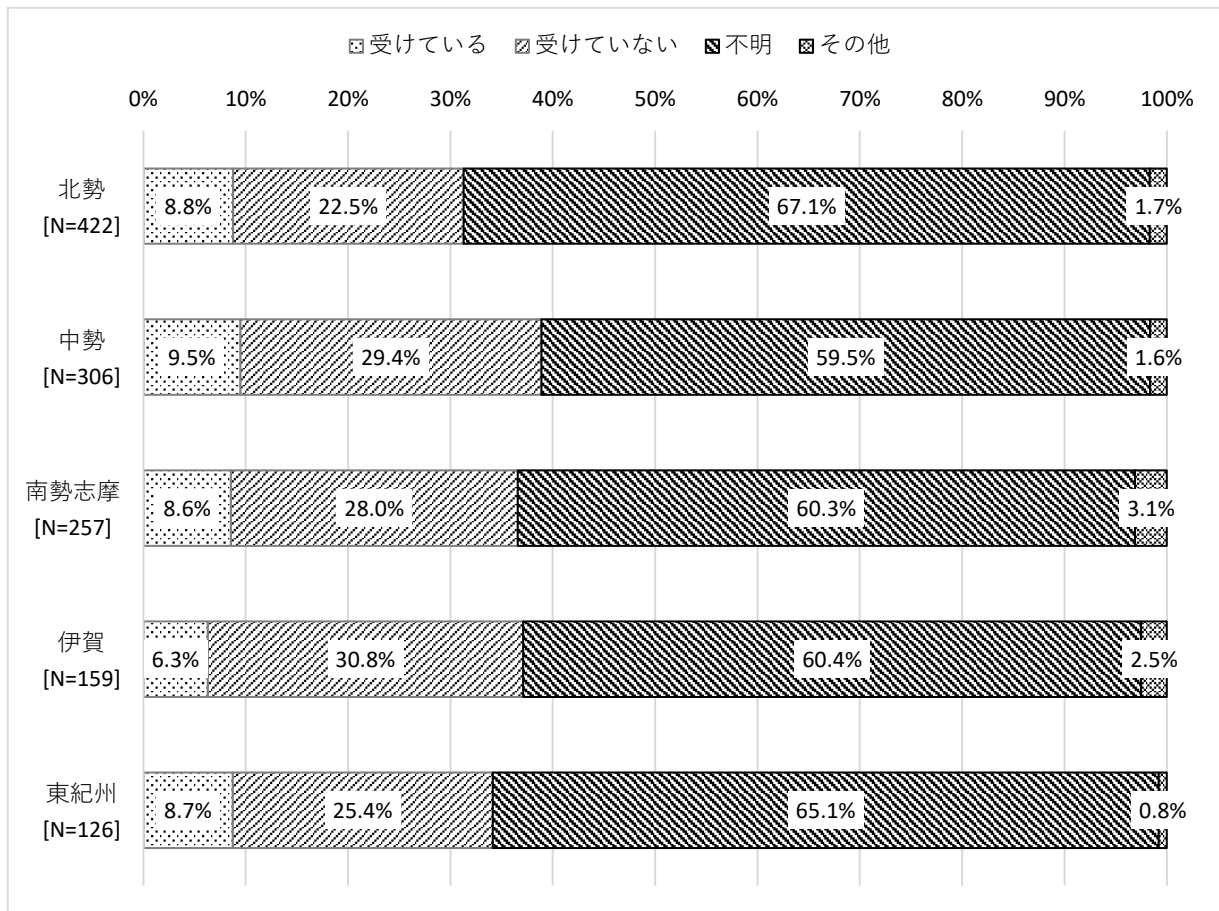
■ 県全体 単集計 (回答率)



ひきこもり状態にある方の現在の支援状況について、県全体でみると、「受けている」と回答した委員の割合が8.6%(109名)で、「受けていない」と回答した委員の割合が26.6%(338名)になりました。

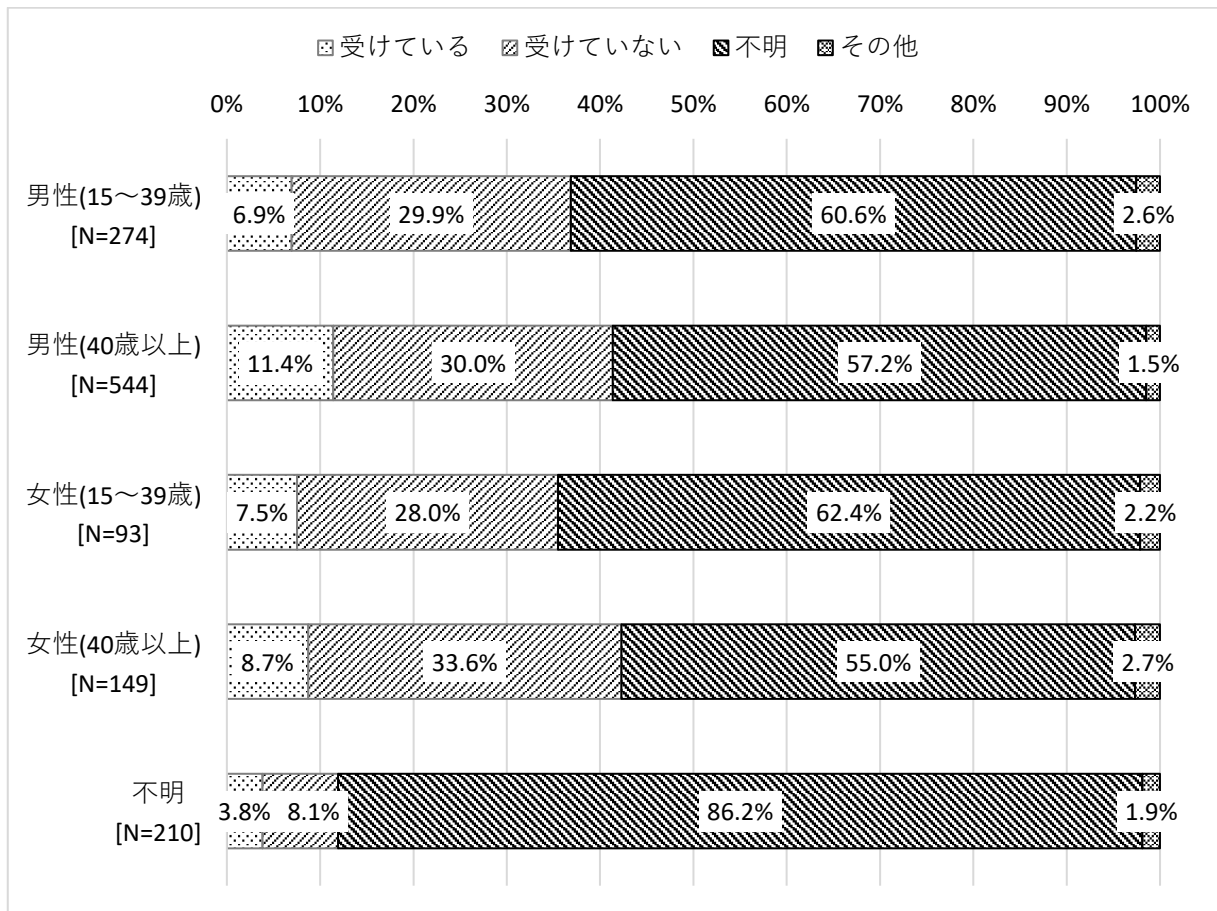
「受けている」と回答した委員のうち、現在利用している支援内容については、「介護サービス」「社会福祉協議会からの支援」「就労支援」「生活保護」「地域包括支援センター」「医療機関への通院」などの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）



圏域別構成比で見ると、比較的同じ傾向にありますが、「中勢地域」では「受けている」と回答した委員の割合が9.5%（29名）と他の圏域よりも高く、「伊賀地域」では「受けていない」と回答した委員の割合が30.8%（49名）と他の圏域よりも高いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計 (回答率)

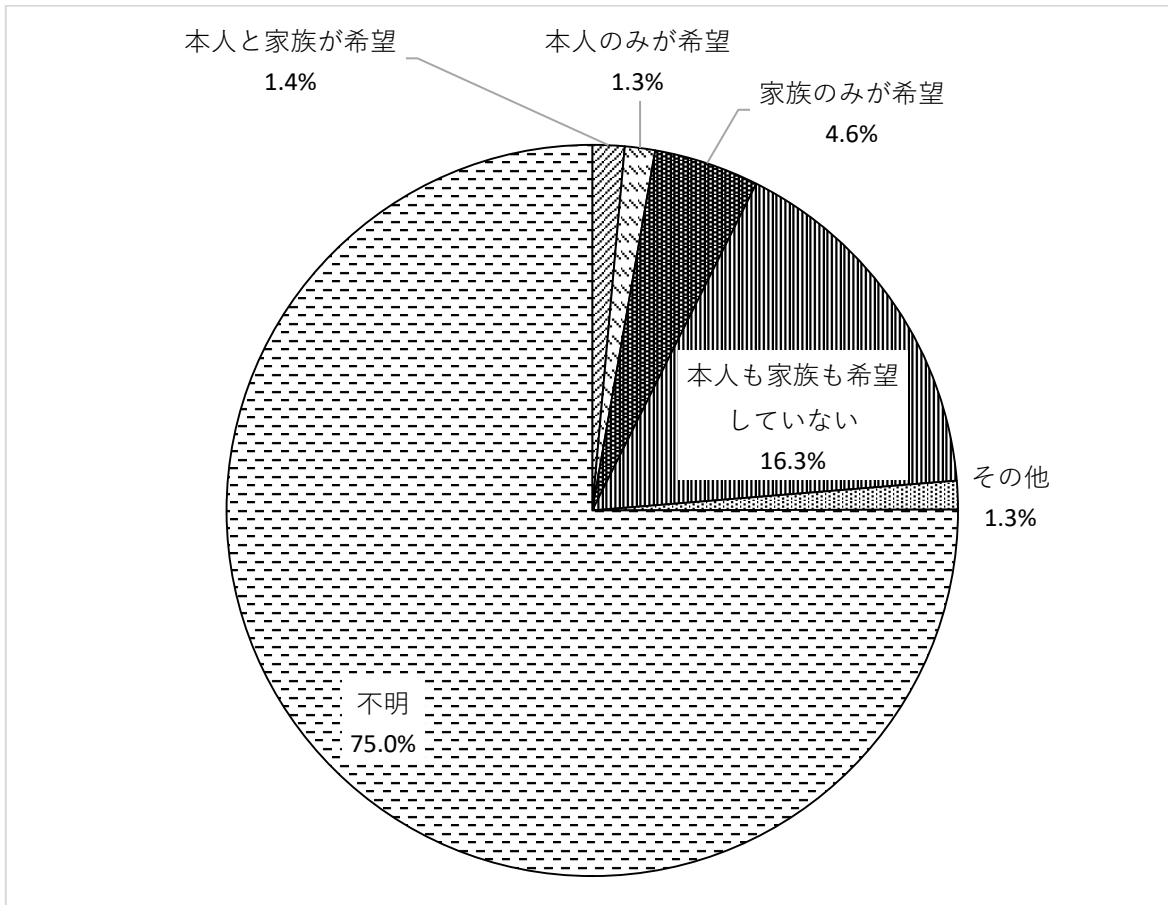


性年齢別で見ると、「男性(40歳以上)」で「受けている」と回答した委員の割合が11.4%と相対的に高くなり、「女性(40歳以上)」で「受けていない」と回答した委員の割合が33.6%と相対的に高いことが明らかになりました。

(8) 支援の希望の有無

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
本人と家族が希望	回答	18	2	8	3	4	1
	比率	1.4%	0.5%	2.6%	1.2%	2.5%	0.8%
本人のみが希望	回答	17	5	7	2	2	1
	比率	1.3%	1.2%	2.3%	0.8%	1.3%	0.8%
家族のみが希望	回答	59	17	18	11	12	1
	比率	4.6%	4.0%	5.9%	4.3%	7.5%	0.8%
本人も家族も希望していない	回答	207	60	60	48	22	17
	比率	16.3%	14.2%	19.6%	18.7%	13.8%	13.5%
その他	回答	16	6	2	5	2	1
	比率	1.3%	1.4%	0.7%	1.9%	1.3%	0.8%
不明	回答	953	332	211	188	117	105
	比率	75.0%	78.7%	69.0%	73.2%	73.6%	83.3%

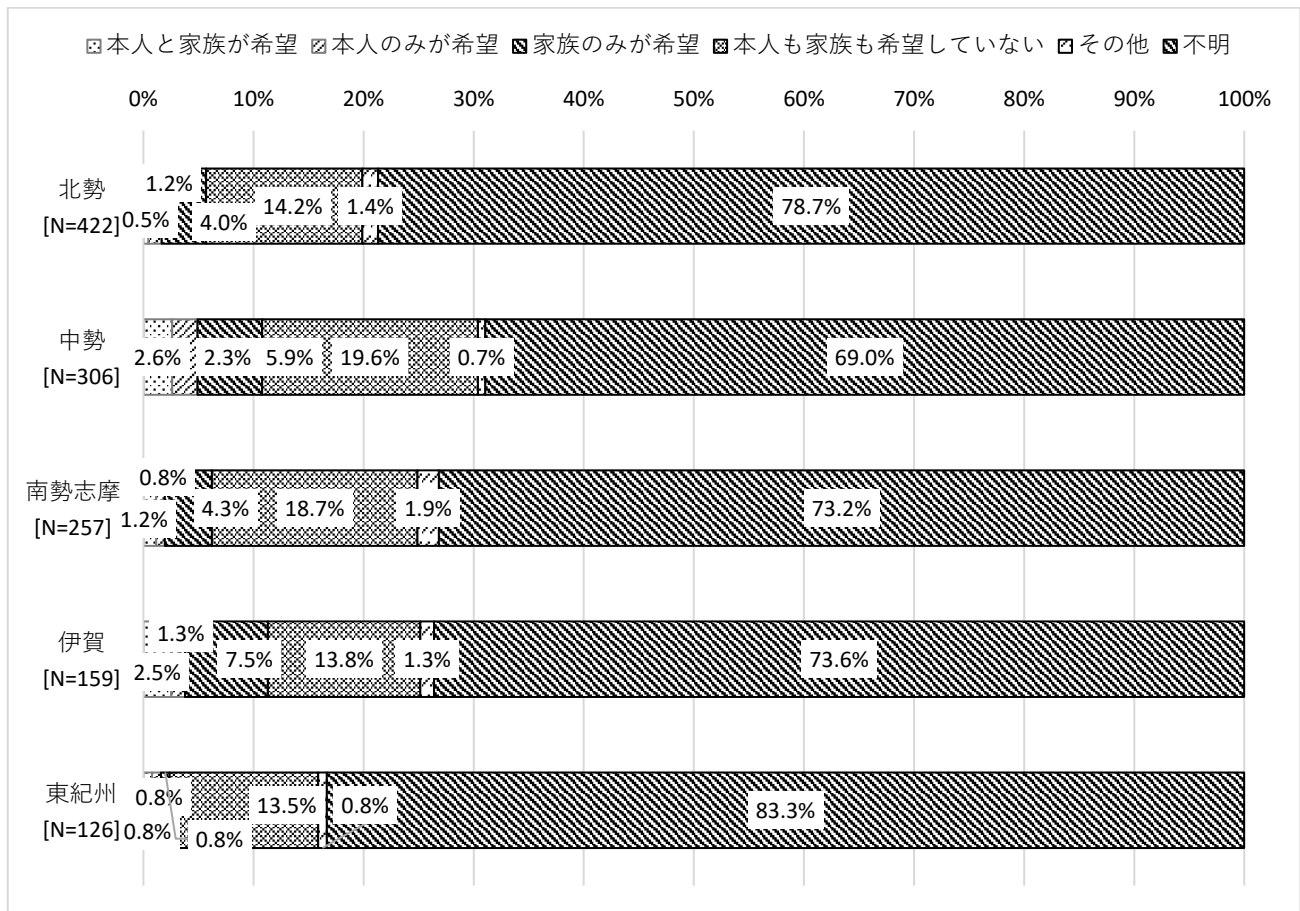
■ 県全体 単集計 (回答率)



ひきこもり状態にある方の支援の希望の有無について、県全体でみると、「本人も家族も希望していない」と回答した委員の割合が16.3%(207名)と最も高く、「本人と家族が希望」「本人のみが希望」「家族のみが希望」を合わせた「希望している」と回答した委員の割合が7.4%(94名)という結果になりました。

「その他」の項目に関しては、「親族」「近隣住民」「これから確かめていきたい」などの記述がありました。

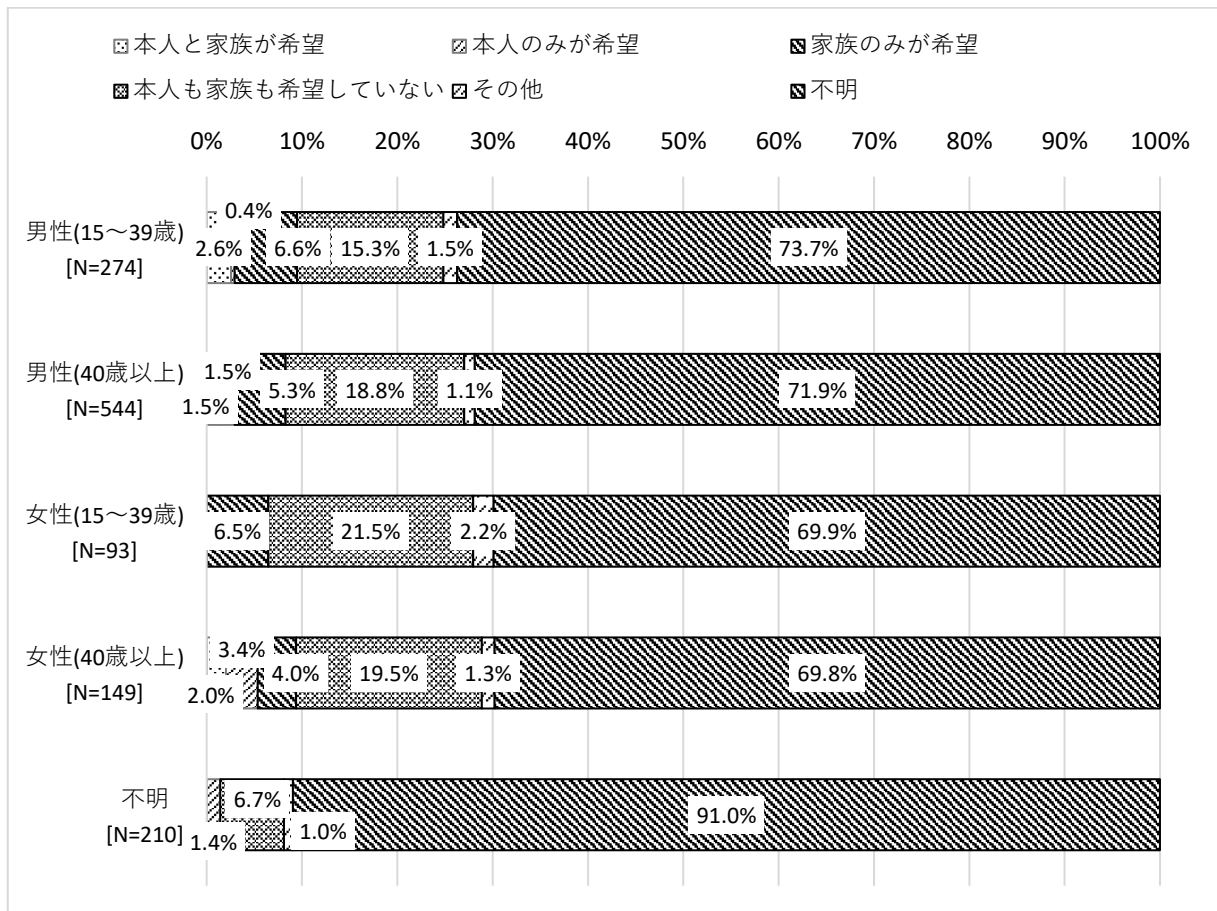
■ 圏域別 クロス集計（回答率）



圏域別構成比で見ると、比較的同じ傾向にありますが、「中勢地域」では「本人も家族も希望していない」と回答した委員の割合が19.6%（60名）と他の圏域よりも高く、また「本人と家族が希望」と回答した委員の割合も2.6%（8名）と他の圏域よりも高くなりました。

「東紀州地域」では、「不明」と回答した委員の割合が83.3%（105名）と他の圏域よりも高く、「本人のみが希望」「家族のみが希望」と回答した委員の割合が他の圏域よりも低いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計 (回答率)

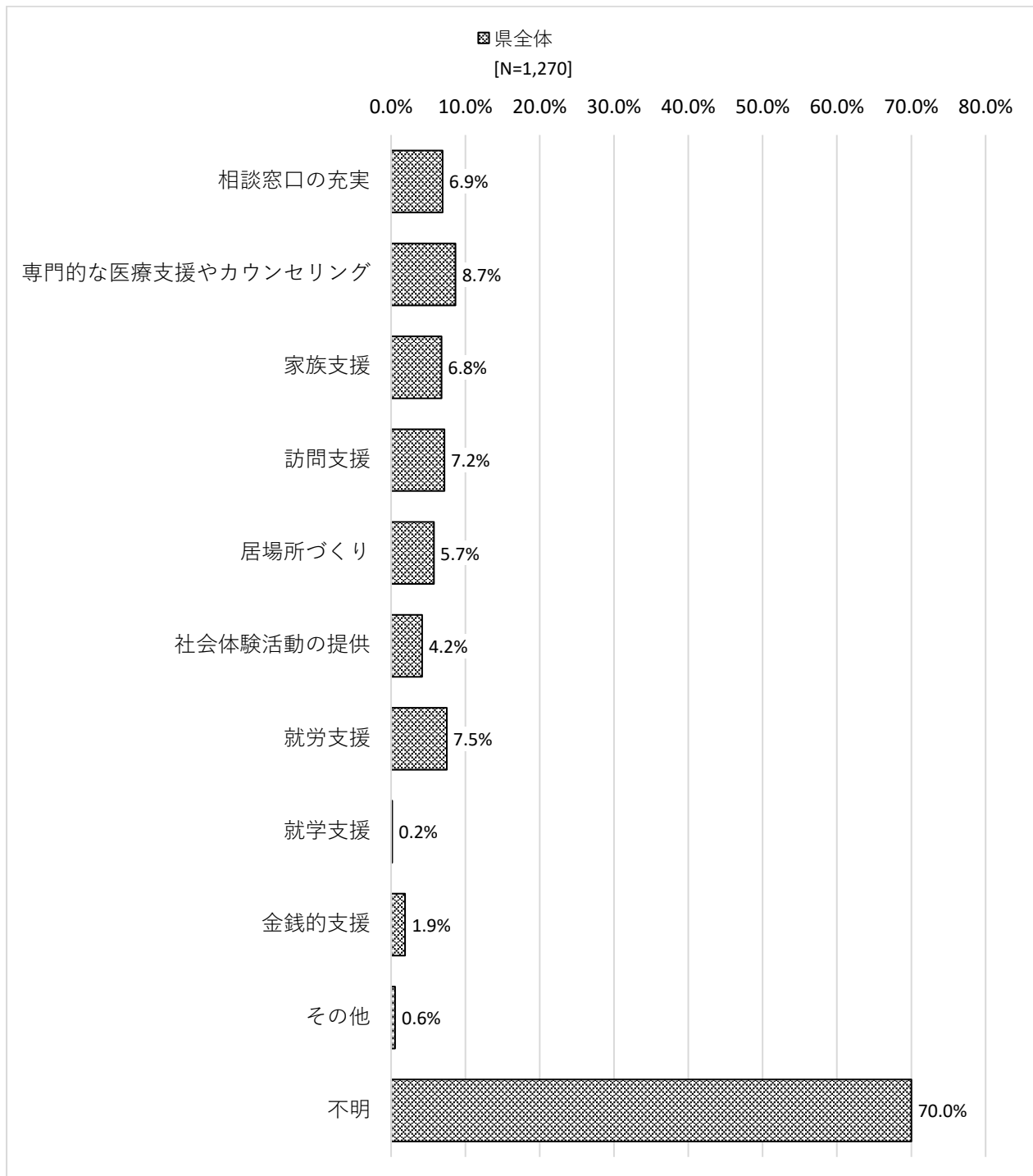


性年齢別では、「女性(15～39歳)」において、「本人と家族が希望」、「本人のみが希望」と回答した委員の割合がどちらもなし(0名)という結果になりました。

(9) 必要な支援策 (複数回答)

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
相談窓口の充実	回答	88	29	21	15	19	4
	比率	6.9%	6.9%	6.9%	5.8%	11.9%	3.2%
専門的な医療支援やカウンセリング	回答	110	31	27	28	20	4
	比率	8.7%	7.3%	8.8%	10.9%	12.6%	3.2%
家族支援	回答	86	28	18	13	18	9
	比率	6.8%	6.6%	5.9%	5.1%	11.3%	7.1%
訪問支援	回答	91	26	23	18	15	9
	比率	7.2%	6.2%	7.5%	7.0%	9.4%	7.1%
居場所づくり	回答	73	24	16	11	14	8
	比率	5.7%	5.7%	5.2%	4.3%	8.8%	6.3%
社会体験活動の提供	回答	53	17	15	10	9	2
	比率	4.2%	4.0%	4.9%	3.9%	5.7%	1.6%
就労支援	回答	95	27	17	23	17	11
	比率	7.5%	6.4%	5.6%	8.9%	10.7%	8.7%
就学支援	回答	2	1	0	1	0	0
	比率	0.2%	0.2%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
金銭的支援	回答	24	6	7	5	1	5
	比率	1.9%	1.4%	2.3%	1.9%	0.6%	4.0%
その他	回答	7	2	2	2	1	0
	比率	0.6%	0.5%	0.7%	0.8%	0.6%	0.0%
不明	回答	889	306	221	175	94	93
	比率	70.0%	72.5%	72.2%	68.1%	59.1%	73.8%

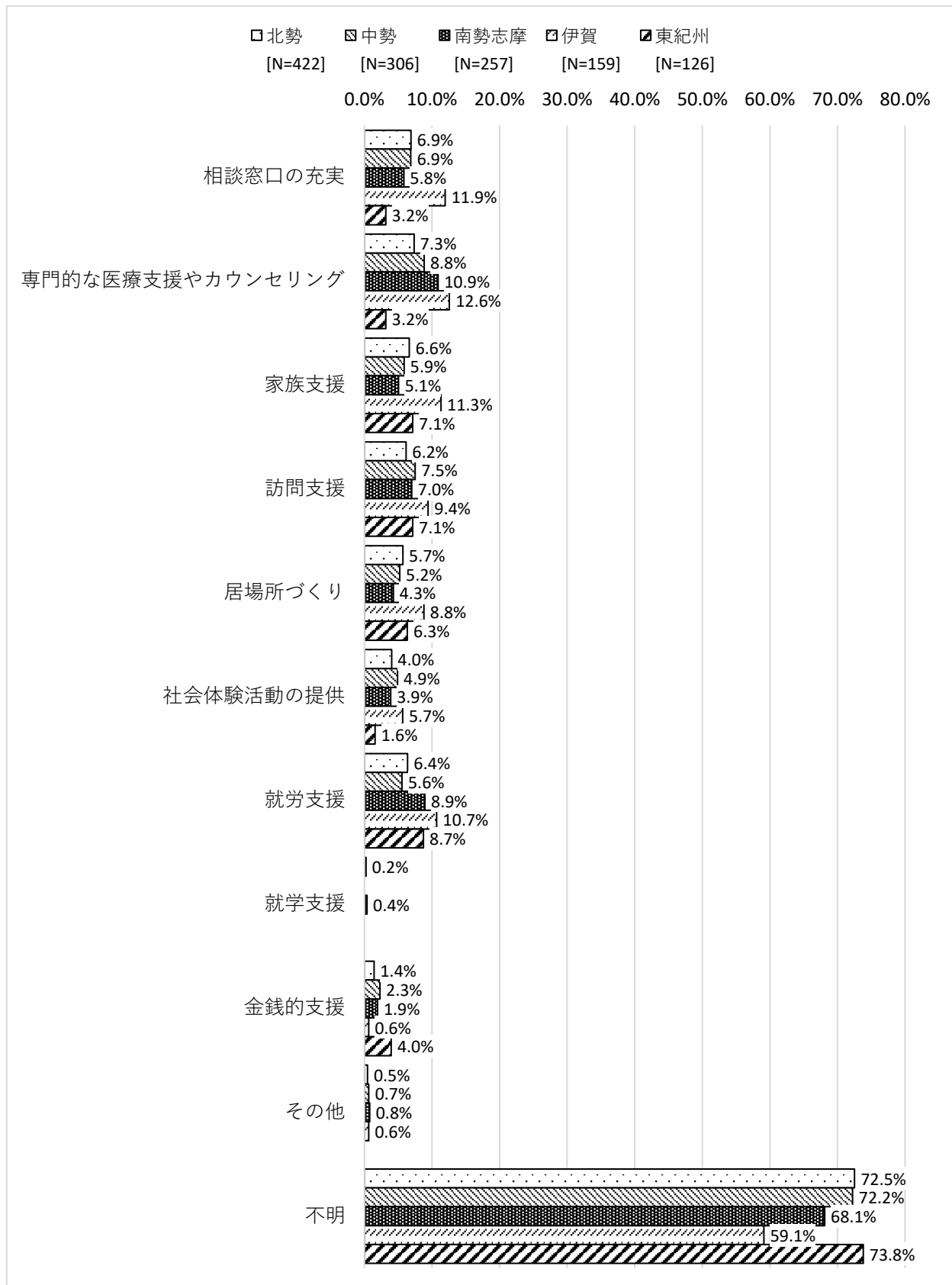
■ 県全体 単集計（回答率）



ひきこもり状態にある方にとって必要な支援策について、県全体でみると、「専門的な医療支援やカウンセリング」と回答した委員の割合が8.7%(110名)と「不明」を除き最も高く、次いで「就労支援」が7.5%(95名)、「訪問支援」が7.2%(91名)という結果になりました。

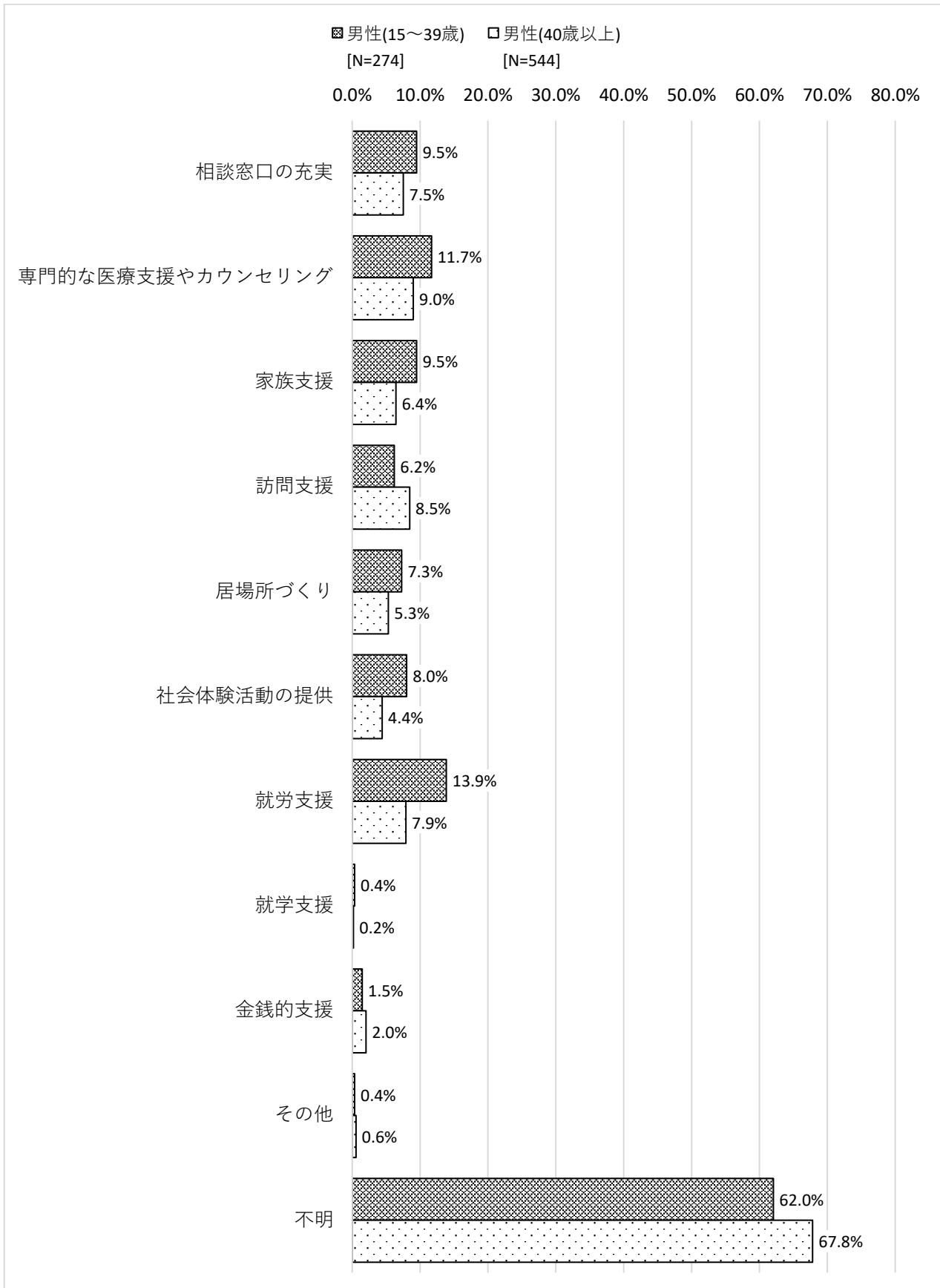
「その他」の項目に関しては、「訪問の頻度を増やす」「施設入所」「支援は希望しない」「わからない」などの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）

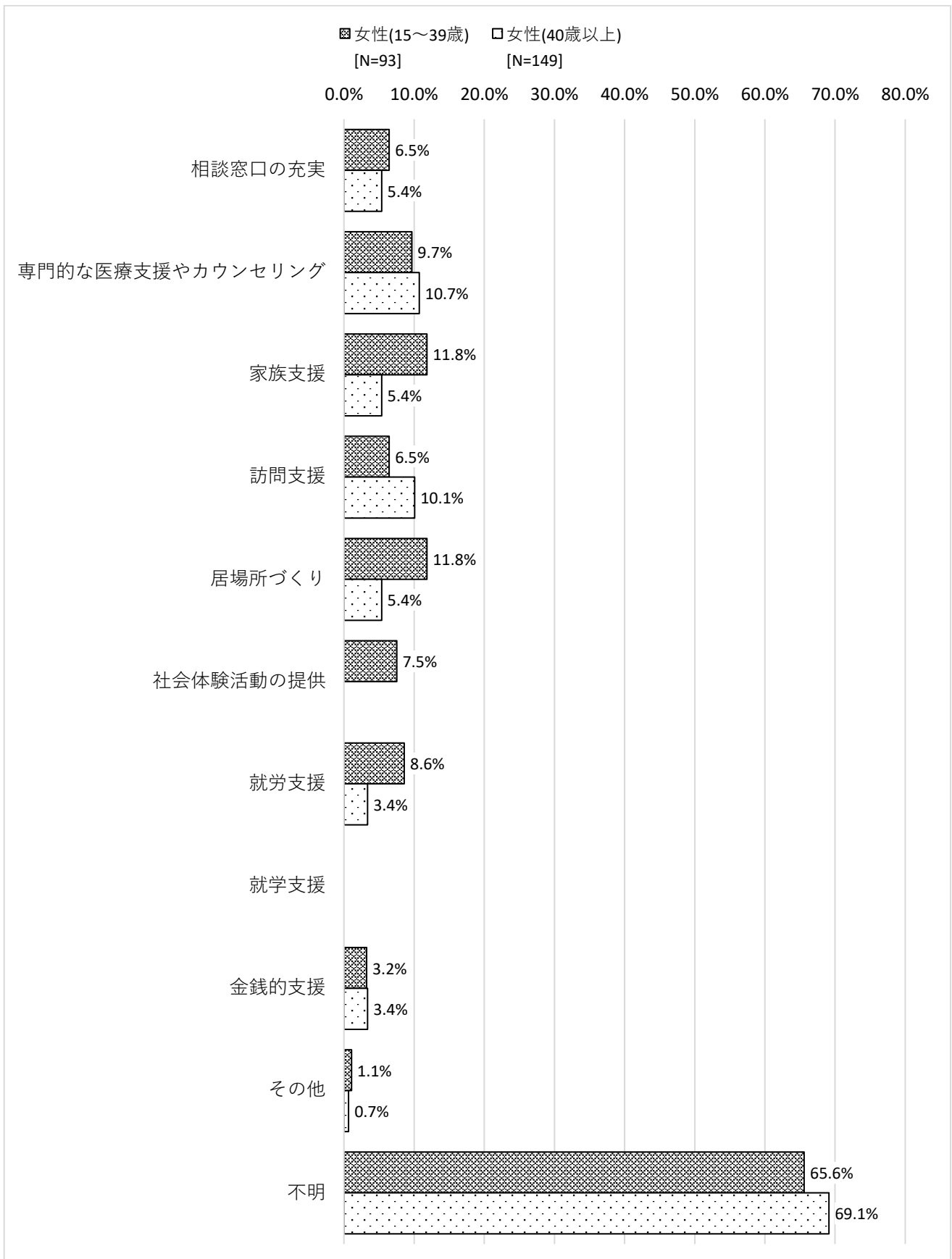


圏域別でみると、「伊賀地域」では、「不明」と回答した委員の割合が59.1%（94名）と他の圏域よりも低く、必要な支援策が明確化していることが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率） ①男性



■ 県全体 性年齢別 クロス集計 (回答率) ②女性



性年齢別でみると、「男性(15～39歳)」では、「就労支援」と回答した委員の割合が13.9%と「不明」を除き最も高く、次いで「専門的な医療支援やカウンセリング」が11.7%、「相談窓口の充実」が9.5%という結果になりました。

「男性(40歳以上)」では、「専門的な医療支援やカウンセリング」が9.0%と「不明」を除き最も高く、次いで「訪問支援」が8.5%、「就労支援」が7.9%という結果になりました。

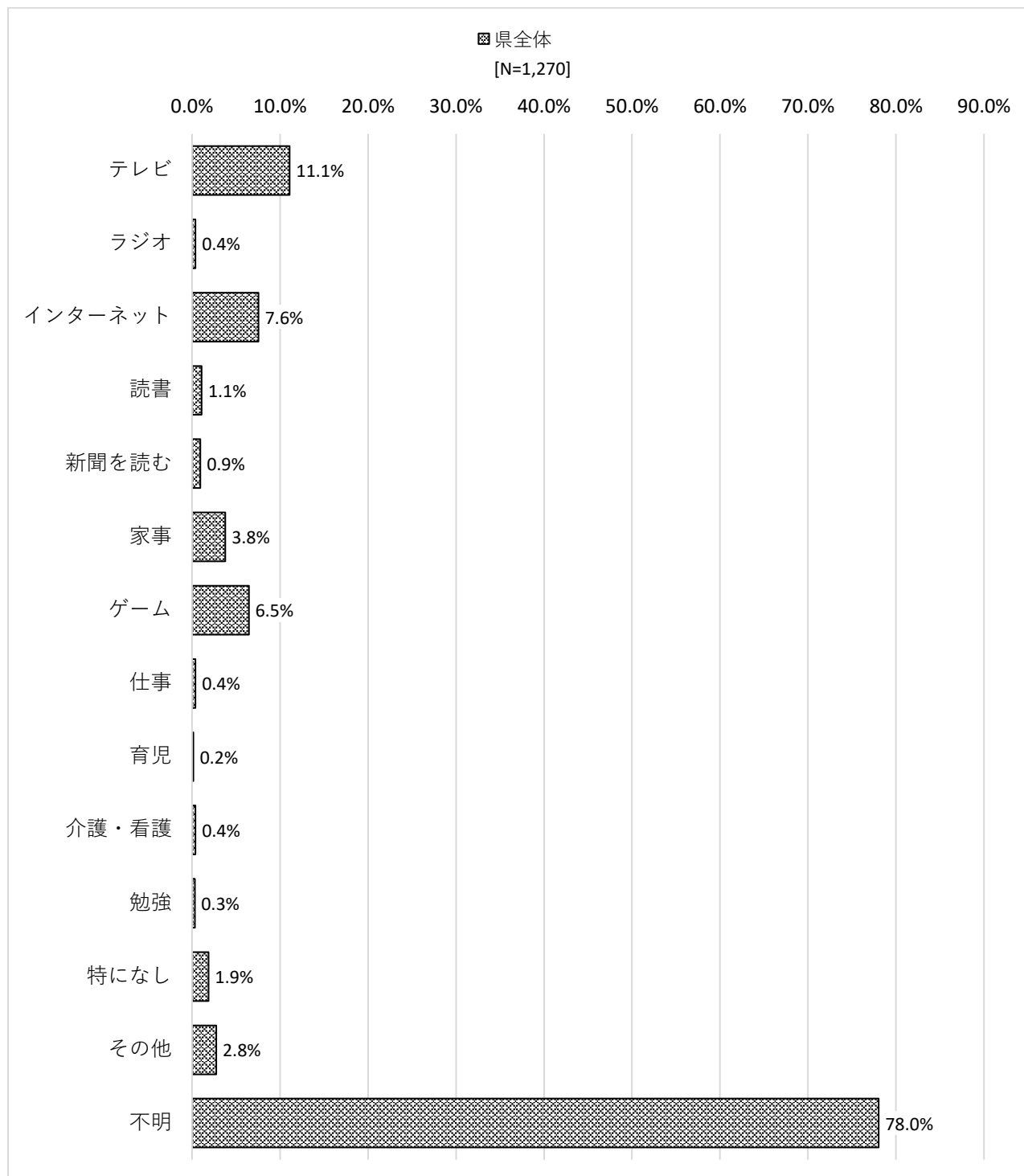
「女性(15～39歳)」では、「家族支援」と「居場所づくり」がそれぞれ11.8%と「不明」を除き最も高く、次いで「専門的な医療支援やカウンセリング」が9.7%という結果になりました。

「女性(40歳以上)」では、「専門的な医療支援やカウンセリング」が10.7%と「不明」を除き最も高く、次いで「訪問支援」が10.1%、「相談窓口の充実」と「居場所づくり」がそれぞれ5.4%という結果になりました。

(10) 普段、自宅でよくしていること (複数回答)

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
テレビ	回答	141	41	41	27	17	15
	比率	11.1%	9.7%	13.4%	10.5%	10.7%	11.9%
ラジオ	回答	5	0	3	0	2	0
	比率	0.4%	0.0%	1.0%	0.0%	1.3%	0.0%
インターネット	回答	96	31	31	16	11	7
	比率	7.6%	7.3%	10.1%	6.2%	6.9%	5.6%
読書	回答	14	2	5	3	2	2
	比率	1.1%	0.5%	1.6%	1.2%	1.3%	1.6%
新聞を読む	回答	12	3	4	1	4	0
	比率	0.9%	0.7%	1.3%	0.4%	2.5%	0.0%
家事	回答	48	16	12	10	8	2
	比率	3.8%	3.8%	3.9%	3.9%	5.0%	1.6%
ゲーム	回答	82	35	19	16	10	2
	比率	6.5%	8.3%	6.2%	6.2%	6.3%	1.6%
仕事	回答	5	1	3	0	1	0
	比率	0.4%	0.2%	1.0%	0.0%	0.6%	0.0%
育児	回答	2	0	1	0	1	0
	比率	0.2%	0.0%	0.3%	0.0%	0.6%	0.0%
介護・看護	回答	5	3	0	0	2	0
	比率	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%
勉強	回答	4	0	1	2	1	0
	比率	0.3%	0.0%	0.3%	0.8%	0.6%	0.0%
特になし	回答	24	7	9	5	1	2
	比率	1.9%	1.7%	2.9%	1.9%	0.6%	1.6%
その他	回答	35	14	6	4	8	3
	比率	2.8%	3.3%	2.0%	1.6%	5.0%	2.4%
不明	回答	991	332	229	208	118	104
	比率	78.0%	78.7%	74.8%	80.9%	74.2%	82.5%

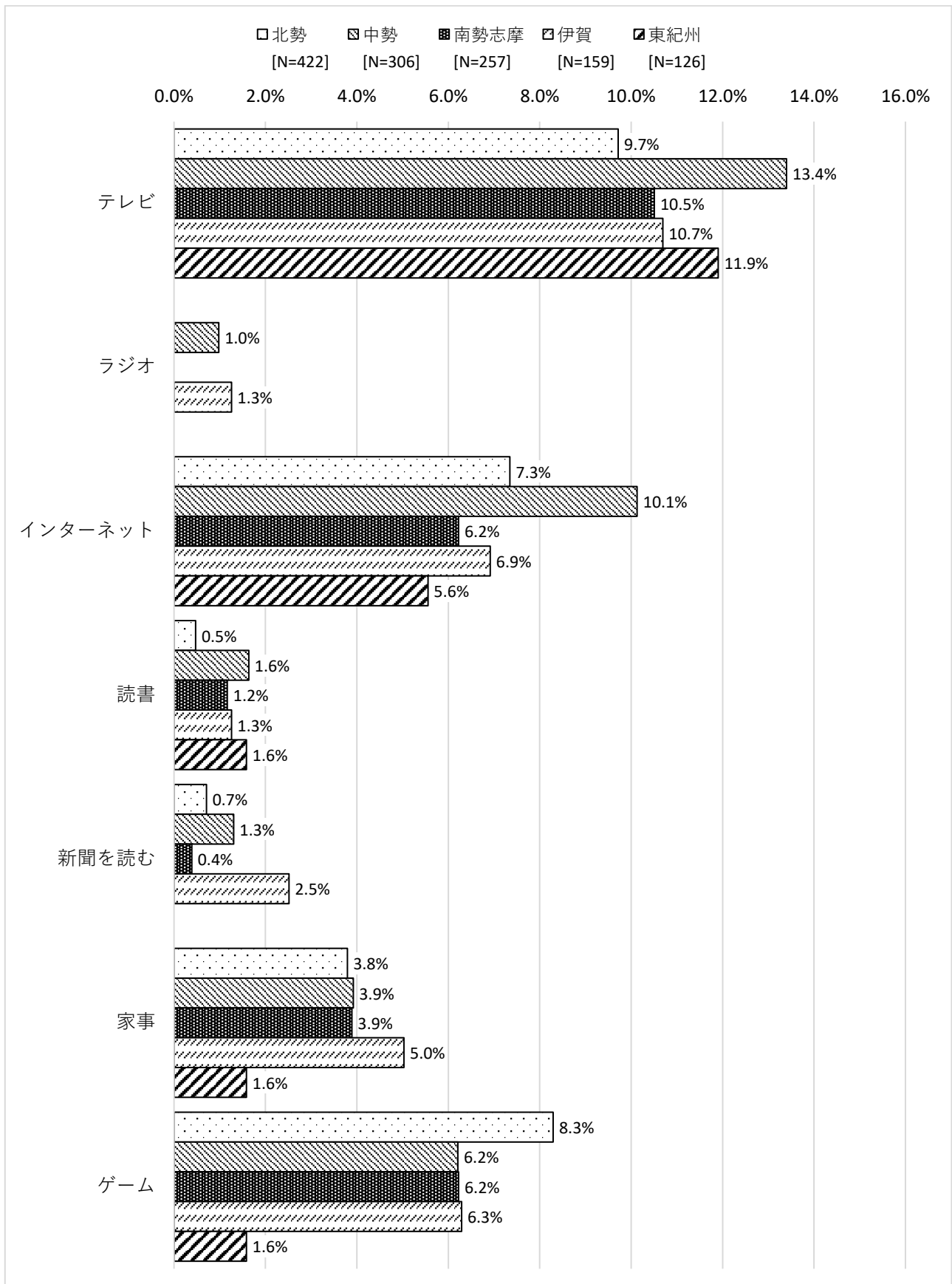
■ 県全体 単集計 (回答率)



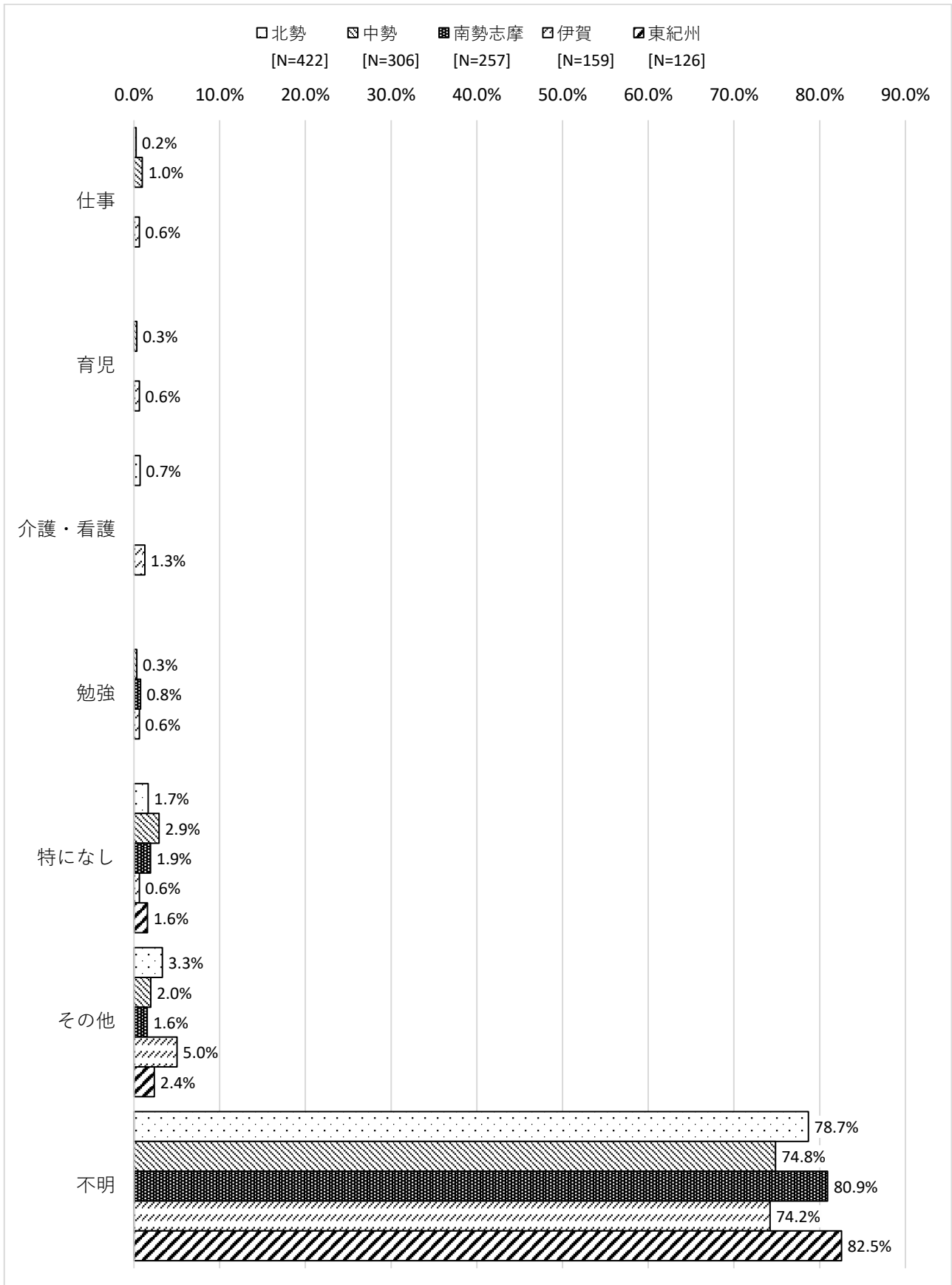
ひきこもり状態にある方が普段、自宅をよくしていることについて、県全体でみると、「テレビ」と回答した委員の割合が11.1%(141名)と「不明」を除き最も高く、次いで「インターネット」が7.6%(96名)、「ゲーム」が6.5%(82名)という結果になりました。

「その他」の項目に関しては、「玄関先の掃除」「畑の世話」「趣味」「子守り」「室内での運動」「横になっている」「ボランティア」などの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）①

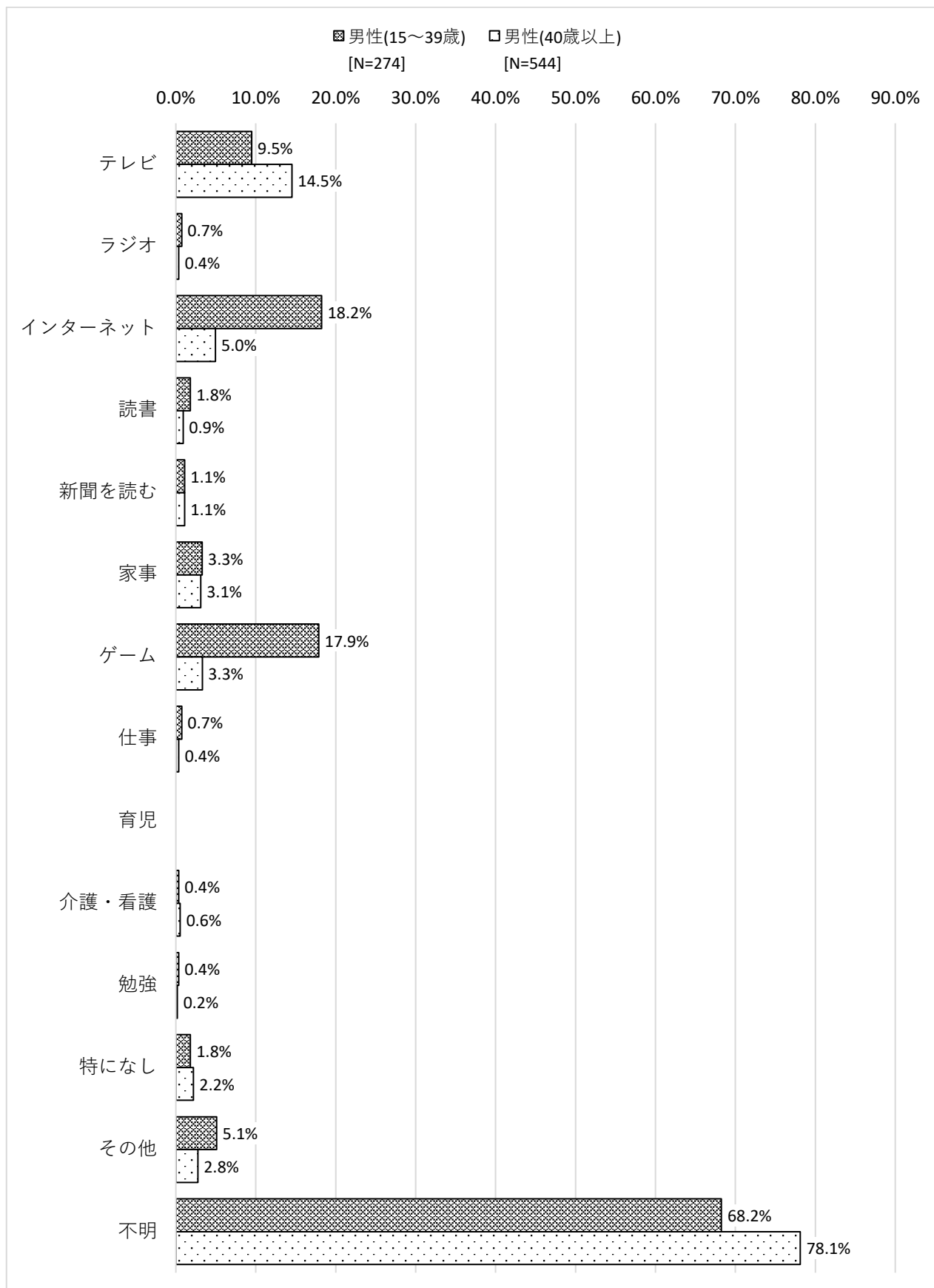


■ 圏域別 クロス集計（回答率）②

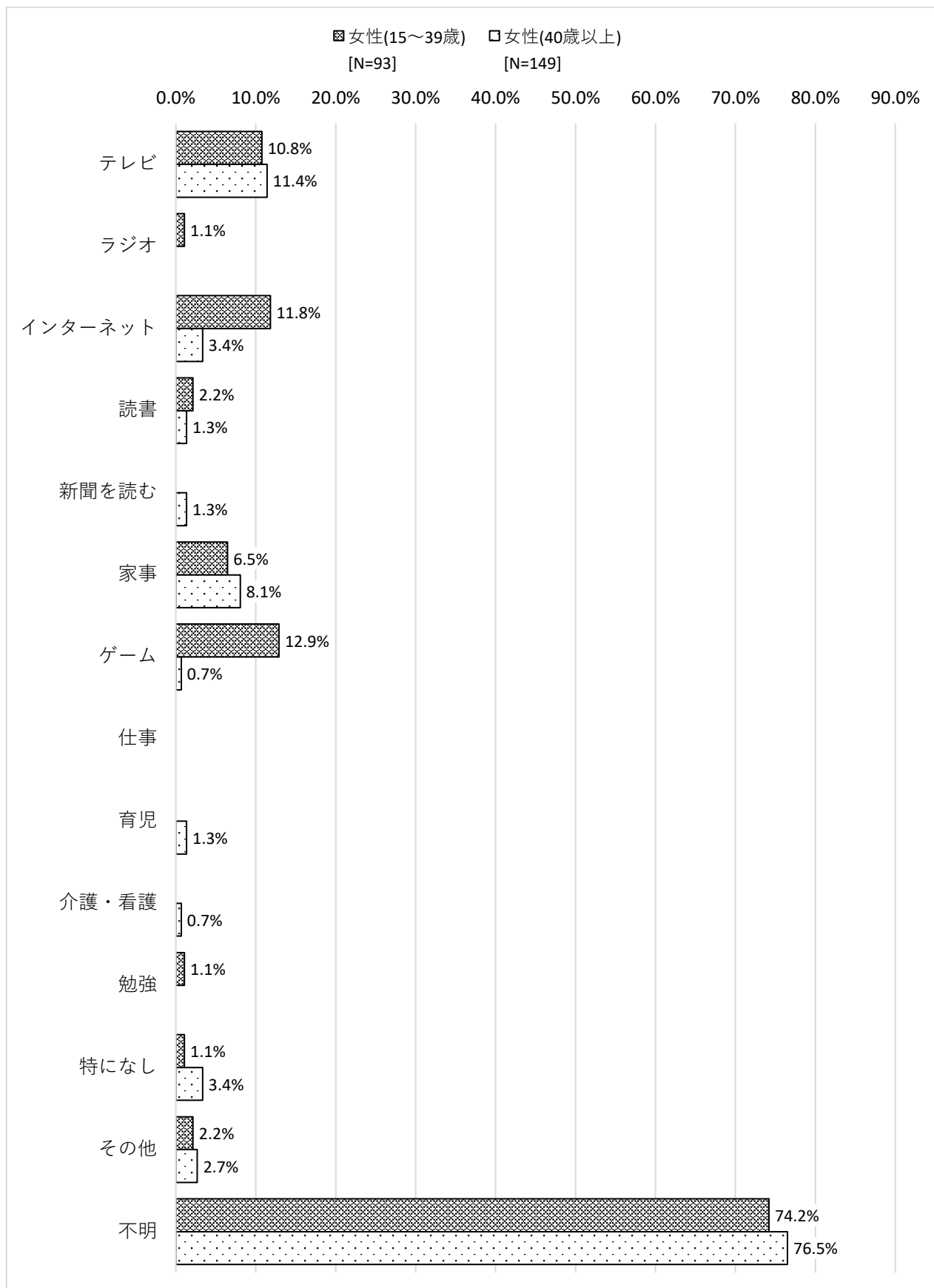


圏域別でみると、「中勢地域」では、「テレビ」が13.4%（41名）、「インターネット」が10.1%（31名）、「北勢地域」では、「ゲーム」が8.3%（35名）と回答した委員の割合が他の圏域よりも高く、「北勢地域」では「テレビ」が9.7%（41名）、「東紀州地域」では「インターネット」が5.6%（7名）と回答した委員の割合が他の圏域よりも低いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計 (回答率) ① 男性



■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率）②女性



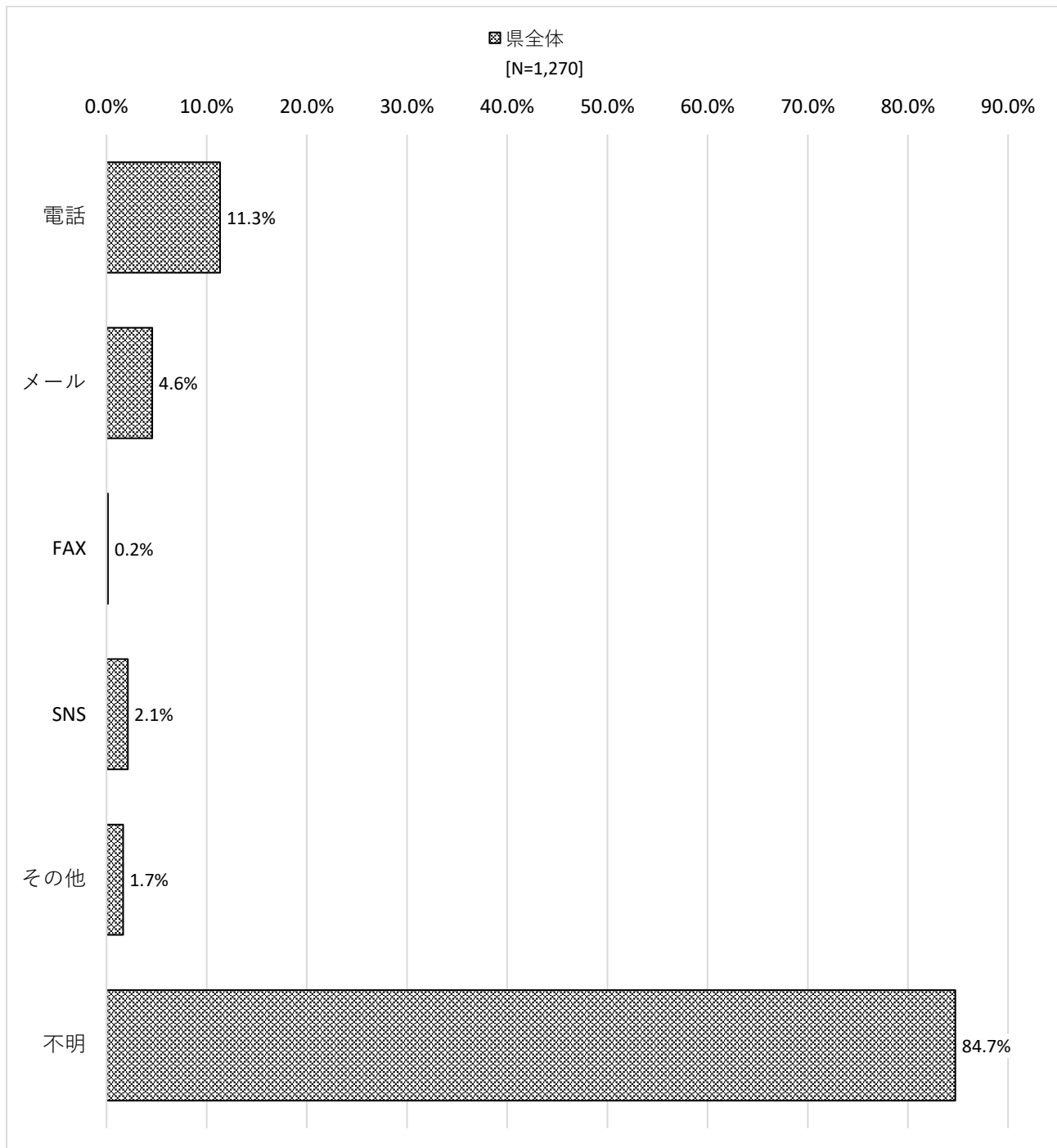
性年齢別で見ると、「男性(15～39歳)」では、「インターネット」と回答した委員の割合が18.2%と「不明」を除き最も高く、次いで「ゲーム」が17.9%、「テレビ」が9.5%となり、「男性(40歳以上)」では、「テレビ」と回答した委員の割合が14.5%と「不明」を除き最も高く、次いで「インターネット」が5.0%、「ゲーム」が3.3%という結果になりました。

「女性(15～39歳)」では、「ゲーム」と回答した委員の割合が12.9%と「不明」を除き最も高く、次いで「インターネット」が11.8%、「テレビ」が10.8%となり、「女性(40歳以上)」では、「テレビ」と回答した委員の割合が11.4%と「不明」を除き最も高く、次いで「家事」が8.1%、「インターネット」が3.4%という結果になりました。

(11) 普段、通信手段で利用しているもの（複数回答）

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
電話	回答	144	38	48	24	20	14
	比率	11.3%	9.0%	15.7%	9.3%	12.6%	11.1%
メール	回答	58	24	15	4	8	7
	比率	4.6%	5.7%	4.9%	1.6%	5.0%	5.6%
FAX	回答	2	0	2	0	0	0
	比率	0.2%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
SNS	回答	27	12	9	4	1	1
	比率	2.1%	2.8%	2.9%	1.6%	0.6%	0.8%
その他	回答	21	6	4	5	6	0
	比率	1.7%	1.4%	1.3%	1.9%	3.8%	0.0%
不明	回答	1,076	361	249	224	131	111
	比率	84.7%	85.5%	81.4%	87.2%	82.4%	88.1%

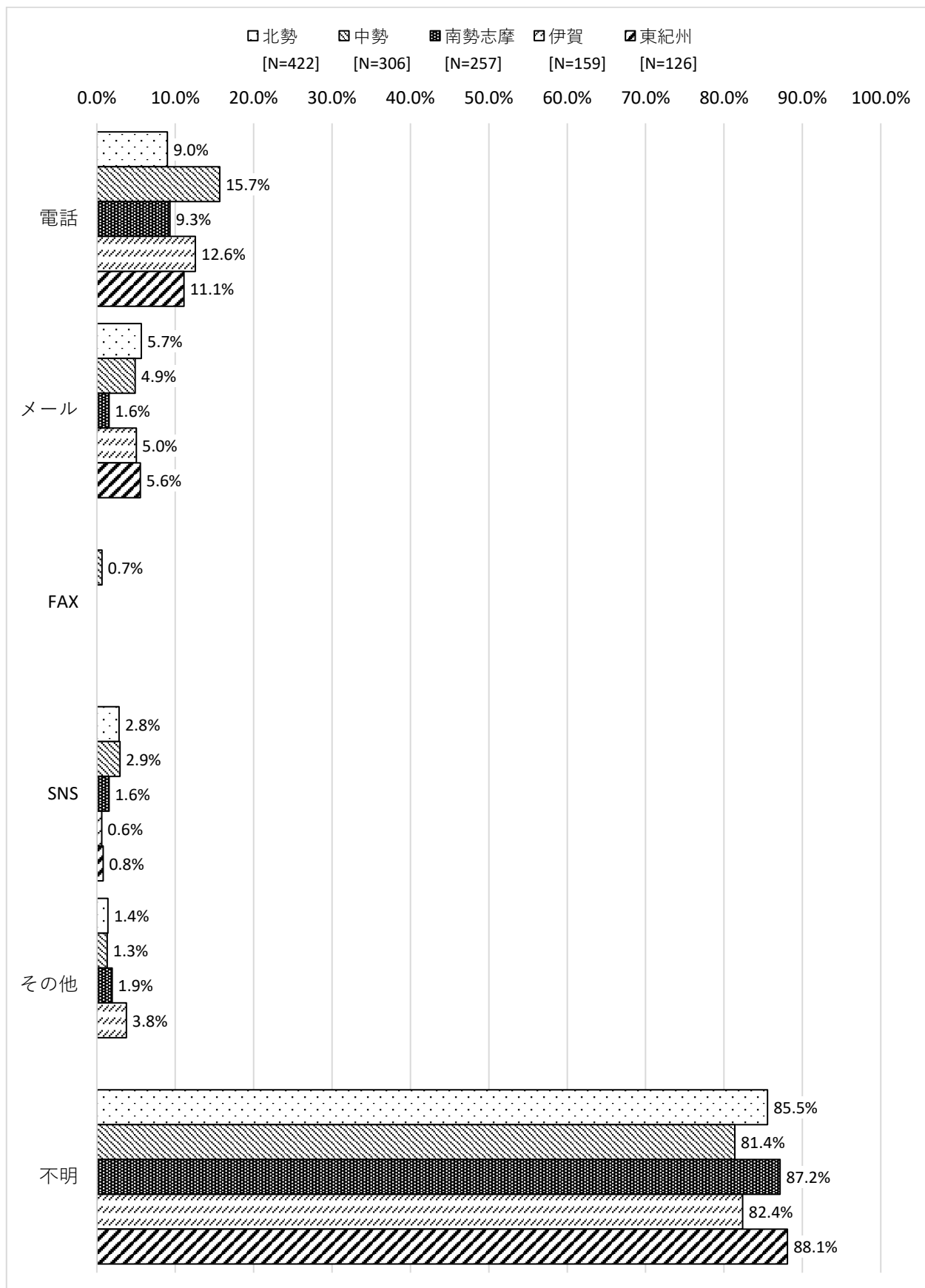
■ 県全体 単集計 (回答率)



ひきこもり状態にある方が普段、通信手段で利用しているものについて、県全体でみると、「電話」と回答した委員の割合が11.3%(144名)と「不明」を除き最も高く、次いで「メール」が4.6%(58名)、「SNS」が2.1%(27名)という結果になりました。

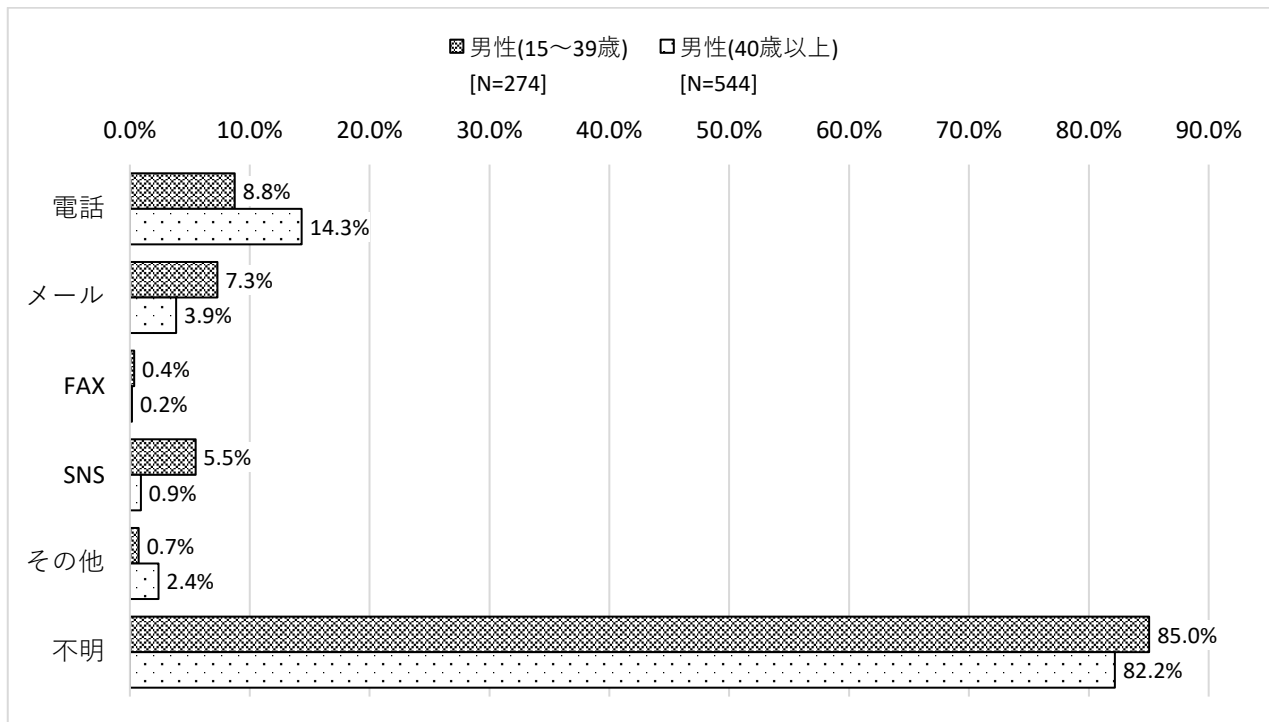
「その他」の項目に関しては、「手紙」「ポストへの手紙投函」「声がけ」「直接伝言」「親族」などの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計 (回答率)

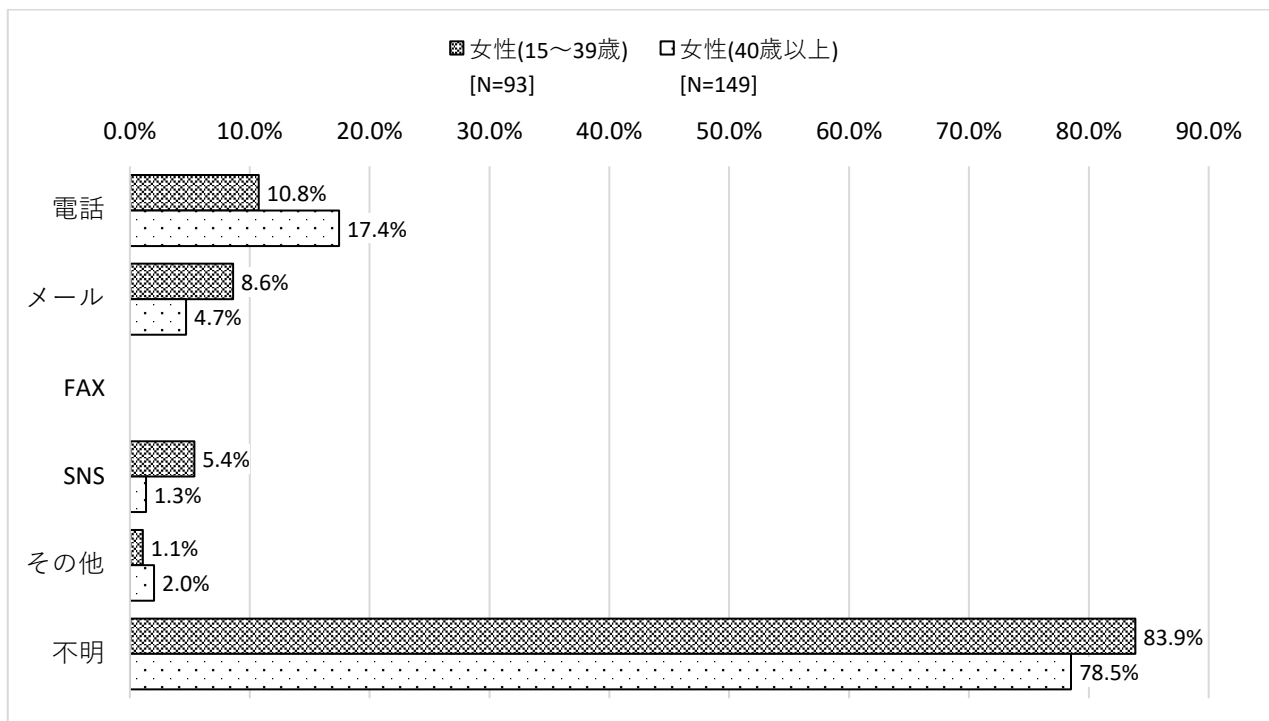


圏域別でみると、「中勢地域」では「電話」と回答した委員の割合が15.7%（48名）と他の圏域よりも高く、「南勢志摩地域」では「メール」と回答した委員の割合が1.6%（4名）と他の圏域よりも低いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率）①男性



■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率）②女性



性年齢別でみると、「男性(15～39歳)」では、「電話」が8.8%と「不明」を除き最も高く、次いで「メール」が7.3%、「SNS」が5.5%、「男性(40歳以上)」では、「電話」が14.3%と「不明」を除き最も高く、次いで「メール」が3.9%、「その他」が2.4%という結果になりました。

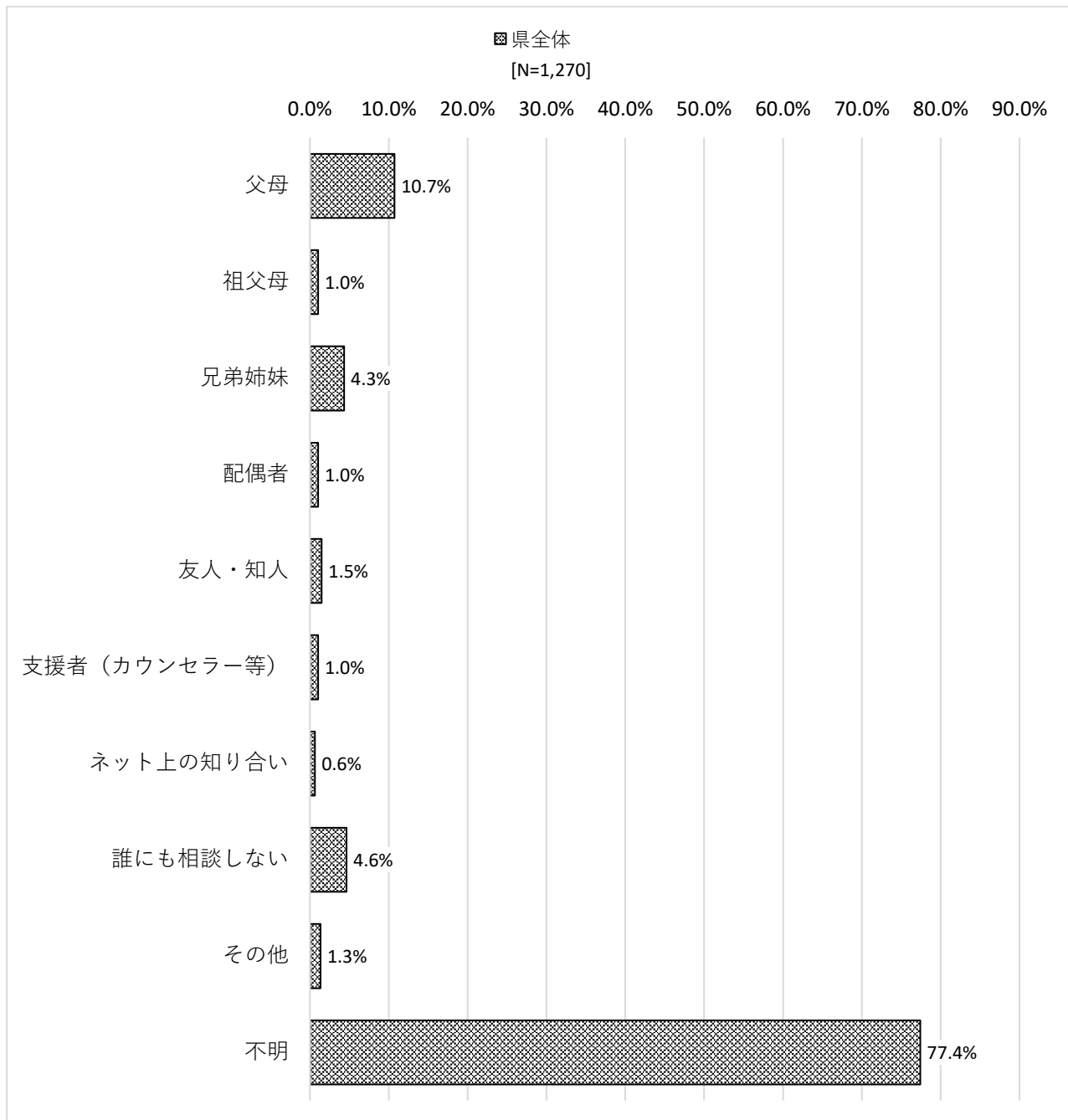
「女性(15～39歳)」では、「電話」が10.8%と「不明」を除き最も高く、次いで「メール」が8.6%、「SNS」が5.4%となり、「女性(40歳以上)」では、「電話」が17.4%と「不明」を除き最も高く、次いで「メール」が4.7%、「SNS」が1.3%という結果になりました。

男性、女性ともに、「15～39歳」の方が「40歳以上」よりも「メール」「SNS」と回答した委員の割合が高い傾向にあることが明らかになりました。

(12) 普段、悩み事を相談する相手 (複数回答)

		県全体	北勢	中勢	南勢志摩	伊賀	東紀州
父母	回答	136	48	29	25	28	6
	比率	10.7%	11.4%	9.5%	9.7%	17.6%	4.8%
祖父母	回答	13	2	8	3	0	0
	比率	1.0%	0.5%	2.6%	1.2%	0.0%	0.0%
兄弟姉妹	回答	55	18	18	4	7	8
	比率	4.3%	4.3%	5.9%	1.6%	4.4%	6.3%
配偶者	回答	13	4	4	3	1	1
	比率	1.0%	0.9%	1.3%	1.2%	0.6%	0.8%
友人・知人	回答	19	9	7	2	0	1
	比率	1.5%	2.1%	2.3%	0.8%	0.0%	0.8%
支援者（カウンセラー等）	回答	13	6	4	3	0	0
	比率	1.0%	1.4%	1.3%	1.2%	0.0%	0.0%
ネット上の知り合い	回答	8	2	2	1	1	2
	比率	0.6%	0.5%	0.7%	0.4%	0.6%	1.6%
誰にも相談しない	回答	59	17	14	17	4	7
	比率	4.6%	4.0%	4.6%	6.6%	2.5%	5.6%
その他	回答	17	5	5	3	2	2
	比率	1.3%	1.2%	1.6%	1.2%	1.3%	1.6%
不明	回答	983	327	227	205	121	103
	比率	77.4%	77.5%	74.2%	79.8%	76.1%	81.7%

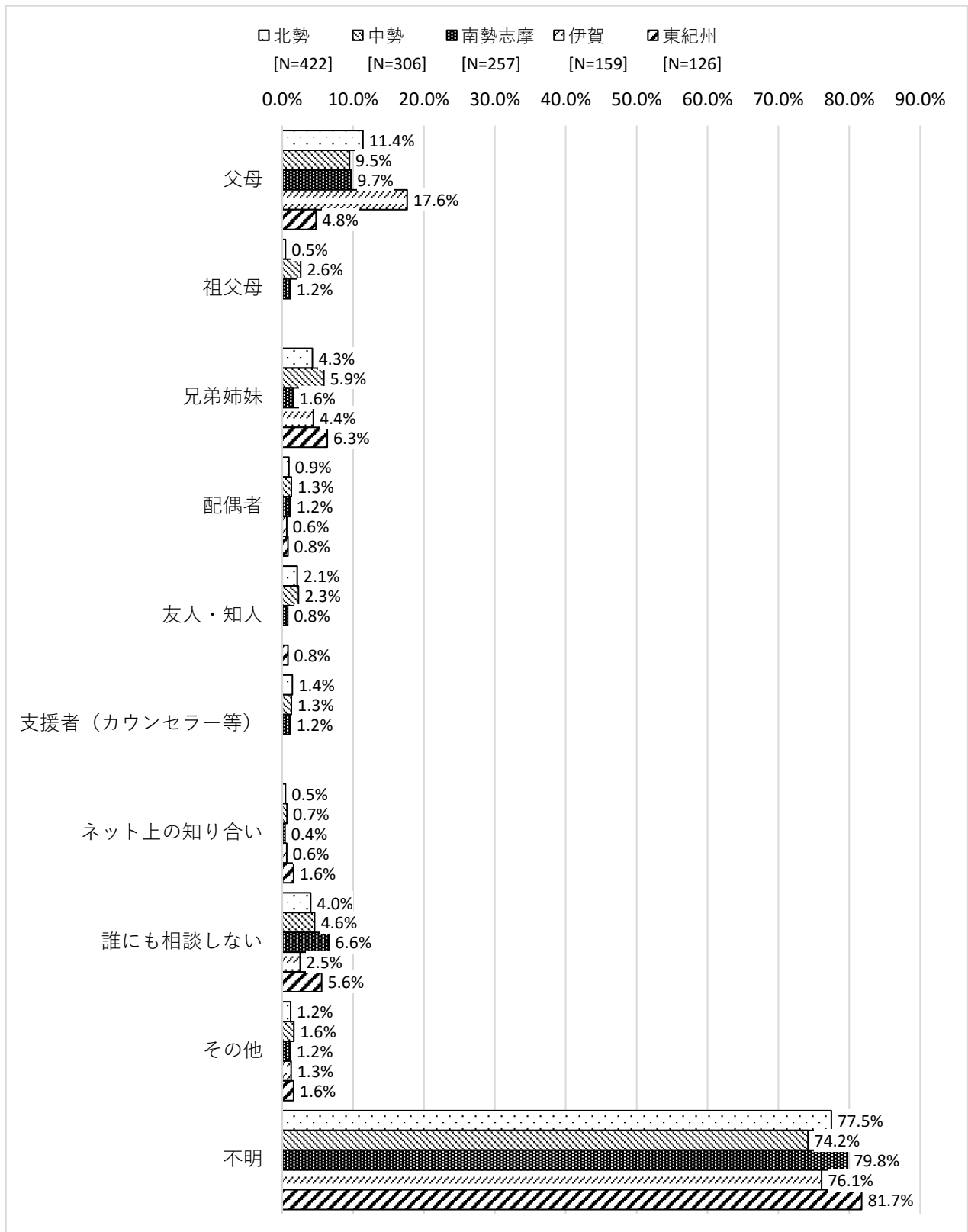
■ 県全体 単集計 (回答率)



ひきこもり状態にある方が普段、悩み事を相談する相手について、県全体でみると、「父母」と回答した委員の割合が10.7%(136名)と「不明」を除き最も高く、次いで「誰にも相談しない」が4.6%(59名)、「兄弟姉妹」が4.3%(55名)という結果になりました。

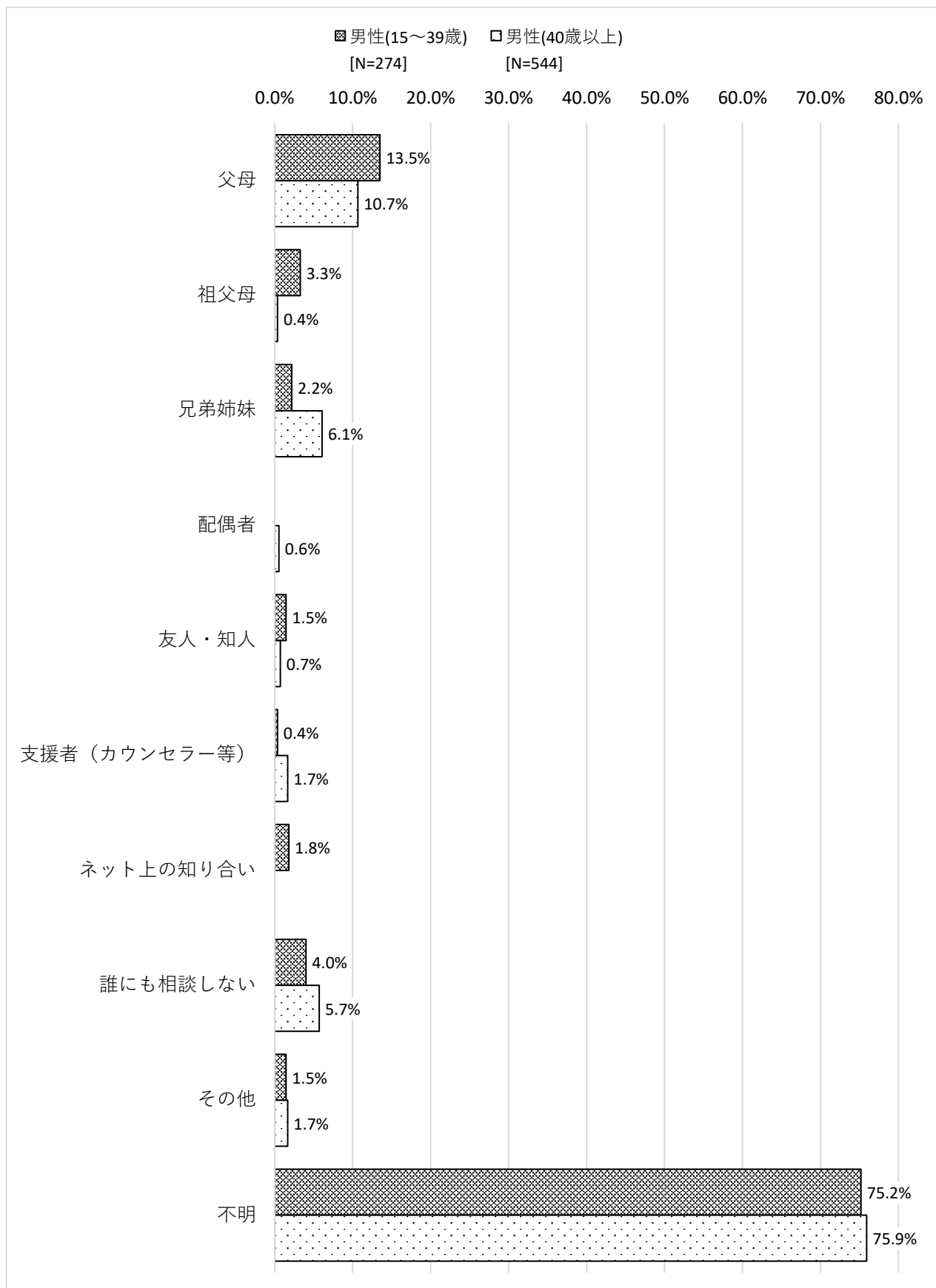
「その他」の項目に関しては、「近隣住民」「親族」「民生委員」「消防団」「通院先」「介護サービス先の人」「悩んでいる様子がない」「誰もいない」などの記述がありました。

■ 圏域別 クロス集計（回答率）

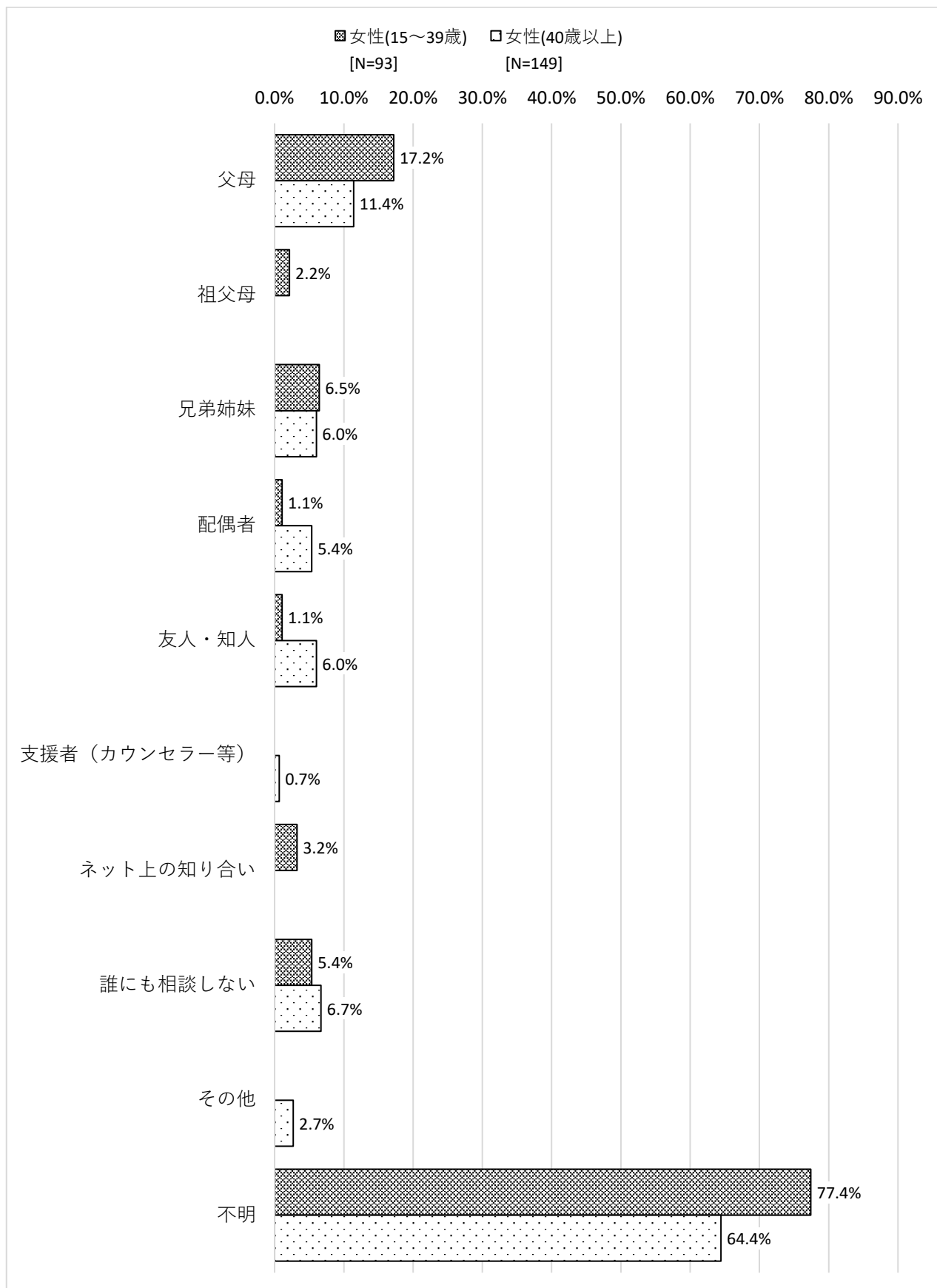


圏域別で見ると、「伊賀地域」では、「父母」と回答した委員の割合が17.6%（28名）と他の圏域よりも高く、「東紀州地域」では、「兄弟姉妹」と回答した委員の割合が6.3%（8名）と他の圏域よりも高いことが明らかになりました。

■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率） ①男性



■ 県全体 性年齢別 クロス集計（回答率）②女性



性年齢別でみると、「男性(15～39歳)」では、「父母」と回答した委員の割合が13.5%と「不明」を除き最も高く、次いで「誰にも相談しない」が4.0%、「祖父母」が3.3%となり、「男性(40歳以上)」では、「父母」と回答した委員の割合が10.7%と「不明」を除き最も高く、次いで「兄弟姉妹」が6.1%、「誰にも相談しない」が5.7%という結果になりました。

「女性(15～39歳)」では、「父母」と回答した委員の割合が17.2%と「不明」を除き最も高く、次いで「兄弟姉妹」が6.5%、「誰にも相談しない」が5.4%となり、「女性(40歳以上)」では、「父母」と回答した委員の割合が11.4%と「不明」を除き最も高く、次いで「友人・知人」と「兄弟姉妹」が、それぞれ6.0%という結果になりました。

また、「女性(40歳以上)」では、「配偶者」と回答した委員の割合が5.4%と、他の年齢区分よりも高いことが明らかになりました。

IV. 考察・まとめ

1 ひきこもり実態把握数表について

今回の調査では、三重県全域の民生委員・児童委員（主任児童委員を含む）の皆さんにご協力をいただき、令和3年5月末現在の実数4,088人のうち、3,777人(92.4%)に回答を得ることができました。

また、ひきこもりの状態にある方を把握されている民生委員・児童委員の方が831名(22%)、ひきこもり状態にある方の数は1,270名という結果になりました。

2 民生委員・児童委員に対する質問項目について

ひきこもり状態にある方を把握する方法については、「近隣住民からの情報提供（相談）」と回答した委員の割合が最も高く、次いで「各世帯の見守りや安否確認時」「当事者の家族からの相談」の順で高くなり、一方で「当事者からの相談」と回答した委員の割合が低くなりました。

ひきこもり当事者やその家族からの声が民生委員・児童委員に直接届いているケースが少ないことが明らかになりました。

ひきこもり状態にある方を把握している民生委員・児童委員が「ひきこもりに係る相談・支援において、連携している関係機関」については、「特になし」と回答した委員の割合が最も高くなりました。また、「ひきこもり支援で困っていること」については、「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」と回答した委員の割合が最も高くなり、「ひきこもり支援のために必要と考える施策」については、「相談窓口の充実」「相談窓口の周知・PR」と回答した委員の割合が高くなりました。

今後、民生委員・児童委員の活動にあたって、関係機関との連携の強化、ひきこもりに係る知識、支援ノウハウの取得促進、相談窓口の充実と周知・PRを進めていく必要があることが明らかになりました。

一方、ひきこもりに係る課題の性質上、プライバシーへの配慮に関する意見もあり、ひきこもり支援にあたって、十分留意する必要があります。

3 ひきこもり状態にある方に関する質問項目について

ひきこもり状態にある方については、「男性(40歳以上)」が42.8%(544名)、「男性(15～39歳)」が21.6%(274名)、「女性(40歳以上)」が11.7%(149名)、「女性(15～39歳)」が7.3%(93名)となり、全体の約7割が男性という結果になりました。

また圏域別と性年齢別のクロス集計でみると、「東紀州地域」では、他の圏域よりも「男性(15～39歳)」と回答した委員の割合が13.5%と低く、「男性(40歳以上)」が50.8%と高い傾向が明らかになりました。

家族構成については、「単身」と回答した委員の割合が「女性(15～39歳)」で相対的に低いことが明らかになりました。「男性(40歳以上)」では、「単身」や「父母のみとの同居」と回答した委員の割合が高く、「女性(40歳以上)」では、「父母」や「単身」と回答した委員の割合が高い結果になりました。

外出状況については、「普段は家にいるが近所のコンビニ等に買い物には出かける」と回答した委員の割合が「男性(40歳以上)」で相対的に高いことが明らかになりました。

また、「自室からほとんど出ない」と回答した委員の割合は、「男性(40歳以上)」で相対的に低いことが明らかになりました。

ひきこもりの状態になってからの期間については、性年齢別でみると、「5年以上」と回答した委員の割合が40%以上を占めていますが、「男性(15~39歳)」、「女性(15~39歳)」ともに経過年数が相対的に短いことが明らかになりました。

ひきこもりの状態になった経緯・きっかけについては、性年齢別でみると、男女ともに「15~39歳」では「不登校」に関する回答をした委員の割合が高く、「40歳以上」では「就労関係」に関する回答をした委員の割合が高いことが明らかになりました。

必要な支援策については、「男性(15~39歳)」では、「就労支援」と回答した委員の割合が高く、「女性(15~39歳)」では、「家族支援」と「居場所づくり」と回答した委員の割合が高いことが明らかになりました。また、「40歳以上」では、男女ともに、「専門的な医療支援やカウンセリング」「訪問支援」と回答した委員の割合が高いことが明らかになりました。

4 考察

ひきこもり状態にある方の把握は非常に難しく、今回の調査において把握していた民生委員・児童委員でも、詳細な状況把握が困難であることが明らかになりました。しかし、外形的にひきこもり状態にあると思われても、ひきこもり当事者やその家族が現状を問題ないと考えている場合があります。また、プライバシーへの配慮が必要なことから、相談がないのにさらに踏み込んで、ひきこもり当事者やその家族の実態を把握することが難しい状況もあります。

そのため、ひきこもり当事者やその家族が社会から孤立した状態にある場合に、躊躇せずに相談できる安心・安全な環境をつくっていくことが重要であると考えます。ひきこもりに対する偏見がなくなり、ひきこもりの状態で問題を抱える当事者やその家族が困っていることを隠さずに家族以外の「誰かに相談してもいいんだよ」という共通認識が社会全体に広がっていくよう、広く県民の皆さんへの啓発を進めていく必要があります。

今回の調査において、ひきこもり支援のために必要と考える施策として「相談窓口の充実」「相談窓口の周知・PR」と回答した民生委員・児童委員の割合が高いことが明らかになりました。そこで、ひきこもりに関する相談があった場合、民生委員・児童委員がどの関係機関や相談窓口につなげていけばいいのかがわかるように、相談窓口の情報をひきこもり当事者やその家族だけでなく、支援者、広く県民の皆さんにもわかりやすく提供していくことが重要です。また、民生委員・児童委員も、ひきこもり当事者やその家族と相談窓口とのつなぎ役として、ひきこもりに対する正しい理解の向上を図っていく必要があります。

IV. 使用した調査票

令和3年度 ひきこもり実態把握調査票(会長記入用)

市町名	
単位地区民生委員児童委員協議会名	
所属する民生委員・児童委員数 (会長を含む)	
氏名	
電話番号	

●この調査は、民生委員・児童委員の皆様が日頃から把握されているひきこもり状態にある方の数を集計するものであり、この調査のために新たな活動(訪問など)を行っていただく必要はありません。聞き取りを行った時点で、各民生委員・児童委員が把握している数を記入してください。

●この調査は、令和3年度に県が策定するひきこもり支援に特化した新たな計画の基礎資料とすることを目的としています。

※「ひきこもり支援に特化した新たな計画」とは
少子高齢化など社会構造の変化や人々の価値観の多様化を背景に、大きな社会問題になっている「ひきこもり」について、その課題を的確に捉え、ひきこもり支援を推進していくための指針となる計画です。

●「ひきこもり状態にある方」とは

概ね15歳以上(中学校卒業後)の者で、次のいずれかに該当する方

- ①仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6か月以上にわたって、自宅にとどまり続けている状態の者
- ②仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物や趣味の用事など他者と交わらない形で外出することがある者

※ただし、重度の障がい(身体・知的・精神)、疾病、高齢等で外出できない者を除く

【質問】

●定例会等で、あなたの単位地区民生委員児童委員協議会に所属する全民生委員・児童委員に聞き取りを行い、単位地区民児協の担当地区におけるひきこもり状態にある方の合計人数を記入してください。

	人
--	---

※ひきこもり状態にある方が「いる」と回答した民生委員・児童委員

	人
--	---

ご協力ありがとうございました。
県民生委員児童委員協議会へ郵送で提出してください。
(〒514-0003三重県津市桜橋2-131)

令和3年度 ひきこもり実態把握調査票(委員記入用)

市町名	
単位地区民生委員児童委員協議会名	
氏名	
電話番号	
(どちらかに○をつける) 主任児童委員を している ・ していない	

●この調査は、民生委員・児童委員の皆様が日頃から把握されているひきこもり状態にある方の数や状況等の情報を集計するものであり、この調査のために新たな活動(訪問など)を行っていただく必要はありません。回答していただく時点で把握している情報のみを記入してください。

●この調査は、令和3年度に県が策定するひきこもり支援に特化した新たな計画の基礎資料とすることを目的としています。

※「ひきこもり支援に特化した新たな計画」とは
 少子高齢化など社会構造の変化や人々の価値観の多様化を背景に、大きな社会問題になっている「ひきこもり」について、その課題を的確に捉え、ひきこもり支援を推進していくための指針となる計画です。

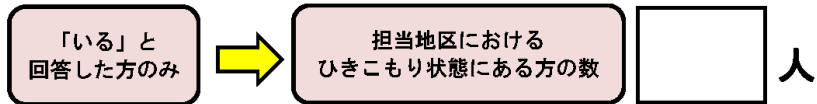
●「ひきこもり状態にある方」とは

- 概ね15歳以上(中学校卒業後)の者で、次のいずれかに該当する方
- ①仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上にわたって、自宅にとどまり続けている状態の者
 - ②仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物や趣味の用事など他者と交わらない形で外出することがある者

※ただし、重度の障がい(身体・知的・精神)、疾病、高齢等で外出できない者を除く

(1) 担当地区におけるひきこもり状態にある方はいますか？(どちらかに○をつけてください)

いる ・ いない



(2) (1)で「いる」と回答した方は、担当する地区にひきこもり状態にある方がいることをどのような方法で知りましたか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。※複数回答可)

- | | | |
|--------------------|-----------------------|--------|
| 1. 当事者の家族からの相談 | 4. 関係機関からの情報提供 | 7. その他 |
| 2. 各世帯の見守りや安否確認時 | 5. 介護サービス提供事業者からの情報提供 | [] |
| 3. 近隣住民からの情報提供(相談) | 6. 当事者からの相談 | |

(3) ひきこもりに係る相談・支援において、連携している関係機関を教えてください。(当てはまるもの全てに○をつけてください。※複数回答可)

- | | | | |
|-------------------|----------------------|----------------------------------|----------|
| 1. 保健所・保健センター | 7. 児童相談所 | 13. 地域包括支援センター | 18. 特になし |
| 2. 生活困窮者自立相談支援機関 | 8. 学校(スクールカウンセラー等含む) | 14. 医療機関 | 19. その他 |
| 3. 県福祉事務所 | 9. 障害者就業・生活支援センター | 15. ひきこもり地域支援センター(三重県こころの健康センター) | [] |
| 4. 市役所・町役場 | 10. 発達障害者支援センター | 16. 民間支援団体(NPO法人・フリースクール等) | |
| 5. 若者就業サポートステーション | 11. 障害福祉サービス事業所 | 17. 家族会 | |
| 6. ハローワーク | 12. 社会福祉協議会 | | |

(4) 民生委員・児童委員の皆様がひきこもり支援で困っていることについて教えてください。
(当てはまるもの全てに○をつけてください。※複数回答可)

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1. ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない | 8. 相談・支援に至るまで長時間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる |
| 2. 当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない | 9. 当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談につなげられない |
| 3. 当事者・家族が抱える悩みが多岐に渡っているため、対応に時間がかかる | 10. 近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない |
| 4. 家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない | 11. 家族から相談があっても、相談が継続せず途切れてしまう |
| 5. 関係機関との連携が十分ではないため、適切に紹介できない | 12. 当事者がいる家庭の存在を把握したことがない |
| 6. 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源がない | 13. その他 |
| 7. 身近な地域にあるひきこもりに係る支援の社会資源を知らない | 〔 〕 |

(5) 民生委員・児童委員の皆様がひきこもり支援のために必要と考える施策を教えてください。
(当てはまるもの全てに○をつけてください。※複数回答可)

- | | | |
|---------------------|------------------|------------------------|
| 1. 相談窓口の充実 | 7. 社会体験活動の提供 | 13. 学校や医療機関との連携 |
| 2. 相談窓口の周知・PR | 8. 就労支援 | 14. ひきこもり支援に関する地域の理解促進 |
| 3. 専門的な医療支援・カウンセリング | 9. 就学支援 | 15. その他 |
| 4. 家族支援 | 10. 金銭的支援 | 〔 〕 |
| 5. 訪問支援 | 11. NPO等支援団体の充実 | |
| 6. 居場所づくり | 12. 相談支援者のスキルアップ | |

(6) ひきこもりの状態から社会復帰した人を知っていますか。(どちらかに○をつけてください)

知っている ・ 知らない

(「知っている」を選んだ場合)
社会復帰のきっかけ等、何か知っていることがあれば教えてください。(無ければ空欄)

〔 〕

(7) 民生委員・児童委員の皆様が地域共生社会の実現に向けて地域に求めることを教えてください。(自由記述)

(1)で「いない」と回答された方については、調査は以上です。ご協力ありがとうございました。
単位地区民児協の会長へ提出してください。

(1)で「いる」と回答された方は別紙①へお進みください。

別紙①

(1)でいる」と回答した方は、(2)で回答した人数分の回答をお願いします。
 それぞれ該当する番号に○をつけてください。

※(2)で7名以上の人数を回答された方は、この用紙を2枚受け取り、記入してください。

性別	年齢	家族構成	外出状況	ひきこもりの状態に なってから期間	ひきこもりの状態に なった経緯、きっかけ	現在の支援状況	支援の希望の有無	必要な支援策	普段、自宅で よじていること	普段、通称手段で 利用しているもの	普段、悩み事を 相談する相手
1 1 男性 2 女性 3 その他 4 不明	1 15~19歳 2 20~29歳 3 30~39歳 4 40~49歳 5 50~59歳 6 60~69歳 7 70歳以上 8 不明	1 単身 2 父母 3 祖父母 4 兄弟姉妹 5 配偶者 6 子ども 7 その他 8 不明	1 自宅からは出るが家からは出ない 2 自宅からほとんど出ない 3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する 4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物に出かける 5 その他 6 不明	1 1年未満 2 1~3年未満 3 3~5年未満 4 5~10年未満 5 10~20年未満 6 20~30年未満 7 30年以上 8 不明	1 不登校(小・中・高・大) 2 受験がうまくいかなかった 3 就職活動がうまくいかなかった 4 職場になじめなかった 5 人間関係がうまくいかなかった 6 病気 7 妊娠 8 退職 9 介護・看護を担うことになった 10 その他・特になし 11 不明	1 受けている (具体的などのような 支援かわかれば 記入！) 2 受けていない 3 不明 4 その他 5 不明	1 本人と家族が希望 2 本人のみが希望 3 家族のみが希望 4 本人も家族も 希望していない 5 その他 6 不明	1 相談窓口の充実 2 専門的な医療支援や カウンセリング 3 家族支援 4 訪問支援 5 居場所づくり 6 社会活動活動の提供 7 就労支援 8 就学支援 9 金融的支援 10 その他 11 不明	1 テレビ 2 ラジオ 3 インターネット 4 読書 5 新聞を読む 6 家事 7 ゲーム 8 仕事 9 育児 10 介護・看護 11 勉強 12 特になし 13 その他 14 不明	1 電話 2 メール 3 FAX 4 SNS 5 その他 6 不明	1 父母 2 祖父母 3 兄弟姉妹 4 配偶者 5 友人・知人 6 支援者(カウンセラー 等) 7 ネット上の知り合い 8 誰にも相談しない 9 その他 10 不明
2 1 男性 2 女性 3 その他 4 不明	1 15~19歳 2 20~29歳 3 30~39歳 4 40~49歳 5 50~59歳 6 60~69歳 7 70歳以上 8 不明	1 単身 2 父母 3 祖父母 4 兄弟姉妹 5 配偶者 6 子ども 7 その他 8 不明	1 自宅からは出るが家からは出ない 2 自宅からほとんど出ない 3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する 4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物に出かける 5 その他 6 不明	1 1年未満 2 1~3年未満 3 3~5年未満 4 5~10年未満 5 10~20年未満 6 20~30年未満 7 30年以上 8 不明	1 不登校(小・中・高・大) 2 受験がうまくいかなかった 3 就職活動がうまくいかなかった 4 職場になじめなかった 5 人間関係がうまくいかなかった 6 病気 7 妊娠 8 退職 9 介護・看護を担うことになった 10 その他・特になし 11 不明	1 受けている (具体的などのような 支援かわかれば 記入！) 2 受けていない 3 不明 4 その他 5 不明	1 本人と家族が希望 2 本人のみが希望 3 家族のみが希望 4 本人も家族も 希望していない 5 その他 6 不明	1 相談窓口の充実 2 専門的な医療支援や カウンセリング 3 家族支援 4 訪問支援 5 居場所づくり 6 社会活動活動の提供 7 就労支援 8 就学支援 9 金融的支援 10 その他 11 不明	1 テレビ 2 ラジオ 3 インターネット 4 読書 5 新聞を読む 6 家事 7 ゲーム 8 仕事 9 育児 10 介護・看護 11 勉強 12 特になし 13 その他 14 不明	1 電話 2 メール 3 FAX 4 SNS 5 その他 6 不明	1 父母 2 祖父母 3 兄弟姉妹 4 配偶者 5 友人・知人 6 支援者(カウンセラー 等) 7 ネット上の知り合い 8 誰にも相談しない 9 その他 10 不明
3 1 男性 2 女性 3 その他 4 不明	1 15~19歳 2 20~29歳 3 30~39歳 4 40~49歳 5 50~59歳 6 60~69歳 7 70歳以上 8 不明	1 単身 2 父母 3 祖父母 4 兄弟姉妹 5 配偶者 6 子ども 7 その他 8 不明	1 自宅からは出るが家からは出ない 2 自宅からほとんど出ない 3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する 4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物に出かける 5 その他 6 不明	1 1年未満 2 1~3年未満 3 3~5年未満 4 5~10年未満 5 10~20年未満 6 20~30年未満 7 30年以上 8 不明	1 不登校(小・中・高・大) 2 受験がうまくいかなかった 3 就職活動がうまくいかなかった 4 職場になじめなかった 5 人間関係がうまくいかなかった 6 病気 7 妊娠 8 退職 9 介護・看護を担うことになった 10 その他・特になし 11 不明	1 受けている (具体的などのような 支援かわかれば 記入！) 2 受けていない 3 不明 4 その他 5 不明	1 本人と家族が希望 2 本人のみが希望 3 家族のみが希望 4 本人も家族も 希望していない 5 その他 6 不明	1 相談窓口の充実 2 専門的な医療支援や カウンセリング 3 家族支援 4 訪問支援 5 居場所づくり 6 社会活動活動の提供 7 就労支援 8 就学支援 9 金融的支援 10 その他 11 不明	1 テレビ 2 ラジオ 3 インターネット 4 読書 5 新聞を読む 6 家事 7 ゲーム 8 仕事 9 育児 10 介護・看護 11 勉強 12 特になし 13 その他 14 不明	1 電話 2 メール 3 FAX 4 SNS 5 その他 6 不明	1 父母 2 祖父母 3 兄弟姉妹 4 配偶者 5 友人・知人 6 支援者(カウンセラー 等) 7 ネット上の知り合い 8 誰にも相談しない 9 その他 10 不明

別紙①

(1)で「いる」と回答した方は、(2)で回答した人数分の回答をお願いします。
 それぞれ該当する番号に○をつけてください。

※(2)で7名以上の人数を回答された方は、この用紙を2枚受け取り、記入してください。

性別	年齢	家族構成	外出状況	ひきこもりの状態に なつてからの期間	ひきこもりの状態に なつた経緯(きっかけ)	現在の支援状況	支援の希望の有無	必要な支援策	普段、自宅で よけていること	普段、連絡手段で 利用しているもの	普段、悩み事を 相談する相手
1 男性	1 15～19歳	1 単身	1 自宅からは出るが家からは出ない	1 1年未満	1 不登校(小・中・高・大)	1 受けている (具体的なことのある支援がなければ記入)	1 本人と家族が希望	1 相談窓口の充実	1 テレビ	1 電話	1 父母
	2 20～29歳	2 父母	2 自宅からほとんど出ない	2 1～3年未満	2 受験がうまくいかなかった	2 受けていない	2 本人のみが希望	2 専門的な医療支援や カウンセリング	2 インターネット	2 メール	2 祖父母
	3 30～39歳	3 祖父母	3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する	3 3～5年未満	3 就職活動がうまくいかなかった	3 不明	3 家族のみが希望	3 家族支援	3 新聞・雑誌	3 FAX	3 兄弟姉妹
	4 40～49歳	4 兄弟姉妹	4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物には出かける	4 5～10年未満	4 職探しにうまくいかなかった	4 その他	4 本人も家族も 希望していない	4 居場所づくり	4 SNS	4 その他	4 配偶者
2 女性	1 15～19歳	1 単身	1 自宅からは出るが家からは出ない	1 1年未満	1 不登校(小・中・高・大)	1 受けている (具体的なことのある支援がなければ記入)	1 本人と家族が希望	1 相談窓口の充実	1 テレビ	1 電話	1 父母
	2 20～29歳	2 父母	2 自宅からほとんど出ない	2 1～3年未満	2 受験がうまくいかなかった	2 受けていない	2 本人のみが希望	2 専門的な医療支援や カウンセリング	2 インターネット	2 メール	2 祖父母
	3 30～39歳	3 祖父母	3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する	3 3～5年未満	3 就職活動がうまくいかなかった	3 不明	3 家族のみが希望	3 家族支援	3 新聞・雑誌	3 FAX	3 兄弟姉妹
	4 40～49歳	4 兄弟姉妹	4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物には出かける	4 5～10年未満	4 職探しにうまくいかなかった	4 その他	4 本人も家族も 希望していない	4 居場所づくり	4 SNS	4 その他	4 配偶者
3 その他	1 15～19歳	1 単身	1 自宅からは出るが家からは出ない	1 1年未満	1 不登校(小・中・高・大)	1 受けている (具体的なことのある支援がなければ記入)	1 本人と家族が希望	1 相談窓口の充実	1 テレビ	1 電話	1 父母
	2 20～29歳	2 父母	2 自宅からほとんど出ない	2 1～3年未満	2 受験がうまくいかなかった	2 受けていない	2 本人のみが希望	2 専門的な医療支援や カウンセリング	2 インターネット	2 メール	2 祖父母
	3 30～39歳	3 祖父母	3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する	3 3～5年未満	3 就職活動がうまくいかなかった	3 不明	3 家族のみが希望	3 家族支援	3 新聞・雑誌	3 FAX	3 兄弟姉妹
	4 40～49歳	4 兄弟姉妹	4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物には出かける	4 5～10年未満	4 職探しにうまくいかなかった	4 その他	4 本人も家族も 希望していない	4 居場所づくり	4 SNS	4 その他	4 配偶者
4 不明	1 15～19歳	1 単身	1 自宅からは出るが家からは出ない	1 1年未満	1 不登校(小・中・高・大)	1 受けている (具体的なことのある支援がなければ記入)	1 本人と家族が希望	1 相談窓口の充実	1 テレビ	1 電話	1 父母
	2 20～29歳	2 父母	2 自宅からほとんど出ない	2 1～3年未満	2 受験がうまくいかなかった	2 受けていない	2 本人のみが希望	2 専門的な医療支援や カウンセリング	2 インターネット	2 メール	2 祖父母
	3 30～39歳	3 祖父母	3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する	3 3～5年未満	3 就職活動がうまくいかなかった	3 不明	3 家族のみが希望	3 家族支援	3 新聞・雑誌	3 FAX	3 兄弟姉妹
	4 40～49歳	4 兄弟姉妹	4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物には出かける	4 5～10年未満	4 職探しにうまくいかなかった	4 その他	4 本人も家族も 希望していない	4 居場所づくり	4 SNS	4 その他	4 配偶者
5 その他	1 15～19歳	1 単身	1 自宅からは出るが家からは出ない	1 1年未満	1 不登校(小・中・高・大)	1 受けている (具体的なことのある支援がなければ記入)	1 本人と家族が希望	1 相談窓口の充実	1 テレビ	1 電話	1 父母
	2 20～29歳	2 父母	2 自宅からほとんど出ない	2 1～3年未満	2 受験がうまくいかなかった	2 受けていない	2 本人のみが希望	2 専門的な医療支援や カウンセリング	2 インターネット	2 メール	2 祖父母
	3 30～39歳	3 祖父母	3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する	3 3～5年未満	3 就職活動がうまくいかなかった	3 不明	3 家族のみが希望	3 家族支援	3 新聞・雑誌	3 FAX	3 兄弟姉妹
	4 40～49歳	4 兄弟姉妹	4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物には出かける	4 5～10年未満	4 職探しにうまくいかなかった	4 その他	4 本人も家族も 希望していない	4 居場所づくり	4 SNS	4 その他	4 配偶者
6 不明	1 15～19歳	1 単身	1 自宅からは出るが家からは出ない	1 1年未満	1 不登校(小・中・高・大)	1 受けている (具体的なことのある支援がなければ記入)	1 本人と家族が希望	1 相談窓口の充実	1 テレビ	1 電話	1 父母
	2 20～29歳	2 父母	2 自宅からほとんど出ない	2 1～3年未満	2 受験がうまくいかなかった	2 受けていない	2 本人のみが希望	2 専門的な医療支援や カウンセリング	2 インターネット	2 メール	2 祖父母
	3 30～39歳	3 祖父母	3 普段は家にいるが自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する	3 3～5年未満	3 就職活動がうまくいかなかった	3 不明	3 家族のみが希望	3 家族支援	3 新聞・雑誌	3 FAX	3 兄弟姉妹
	4 40～49歳	4 兄弟姉妹	4 普段は家にいるが近所の コンビニ等に買い物には出かける	4 5～10年未満	4 職探しにうまくいかなかった	4 その他	4 本人も家族も 希望していない	4 居場所づくり	4 SNS	4 その他	4 配偶者

調査は以上です。ご協力ありがとうございます。単位地区民児協の会長へ提出してください。

民生委員・児童委員に対するひきこもり実態調査報告書

発行：三重県

発行年月：令和3年12月

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

電話 059-224-2256

[調査委託先]

三重県民生委員児童委員協議会

〒514-8552

三重県津市桜橋2丁目131

電話 059-227-5145